

西部緑地公園 再整備構想

令和6年3月

石川県

はじめに

西部緑地公園は、昭和40年代に産業展示館及び県立野球場を備えた公園として整備され、その後、県民や業界のニーズを踏まえ、陸上競技場の整備や産業展示館の増設など、拠点機能の充実強化を図ってきました。一方、段階的に整備を進めてきた結果、施設や駐車場の配置、園内動線が分かりにくいといった課題があるほか、産業展示館及び県立野球場については、築後45年以上が経過し、老朽化が進行しています。

こうしたことを踏まえ、約半世紀という西部緑地公園の歴史の節目に、県内外からアクセスに恵まれた現在地において、県立野球場及び産業展示館を建て替えるとともに、園内施設の再配置等を行うこととし、再整備の指針となる構想を策定することとしました。

構想の検討にあたっては、造園や交通を専門とする学識経験者をはじめ、多種多様な分野の有識者の方々に構成される検討委員会のほか、県立野球場及び産業展示館については、それぞれ検討部会を別途設け、議論を重ねてきました。また、県議会でのご議論や県民・民間事業者の方々からもご意見をいただきながら、策定作業を進めてきました。

この構想では、新たな西部緑地公園の全体コンセプトを「心地よい緑と夢の空間」としています。人々の憩いの場という公園の原点に立ち返り、「緑豊かな憩い・安らぎ空間」を中心に据え、「スポーツ空間」「イベント空間」「賑わい交流空間」といった3つの機能を融合させ、「心地よい緑の中、多彩なスポーツ、イベントが楽しめ、一人ひとりが幸せを実感できる新しい公園」にしたいと考えております。

再整備により、「スポーツとイベントの拠点」として長らく県民に親しまれてきた西部緑地公園の機能や利便性をより一層高め、県内外から多くの人々が訪れる、更なる賑わいの拠点とします。



目次

第1章 西部緑地公園の沿革と現状・課題	1
1.1 沿革.....	1
1.2 現状.....	4
1.2.1 園内施設.....	4
1.2.2 県立野球場.....	5
1.2.3 産業展示館.....	6
1.2.4 緑地.....	7
1.2.5 植栽.....	8
1.2.6 園内道路.....	10
1.2.7 立地の特性.....	11
1.3 上位関連計画、敷地の法規制等.....	13
1.3.1 上位関連計画.....	13
1.3.2 敷地の法規制等.....	17
1.4 利用状況（平成30年度～令和4年度） ※いしかわ総合スポーツセンター及びテニスコートは除く.....	18
1.4.1 公園全体.....	18
1.4.2 県立野球場.....	19
1.4.3 産業展示館（1～4号館）.....	20
1.4.4 陸上競技場.....	23
1.4.5 緑地・多目的広場.....	23
1.4.6 駐車場.....	24
1.5 大規模イベント開催時の混雑状況.....	25
1.5.1 周辺道路.....	25
1.5.2 公園出入口.....	26
1.6 課題.....	27
第2章 県民等アンケート調査	29
2.1 県民向け.....	29
2.2 公園利用者向け.....	33
第3章 民間活力の導入（マーケットサウンディング調査）	34
第4章 西部緑地公園再整備の視点・コンセプト	36
4.1 視点.....	36
4.2 コンセプト.....	37
4.3 導入機能.....	39
4.4 ゾーニング計画.....	41
4.5 動線計画.....	42

第5章 整備の方向性（公園施設）	43
5.1 緑地・緑陰空間、芝生広場、親水空間、築山	43
5.2 アーバンスポーツエリア	44
5.3 ランニングロード	45
5.4 多目的広場、ソフトボール場	47
5.5 屋外遊具、屋内こども遊戯施設	48
5.6 便益施設（飲食店舗等）	50
5.7 園内動線	51
5.8 駐車場	52
5.9 混雑緩和対策	53
第6章 整備の方向性（新県立野球場）	54
6.1 野球競技を取り巻く環境	54
6.2 コンセプト	58
6.3 整備の方向性	59
第7章 整備の方向性（新産業展示館）	74
7.1 展示産業を取り巻く環境	74
7.2 コンセプト	78
7.3 整備の方向性	79
第8章 施設配置等	88
8.1 配置計画図	88
8.2 イメージパース	89
8.3 今後の対応	89

第1章 西部緑地公園の沿革と現状・課題

1.1 沿革

西部緑地公園は、昭和48年の日本海博覧会や昭和60年の全国高等学校総合体育大会、平成6年の全国菓子大博覧会など、その時々の大規模イベントの開催を契機に、敷地を段階的に拡張しながら機能を拡充してきました。

■公園の敷地拡張

①昭和47～49年日本海博覧会前後



②昭和56～61年全国高等学校総合体育大会前後



③平成4～6年全国菓子大博覧会前後



④平成10～20年スポーツ施設の移転



過去の航空写真（国土地理院_空中写真）を確認したところ、公園整備前は田畑であったことが分かります。



昭和36～44年 公園整備前



昭和49～53年 当初整備



平成19年 いしかわ総合スポーツセンター整備中

■ 整備年表

年	月	出来事
昭和47	6	石川県産業展示館（現2号館）完成
		<ul style="list-style-type: none"> ・北陸自動車道小松一金沢西IC開通(昭和47年10月) ・国道8号金沢バイパス開通(昭和47年12月) ・日本海博覧会開催(昭和48年8～10月)
昭和48	11	総合運動公園として都市計画決定
昭和49	3	石川県産業展示館2号館（現3号館）完成
〃	6	県立野球場完成 ※兼六園野球場（昭和48年閉鎖）を移転
昭和55	8	名称を「西部公園」から「西部緑地公園」に変更
昭和56	8	石川県産業展示館3号館（現1号館）完成 ※既存館の利用者増と催事の大型化に対応
昭和59	5	陸上競技場、補助競技場、投てき場完成
		<ul style="list-style-type: none"> ・全国高等学校総合体育大会開催(昭和60年8月)
昭和61	4	石川県産業展示館2号館（現3号館）増築
平成4	5	石川県産業展示館4号館（第1期）完成
平成6	3	石川県産業展示館4号館（第2期）完成
		<ul style="list-style-type: none"> ・全国菓子第博覧会開催(平成6年4～5月)
平成10	4	テニスコート完成 ※兼六テニスコートを移転
平成20	3	いしかわ総合スポーツセンター完成 ※県立体育館を移転
令和3	9	県が県立野球場及び産業展示館の建て替え、園内施設の再配置着手を表明



昭和49年完成 石川県産業展示館（現3号館）



昭和56年完成 石川県産業展示館（現1号館）



平成6年完成 石川県産業展示館（現4号館）



昭和49年完成 県立野球場



昭和59年完成 陸上競技場



平成20年完成 いしかわ総合スポーツセンター

1.2 現状

1.2.1 園内施設

項目	概要
名称	西部緑地公園
都市計画決定	昭和48年11月
公園種別	運動公園
所在地	金沢市袋島町、古府町、北塚町、稚日野町
敷地面積	約54.8ha
主要施設	県立野球場、産業展示館1～4号館、陸上競技場、補助競技場、投てき場、テニスコート、いしかわ総合スポーツセンター
駐車台数	4,062台
アクセス	自動車：北陸自動車道（金沢西IC）から約5分 路線バス：JR金沢駅発 約20分、約30分
用途地域	市街化調整区域（容積率200%）
主な規制事項	周知の埋蔵文化財包蔵地

再整備の対象範囲は、産業展示館4号館、陸上競技場、補助競技場、テニスコート、いしかわ総合スポーツセンターを除く約48.8ha（下図参照）とします。



1.2.2 県立野球場

現在の県立野球場は、金沢市石引にあった兼六園野球場を閉鎖し、昭和49年に西部緑地公園内に建設されました。昭和56年には日本海側初となる本格的な夜間照明施設（6基）を整備し、その後、スコアボードの改修（平成2年に得点の電光化、平成9年にメッセージボードなど完全電光化）を行いました。

これまでにNPB（一般社団法人日本野球機構）の公式戦が110試合以上開催されてきたほか、数多くの県内高校野球公式大会の試合が行われるなど、プロ、アマを問わず利用され、野球ファンに親しまれています。

■施設諸元

敷地面積	20, 179㎡	
建築面積	7, 137. 76㎡	
(内 訳)	スタンド	4, 532. 20㎡
	事務室	474. 91㎡
	倉庫	1, 504. 63㎡
	機械室兼電気室	151. 11㎡
	倉庫	474. 91㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造2階建	
グラウンド規格	両翼	91. 5m
	中堅	122m
	グラウンド面積	14, 066㎡
グラウンド仕様	内野	クレー
	外野	天然芝
	ブルペン	屋内2レーン
照明設備	6基（鉄骨造、高さ37. 4m、各124灯）	
収容人数	17, 126席（内野11, 126席、外野6, 000席）	
座席仕様	内野ネット裏	セパレート席
	一・三塁側	ベンチ席
	外野	コンクリート階段

1.2.3 産業展示館

産業展示館は、県民や事業者から「産展（さんてん）」という名称で親しまれ、地元産業界の展示会や販売会、様々なイベントなどで幅広く利用されています。また、1～4号館を合わせた総展示面積は約17,700㎡と、地方都市では屈指の規模を有しています。

■施設諸元

項目	1号館	2号館	3号館	4号館
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、屋根鉄骨造、長尺カラー鉄板、瓦棒葺き、2階建て			
建築面積	4,422㎡	3,015㎡	8,008㎡	9,160㎡
展示面積	3,193㎡	1,641㎡	6,209㎡	6,675㎡
延床面積	5,134㎡	4,145㎡	8,987㎡	10,530㎡
展示空間	無柱			
天井高	10m	10m	東15.5m 西10m	8～19m
床耐荷重	1.5t/㎡	0.7～1.5 t/㎡	1.5～5.5 t/㎡	1.5t/㎡
諸室	商談室2室 会議室1室	商談室2室 会議室2室 多目的室1室	主催者室1室 商談室4室 会議室2室	主催者室2室 商談室4室 会議室3室

※その他、2号館及び4号館前に屋外展示場あり

■展示面積

総面積（1～4号館計）：17,718㎡

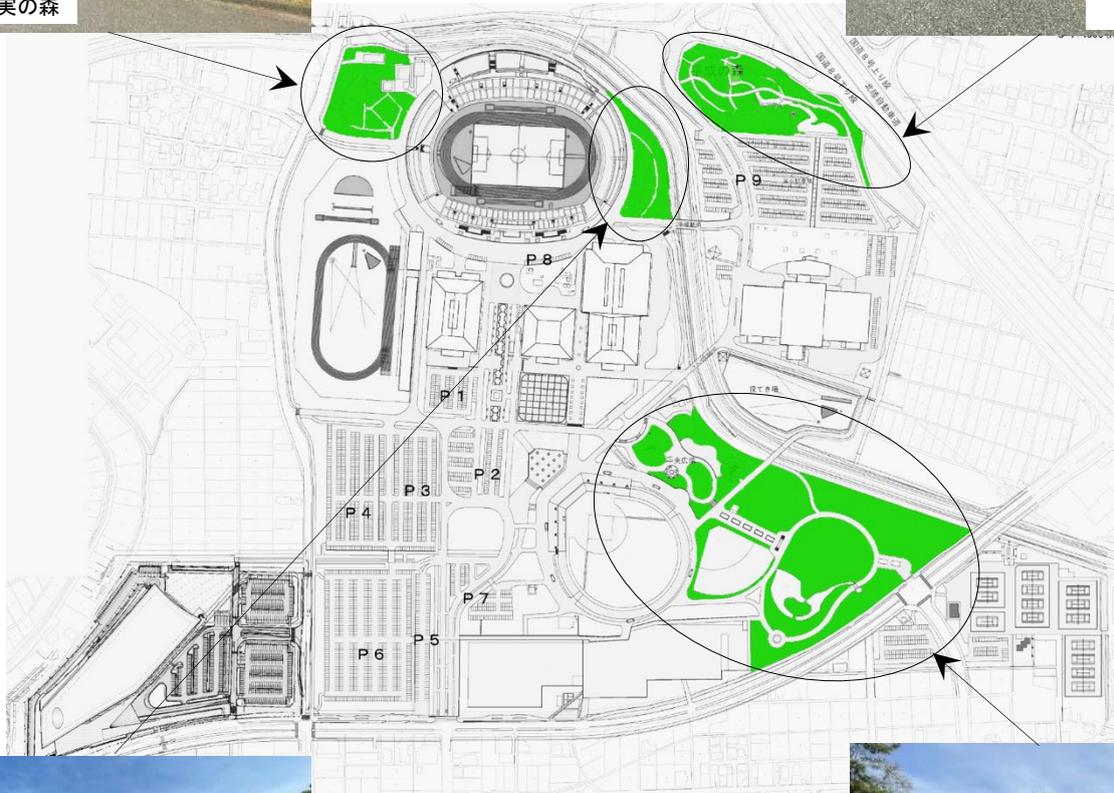
■延床面積

総面積（1～4号館計）：28,796㎡

1.2.4 緑地

敷地を段階的に拡張してきた結果、緑地等が園の端に分散し、あまり利用されていません。また、遊具も少ないため、県民の憩いの場・子どもの遊び場としての魅力が乏しい状況です。

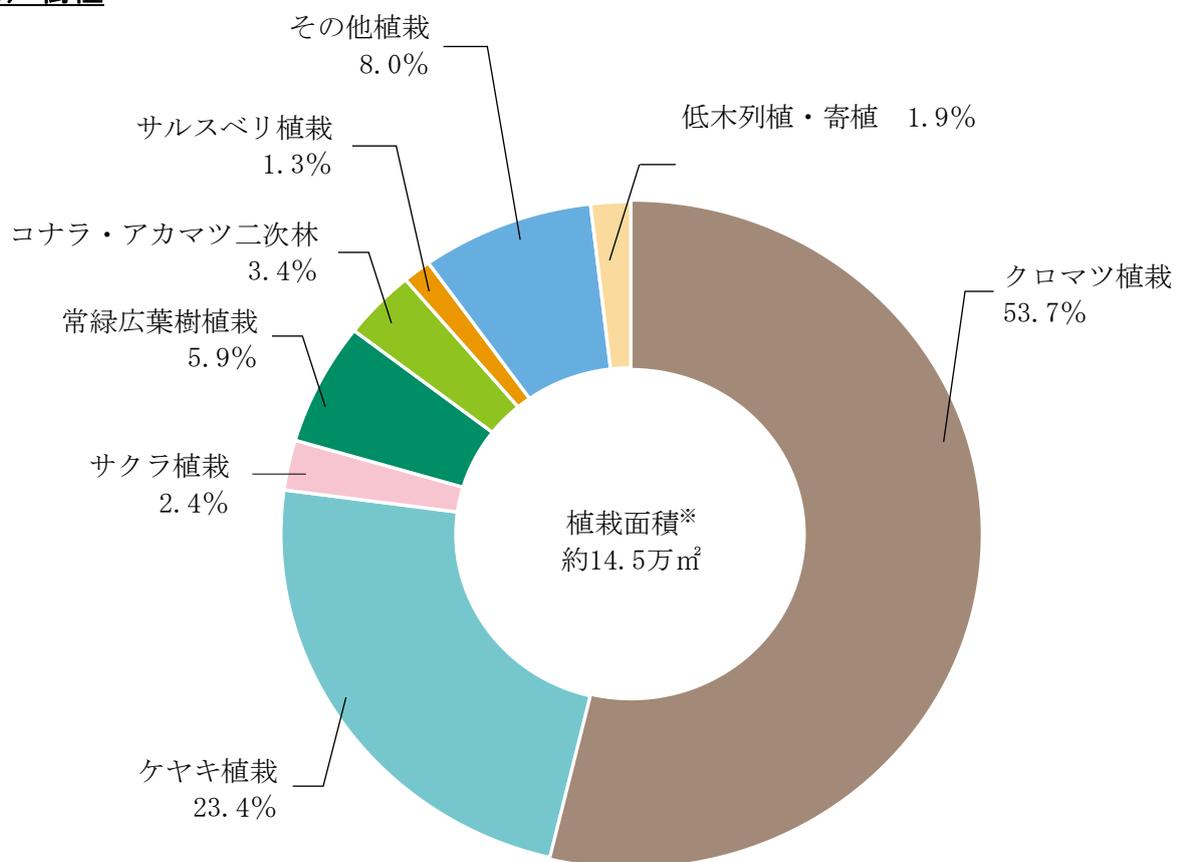
■分散している緑地



遊具が少なく
幅広い年代の子どもが利用できない

1.2.5 植栽

(1) 樹種



※いしかわ総合スポーツセンター及びテニスコートを除く

植栽面積※は約14.5万㎡となっており、公園の敷地面積の約3割に相当します。樹種は限定的で、植栽面積の半分以上がクロマツとなっています。



他の樹木に覆い被さるよう成長したクロマツ

(2) 分布

公園の外縁や園内施設を囲むようにクロマツが植栽され、樹高20m程度となっており、園内が鬱蒼とし、見通しが悪い状況となっています。なお、クロマツは、公園の造成・拡張時、防風林として人為的に植えられたことが分かっています。

産業展示館及び芝生広場周辺には、主にケヤキが植栽され、部分的にサクラや常緑広葉樹、コナラ・アカマツ等が植栽されています。

『クロマツ』植栽
主にクロマツが優占した植栽

【その他植樹】
ケヤキ、サクラ、ケヤキ、サクラ、
スダジイ、タブノキ キョウチクトウ、
イロハモミジ、マテバシイ、シラカシ、
タラコウ、ウバメガシ、マサキ、
シャリンバイ等



『ケヤキ』植栽
主にケヤキが優占した植栽

【その他植樹】
サクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ、
エノキ、ヤマナラシ、キョウチクトウ、
イロハモミジ、ウバメガシ、マサキ、
シャリンバイ、アベリア等



『サクラ類』植栽
主にサクラが優占した植栽

【その他植樹】
ケヤキ、イロハモミジ、コリンゴ、
キョウチクトウ、マサキ、トベラ等



『常緑広葉樹』植栽
主に常緑広葉樹が優占した植栽

【主な樹種】スダジイ、シラカシ
【その他植樹】
タブノキ、ケヤキ、サクラ、ツバキ、
タラコウ、ウバメガシ、マサキ等



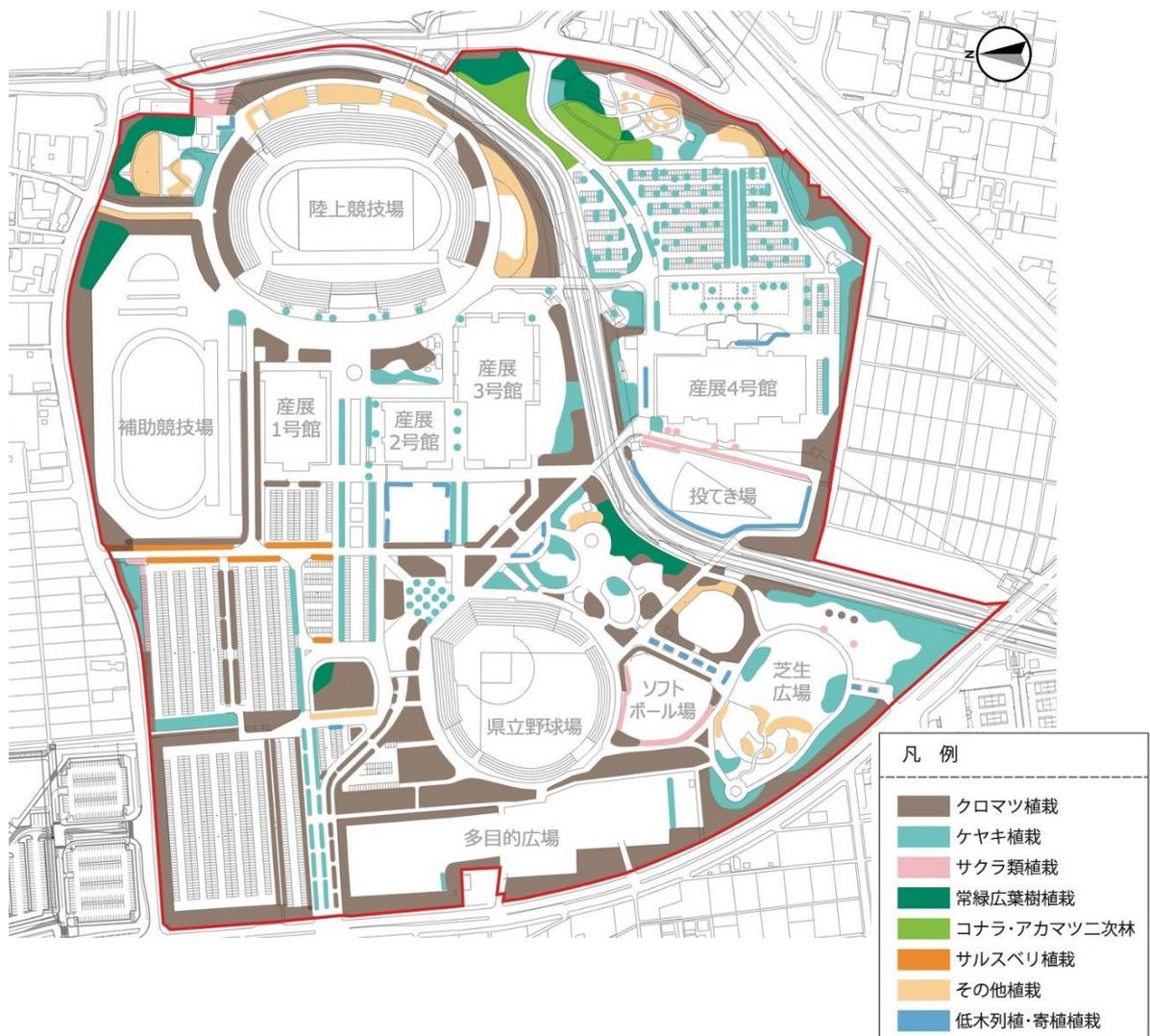
『コナラ・アカマツ』二次林
主にコナラ、アカマツが優占した二次林

【その他植樹】
アカメカシワ、ニセアカシア、
ムラサキキブ、ヒサカキ、ミズキ等



『サルスベリ』植栽
主にケヤキが優占した植栽

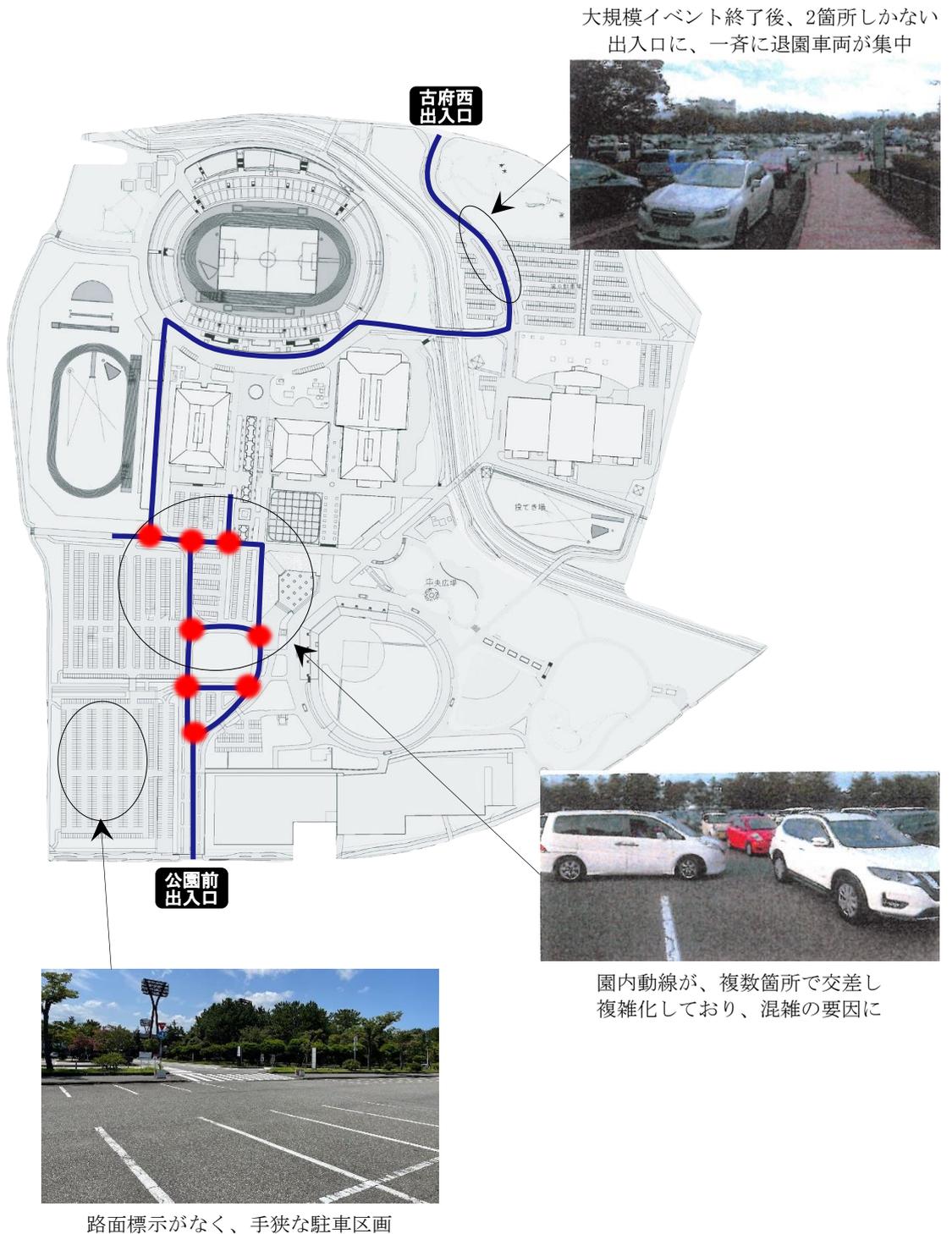
【その他植樹】
サクラ、スダジイ、タブノキ、クロマツ、
エノキ、ヤマナラシ、キョウチクトウ、
イロハモミジ、ウバメガシ、マサキ、
シャリンバイ、アベリア等

1.2.6 園内道路

園路が所々で交差・屈折しており、園内動線が複雑になっています。また、車両動線と歩行者動線が複数箇所で見交差しており、円滑な通行の妨げになっています。園路や駐車場には案内標識や路面標示等が少なく、混雑を助長しています。

■ 輻輳した園内道路



1.2.7 立地の特性

(1) 交通アクセス

① 自動車

県立野球場、陸上競技施設及び産業展示館1～3号館の利用者は、主に主要地方道金沢美川小松線上にある「西部緑地公園前」出入口を利用しており、産業展示館4号館の利用者は、主に一般県道上安原昭和町線上にある「古府西」出入口を利用しています。

市道専光寺・袋島線上には臨時出入口がありますが、大規模イベント開催時のみ園内の混雑緩和のため開放され、普段は閉鎖しています。なお、公園南側を走る国道8号から直接公園内に入内することはできません。



② 路線バス

JR金沢駅を起点に路線バスが2系統（52系統「示野線」、56系統「西部緑地線」）運行しているものの、便数が少ないため、利便性は高くありません。なお、公園付近を通る51、54系統「安原線」については、ある程度の便数があります。

■52系統「示野線」

〈下車バス停名〉

袋島西部緑地公園前

〈JR金沢駅からの所要時間〉

約17分

〈便数〉

平日：4本（往復）/日

※北陸鉄道バス時刻表2023年10月1日改正版



■56系統「西部緑地線」

〈下車バス停名〉

西部緑地公園

〈JR金沢駅からの所要時間〉

約40分

〈便数〉

平日：5本（往復）/日

休日：3本（往復）/日

※北陸鉄道バス時刻表2023年10月1日改正版



[参考]公園付近を經由する便

■51系統、54系統「安原線」

〈下車バス停名〉

松島北又はJA二塚支店前

〈JR金沢駅からの所要時間〉

約30分

〈便数〉

平日：（金沢駅→松島北等） 14本/日

（松島北等→金沢駅） 39本/日

休日：（金沢駅→松島北等） 8本/日

（松島北等→金沢駅） 25本/日

※北陸鉄道バス時刻表2023年10月1日改正版



(2) 天候

西部緑地公園がある金沢市は、1年の約半分（177.3日/年）が雨天となっています。東京都と比較すると、年間の日照時間が約1割短く、降水量は約3割多くなっています。

年間降水日数

順位	都市名	日数
1位	富山市	178.3
2位	金沢市	177.3
3位	秋田市	173.8
4位	新潟市	171.5
5位	福井市	171.4
6位	青森市	162.4
7位	鳥取市	158
8位	松江市	148.9
9位	札幌市	143.5
10位	山形市	136.7
11位	盛岡市	126.3
12位	那覇市	123.9
13位	鹿児島市	120.6
14位	宮崎市	117.5
15位	大津市	114.6
16位	山口市	114.5
17位	岐阜市	112.6
18位	福岡市	112.6

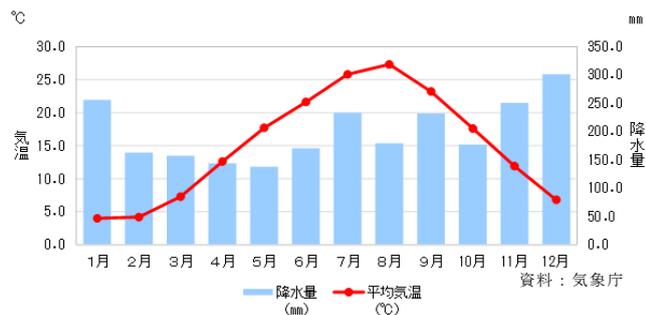
「1mm以上」の降水量を観測する年間平年日数
気象庁平年値1991～2020年（30年間）の平均値

金沢 平均値（1991～2020）

月	平均気温 (°C)	降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	日照時間 合計(時間)	平均風速 (m/s)	最多風向
1月	4.0	256.0	27	62.3	4.7	南南西
2月	4.2	162.6	22	86.5	4.5	東北東
3月	7.3	157.2	7	144.8	4.3	東北東
4月	12.6	143.9	0	184.8	4.1	東北東
5月	17.7	138.0	—	207.2	3.7	東北東
6月	21.6	170.3	—	162.5	3.4	東北東
7月	25.8	233.4	—	167.2	3.5	南西
8月	27.3	179.3	—	215.9	3.4	東北東
9月	23.2	231.9	—	153.6	3.5	東北東
10月	17.6	177.1	—	152.0	3.6	東北東
11月	11.9	250.8	0	108.6	4.1	東北東
12月	6.8	301.1	11	68.9	4.8	南南西
年	15.0	2,401.5	32	1,714.1	4.0	東北東

【参考】東京の平均値（1991～2020）

降水量：1,598.2mm、日照時間：1,926.7時間



資料：気象庁

1.3 上位関連計画、敷地の法規制等

1.3.1 上位関連計画

本公園の再整備に関連する上位関連計画の内容は、以下のとおりです。

1. 石川県成長戦略（令和5年9月策定 計画期間：令和14年度まで）	
産展	戦略1 新たな時代を捉えて飛躍・成長する産業づくり 施策5 国内外への販路拡大・魅力発信 4) 西部緑地公園の再整備（次世代型産業展示館の整備） 産業成長のための展示機能の強化と公園のにぎわい空間の創出に向けて、次世代型産業展示館を整備します。
野球	戦略3 個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくり 施策2 スポーツを通じた活力の創造 (5) 西部緑地公園の再整備（県立野球場の建替） 石川県の高校野球の聖地としても相応しい魅力を備えた、「子どもたちが夢と希望を抱き、にぎわいの拠点となる野球場」を目指し、県立野球場の建替え整備を進めます。
公園	戦略3 個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくり 施策2 スポーツを通じた活力の創造 (3) スポーツの裾野拡大・地域活性化 ② アーバンスポーツの振興によるスポーツの裾野拡大 若者のスポーツ離れが懸念される中、東京オリンピックを機に、若者の関心や人気が高まっているアーバンスポーツを振興し、アーバンスポーツの聖地を目指します。 ・西部緑地公園内へのアーバンスポーツ施設の設置 施策6 個性豊かな地域づくり (2) 西部緑地公園の再整備（県立野球場及び産業展示館の建替えに併せた園全体の再整備） 緑豊かな心地よい空間と多彩なスポーツ・イベントが楽しめる夢の空間を創出し、さらなるにぎわい創出を図ります。 【KPI】西部緑地公園の年間利用者数 基準値：190万人（H29～R1年度の平均） →目標値（R14年度）：240万人以上 (6) 地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまちづくり 持続可能なにぎわいのある集約型まちづくりや、安心して快適に移動できるみちづくり、緑と水の空間の創造と利活用の充実など、地域の魅力を活かしながら、にぎわいのあるまちづくりを推進します。 ・公園のリニューアルや管理運営への民間活力の導入 戦略6 安全・安心かつ持続可能な地域づくり 施策1 災害に負けない強靱な県土づくり (2) 災害に強いまちづくり ① 市街地防災力の向上 地震・津波、風水害・雪害及び大規模火災などといった災害から住民の生命・生活を守るため、市街地の防災力向上に取り組みます。 ・防災拠点となる都市公園の整備

※**産展**：新産業展示館、**野球**：新県立野球場の略称として記載

2. 石川中央地域 広域都市圏マスタープラン (平成30年7月策定 目標年次：概ね20年後)	
公園	3)地域構造の基本方針 (3) 地域の拠点 ②レクリエーション拠点 金沢城公園、西部緑地公園、奥卯辰山健民公園、手取公園、健民海浜公園、松任海浜公園、石川県森林公園等の公園緑地はレクリエーション拠点として位置付け、地域住民の憩いの場、交流の場として整備・充実し、適切な維持管理に努めるほか、防災拠点としての活用を図る。
3. 石川県地域防災計画 石川県避難計画要綱 参考資料1 避難先 (令和元年5月改定)	
公園	・陸上競技場は「羽咋市邑知地区」の避難者受入予定施設に設定されている。
4. 石川県災害時受援計画 (令和元年5月策定)	
公園	・西部緑地公園は「応援部隊の活動拠点候補地」に選定されている。 ・第6駐車場は「緊急消防援助隊 飛行場外離着陸場 (航空法第79条申請済)」に指定されている。
産展	・産業展示館は「広域物資輸送拠点候補地」及び「地域内輸送拠点候補地」に選定されている。
5. 第3期石川の教育振興基本計画 (令和3年3月策定 目標年次：令和7年度)	
6. 石川県スポーツ推進計画2021 (令和3年3月策定 目標年次：令和7年度)	
野球	【スポーツ施設の整備・充実】 ・老朽化が進行している県立野球場は、建て替えに向けた検討を進めます。
公園	【スポーツ施設の整備・充実】 ・県有のスポーツ施設については、長寿命化対策などにより、県民のスポーツ活動の基礎としての機能の維持や充実のほか、多種多様化するスポーツに対し、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、全ての人々が気軽に、安全かつ快適にスポーツに参画できるよう努めます。

※**産展**：新産業展示館、**野球**：新県立野球場の略称として記載

7. 西部緑地公園 中期経営目標

(令和5年3月策定 実施期間：令和5年度～令和9年度)

公園

1 施設の設置目的

都市公園は、緑のオープンスペースによる都市の景観や環境の維持・向上を図るとともに、良質な生活基盤として県民の利用に供することにより、まちなかの賑わい創出や健康福祉などに寄与することを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

西部緑地公園は、金沢市の西方に位置する本県を代表する運動公園です。広大な敷地の中には、野球場、陸上競技場、産業展示館、スポーツセンター、テニスコート等のほか、芝生広場、多目的グラウンド等も整備されています。本公園は、多様なスポーツの殿堂として、また、総合的なイベント会場として、健康運動、休息といった、県民の多様なレクリエーション需要に応えることを役割としています。

3 事業内容

(1) 良好な景観や環境の保全・創出

園地や施設の整備と良好な管理により、公園景観を保全し、緑豊かな快い環境を創出します。

(2) 野外におけるレクリエーション活動の場の提供

多目的グラウンドやソフトボール場での軽スポーツや芝生広場、遊戯施設を活用したレクリエーション活動、散策やジョギング等の野外活動の場を提供します。

(3) 県民参加による交流の場

公園内の展示施設や競技施設等で開催されるイベントの参加者の交流の場を提供します。

8. 石川県立野球場 中期経営目標
 (令和5年3月策定 実施期間：令和5年度～令和9年度)

野球	<p>1 施設の設置目的 県立野球場は、本県における野球競技の中核的拠点施設であり、「競技力の向上」や「県民がより野球に親しみやすい環境づくり」を目指すことを目的としています。</p> <p>2 施設の果たすべき役割 県立野球場は、周辺に複数のスポーツ施設が集積する県西部緑地公園の区域内に所在し、他施設とともに県内スポーツの一大拠点を形成しています。 本施設は、昭和49年に開設されて以来、本県の野球競技の中核的拠点施設として、プロ野球公式戦の開催や県内の高等学校野球大会の主会場として利用されているほか、学童野球からシニア早朝野球まで幅広く利用されるなど、県民がより野球に親しみやすい環境を提供することを、その役割としています。</p> <p>3 事業内容 (1) 野球競技の振興 社会人野球、学生野球及び高校野球等で、北信越大会や県レベルの大会の主会場として利用されています。 (2) プロ野球公式戦の開催 収容人員1万7千人超の観客席を備え、プロ野球（NPB）公式戦がほぼ毎年開催され、プロ選手の高いレベルのプレーを観戦することができます。 (3) 生涯スポーツの場 学童野球やボーイズリーグ、リトルリーグからシニア早朝野球まで、幅広い年齢層の選手が野球をプレーする場としても利用されています。</p>
-----------	--

9. 石川県産業展示館 中期経営目標
 (令和5年3月策定 実施期間：令和5年度～令和9年度)

産展	<p>1 施設の設置目的 展示会等の会場を提供し、本県の産業の振興を図ることを目的としています。</p> <p>2 施設の果たすべき役割 本県の主要産業である機械、繊維、食品、IT産業の工業製品や特産品の展示会、新製品の発表会等に会場を提供し、販路拡大等を通じて、本県産業の振興を図ることを役割としています。</p> <p>3 事業内容 貸館業務 産業展示館1～4号館を、展示会・見本市等の主催者に対して有料で貸し出ししています。</p>
-----------	---

※**産展**：新産業展示館、**野球**：新県立野球場の略称として記載

1.3.2 敷地の法規制等

敷地の法規制等に関連する主な内容は、以下のとおりです。

種別		法規制など
都市公園法	建築面積率（建蔽率）	12%以下
	運動施設面積率	50%以下
都市計画法	区域区分	市街化調整区域
	建蔽率	60%
	容積率	200%
	地区指定	指定なし
景観法	景観計画	<ul style="list-style-type: none"> ■景観計画 <ul style="list-style-type: none"> ・敷地の一部が「重要広域幹線景観形成区域（北陸自動車道沿道）」に指定されているため、建築物・工作物の届出、良好な景観形成のための行為の制限あり ■屋外広告物 <ul style="list-style-type: none"> ・敷地の一部が「第5種禁止地域 禁止道路沿線（北陸自動車道）」に指定されているため、広告板及び広告塔、野立広告物に制限あり ■夜間景観 <ul style="list-style-type: none"> ・「自然環境地域」に指定されているため、照明環境基準あり
文化財保護法	周知の埋蔵文化財包蔵地	敷地内に5つ（袋島、古府カタガリ、古府クルビ、北塚B遺跡、北塚古墳群等）の指定あり
建築基準法	日影制限	4.0h（水平距離10m以内） 2.5h（水平距離10m以上） ※10mを超える建築物
	斜線制限（道路）	20m以上
	斜線制限（隣地）	20m以上／斜線勾配1.25
土壌汚染対策法	土地の形質変更	3,000㎡以上の土地の形質変更の場合は届出が必要
その他	興行場法	設置場所、構造、設備に関する基準あり
	バリアフリー法	国ガイドライン及び県条例に基づき配慮必要
	石川県県産材利用促進条例	県が実施する公共建築物の整備等においては、原則県産材を利用することが求められる
	ハザード関連	犀川・伏見川の浸水想定区域指定有り
	占用関連	送電線鉄塔、電柱等あり

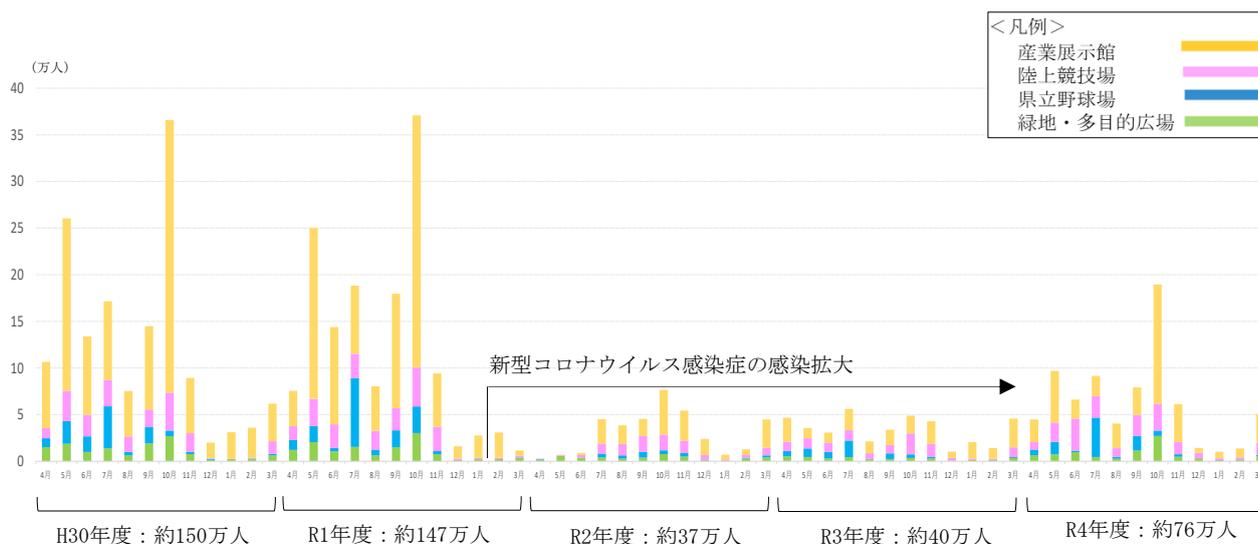
1.4 利用状況（平成30年度～令和4年度） ※いしかわ総合スポーツセンター及びテニスコートは除く

1.4.1 公園全体

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和元年度まで）は、公園全体で年間約150万人の利用があり、その約7割が産業展示館の利用者となっています。

月別では、10月は天候が良く大規模イベントの開催が集中するため利用者数が最も多く、次いで5月、7月の順に利用者数が多くなっています。一方、天候が悪い冬期は利用者数がとても少なくなっています。

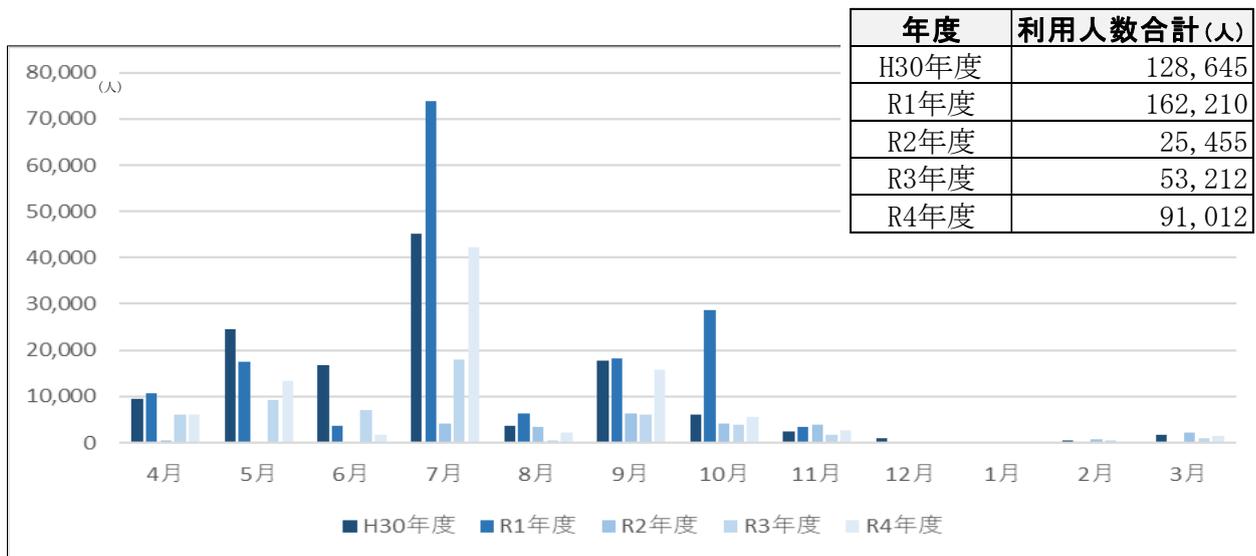
コロナ禍の令和2年度、3年度は利用者数が急減したものの、令和4年度は大規模イベントの開催が再開され、徐々に利用者が戻ってきています。



区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
公園全体	約150万人	約147万人	約37万人	約40万人	約76万人
県立野球場	約13万人 (8.7%)	約16万人 (10.9%)	約3万人 (8.1%)	約5万人 (12.5%)	約9万人 (11.8%)
産業展示館	約103万人 (68.7%)	約97万人 (66.0%)	約21万人 (56.8%)	約21万人 (52.5%)	約40万人 (52.6%)
陸上競技場	約21万人 (14.0%)	約21万人 (14.3%)	約9万人 (24.3%)	約11万人 (27.5%)	約18万人 (23.7%)
緑地・多目的広場	約13万人 (8.7%)	約13万人 (8.8%)	約4万人 (10.8%)	約3万人 (7.5%)	約9万人 (11.8%)

1.4.2 県立野球場

高校野球の大会が開催される5月、7月は利用者数が多い一方、12月から3月までの冬期は天候が悪く利用者数が少なくなっています。



■主な大規模イベント(平成30年度実績)

イベント名	開催頻度	開催月	利用者数
プロ野球	1回(1日)/年	5月	約9,800人/日
北信越地区高等学校野球石川県大会決勝	1回(1日)/年	5月	約6,600人/日
全国高等学校野球選手権石川大会決勝	1回(1日)/年	7月	約6,300人/日

■利用件数(層別)

利用件数については、「高校生以下」の利用件数が最も多く、全体の5割以上を占めています。

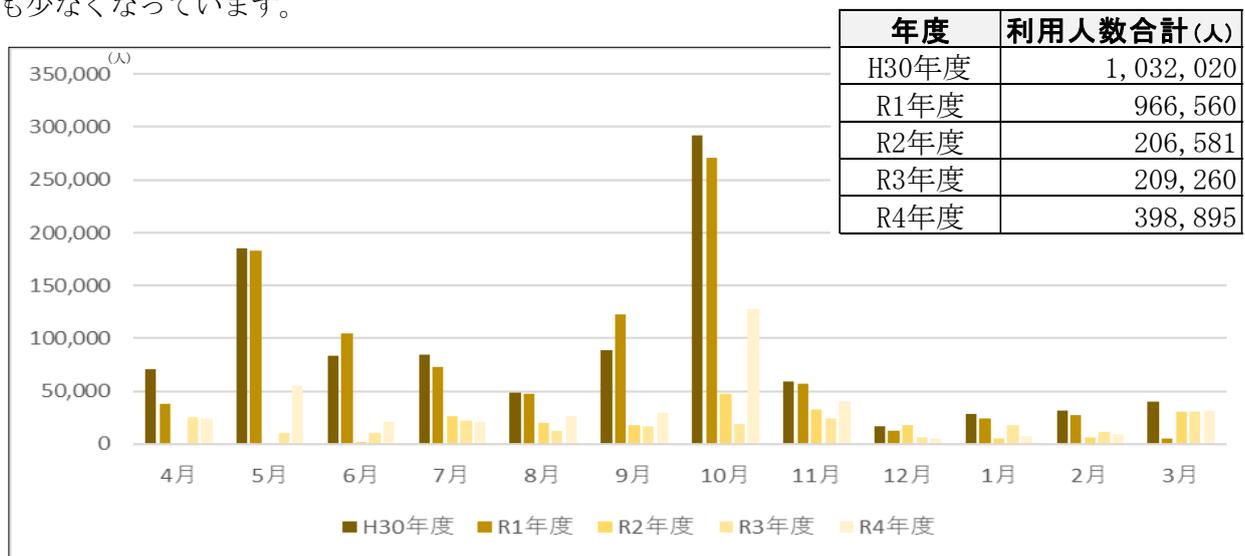
(単位: 件、%)

項目	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	平均	コロナ禍前の平均
高校生以下	88	69	83	50	48	56	66 (53.7%)	80 (56.3%)
大学生	30	25	17	18	23	30	24 (19.5%)	24 (16.9%)
NPB	3	9	3	0	6	0	4 (3.3%)	5 (3.5%)
独立リーグ	12	15	0	15	18	3	11 (8.9%)	9 (6.4%)
その他	22	31	18	14	12	11	18 (14.6%)	24 (16.9%)
合計	155	149	121	97	107	100	123	142

※「コロナ禍前の平均」は、H29年度～R1年度の平均値

1.4.3 産業展示館(1~4号館)

コロナ禍前は、年間約100万人の利用があり、5月、10月は天候が良く、大規模イベントの開催が集中することから、利用者数が突出して多い一方、12月から3月までの冬期はイベントの開催が少なく、利用者も少なくなっています。

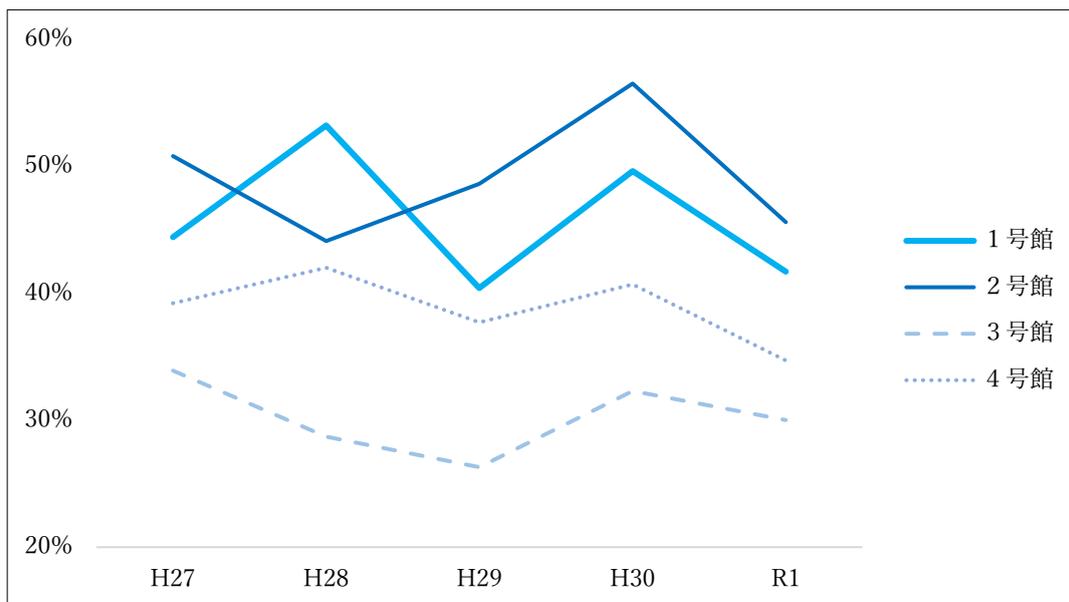


■主な大規模イベント（平成30年度実績）

名称	開催頻度	開催月	利用者数（H30実績）
石川の農林漁業まつり	1回(2日)/年	10月	約50,000人/日
MEX金沢、e-messe Kanazawa、ビジネス創造フェア	1回(3日)/年	5月	約50,000人/日
北陸ラーメン博、まんぷく祭り	1回(3日)/年	10月	約30,000人/日

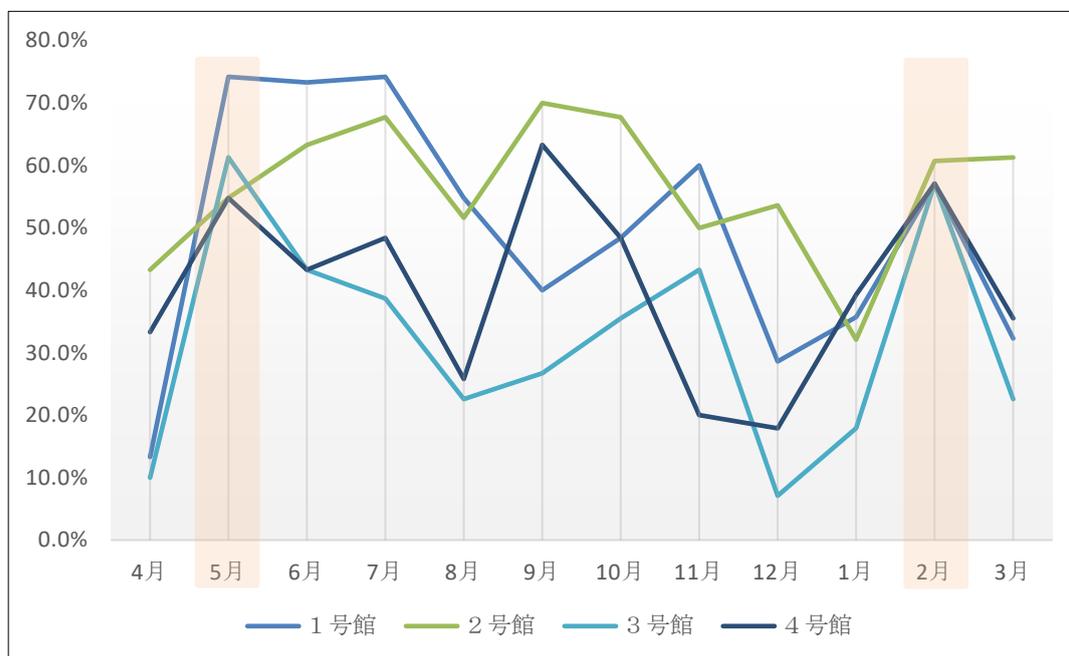
■稼働率推移（コロナ禍前（平成27年度～令和元年度）、館別）

館別稼働率については、展示面積が小さい「2号館(1,641㎡)」、「1号館(3,193㎡)」の稼働率が大きく、小スペースの利用ニーズが大きい状況です。



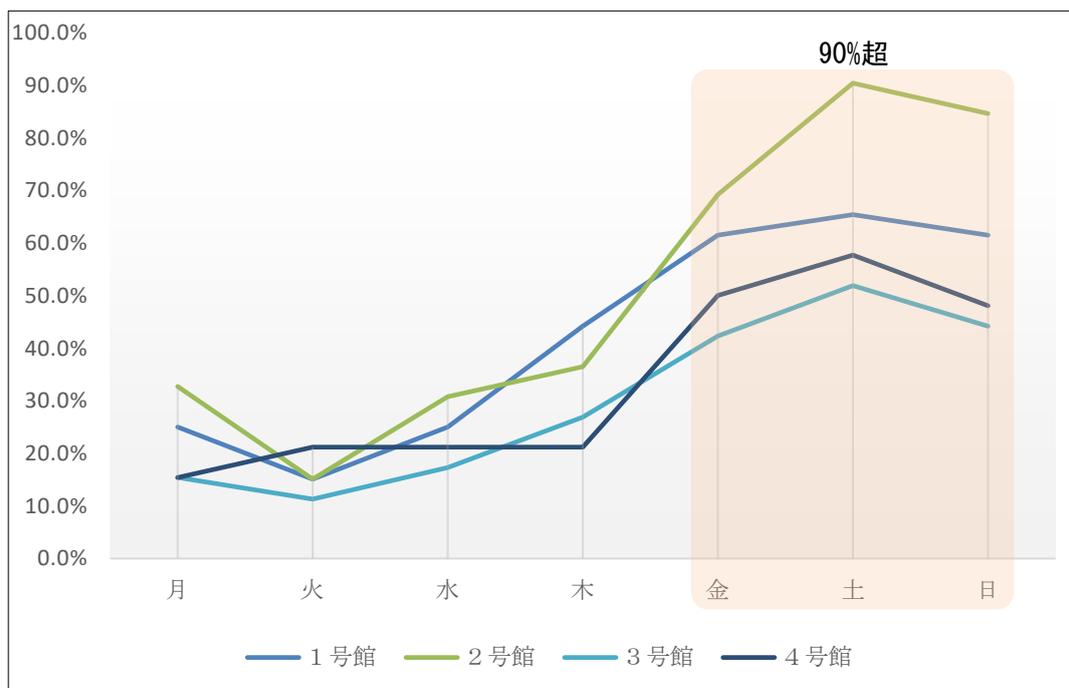
■稼働率推移（平成30年度、館別、月別）

1～4号館全体としては、5月、2月の稼働率が高くなっています。また、天候が良く、催事が集中する6月、7月、9月から11月にかけて、館によっては高い稼働率となっています。



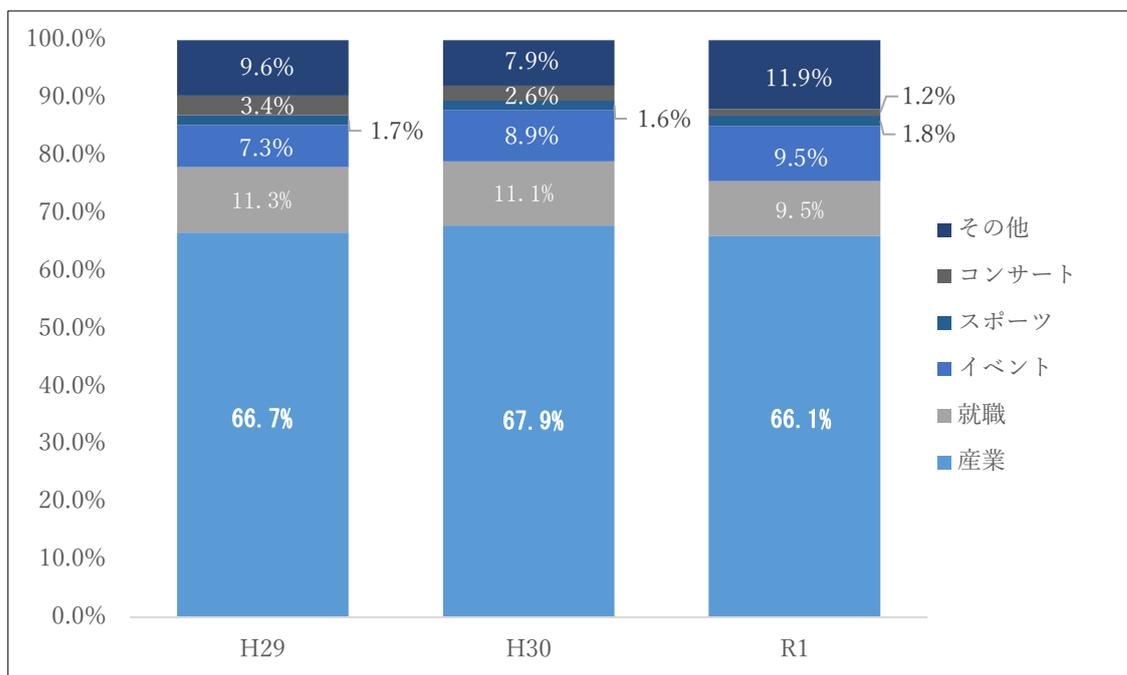
■稼働率推移（平成30年度、館別、曜日別）

1～4号館とも週末（金～日曜日）に利用が集中しています。特に、2号館の土曜日の稼働率は90%を超えています。

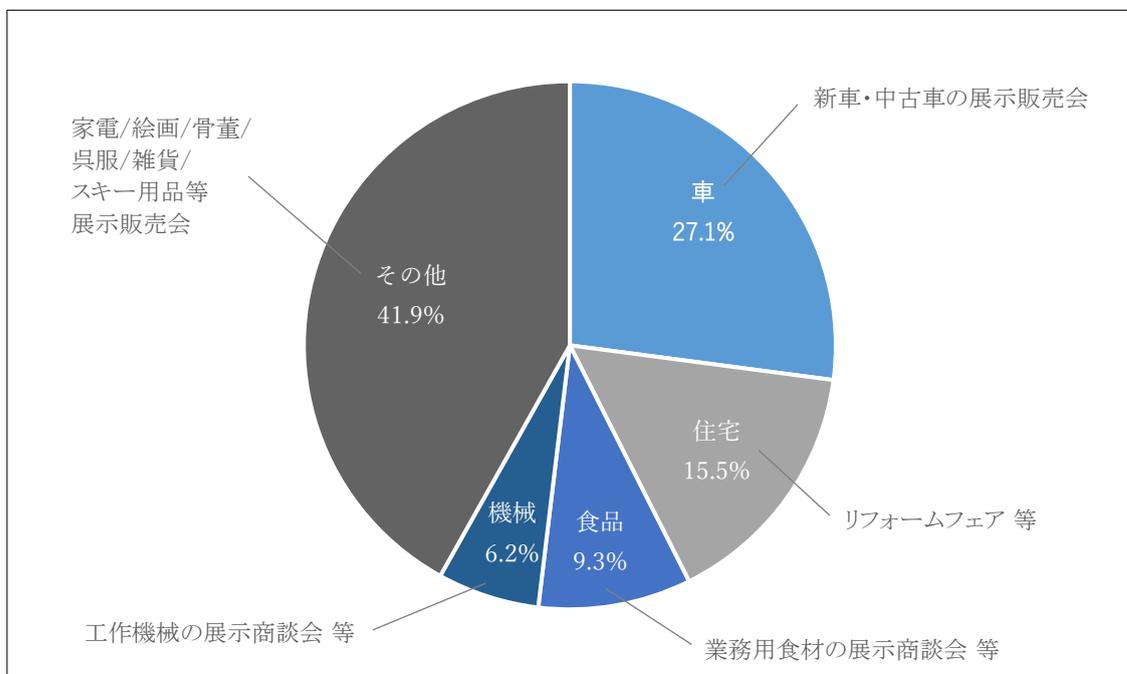


■利用件数（催事テーマ別）

展示会等の「産業」が約7割と最も多く、次に「就職」や「イベント」が続きます。産業利用の内訳では、「新車・中古車展示販売会」が約3割と最も高く、続いて「住宅リフォームフェア」、「食品や機械の展示商談会」となっています。

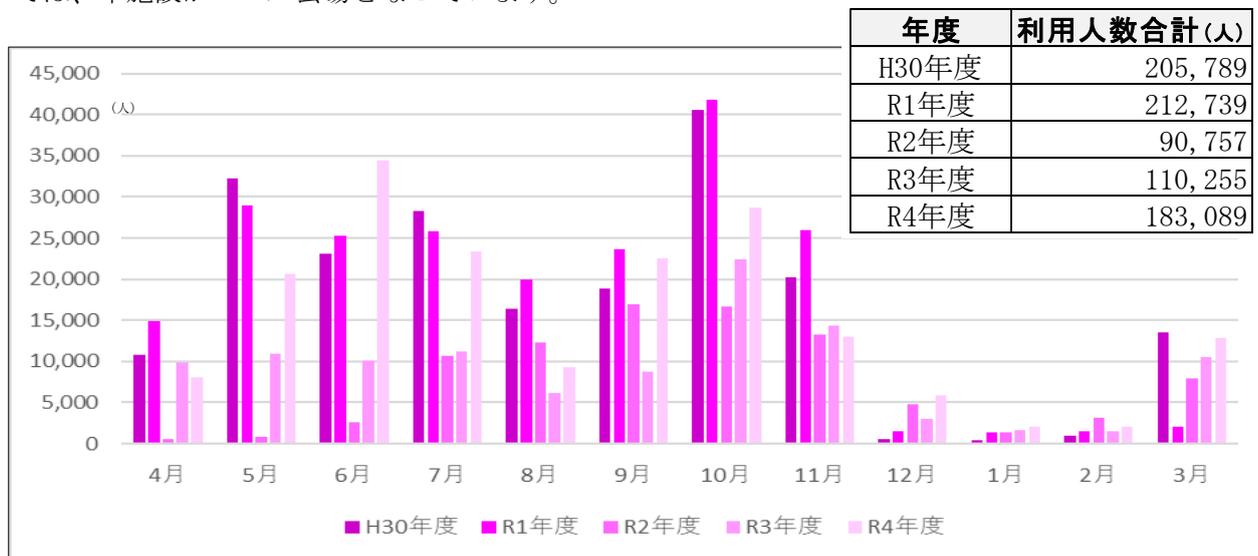


■「産業」利用の内訳



1.4.4 陸上競技場

本施設がツエーゲン金沢のホームスタジアム（2023年シーズンまで）となっていることから、3月から11月にかけてJ2サッカーの試合が定期的に行われています。また、例年10月に開催される金沢マラソンでは、本施設がゴール会場となっています。

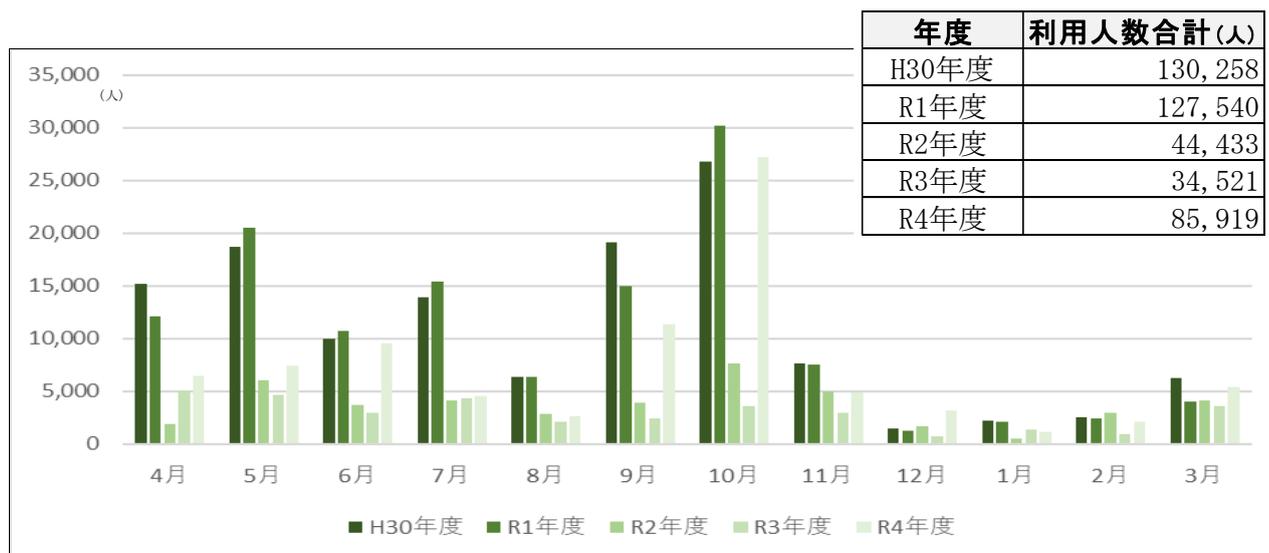


■主な大規模イベント（平成30年度実績）

名称	開催頻度	開催月	利用者数
金沢マラソン	1回/年	10月	約30,000人
J2サッカー公式試合	21回/年	3～11月	約3,000～10,000/日

1.4.5 緑地・多目的広場

天候が良い5月、10月は、利用者数が多い一方、真夏や真冬などの時期は利用者数が少なくなっています。



1.4.6 駐車場

駐車場の混雑状況を把握するため、駐車場の車両滞留台数を調査しました。

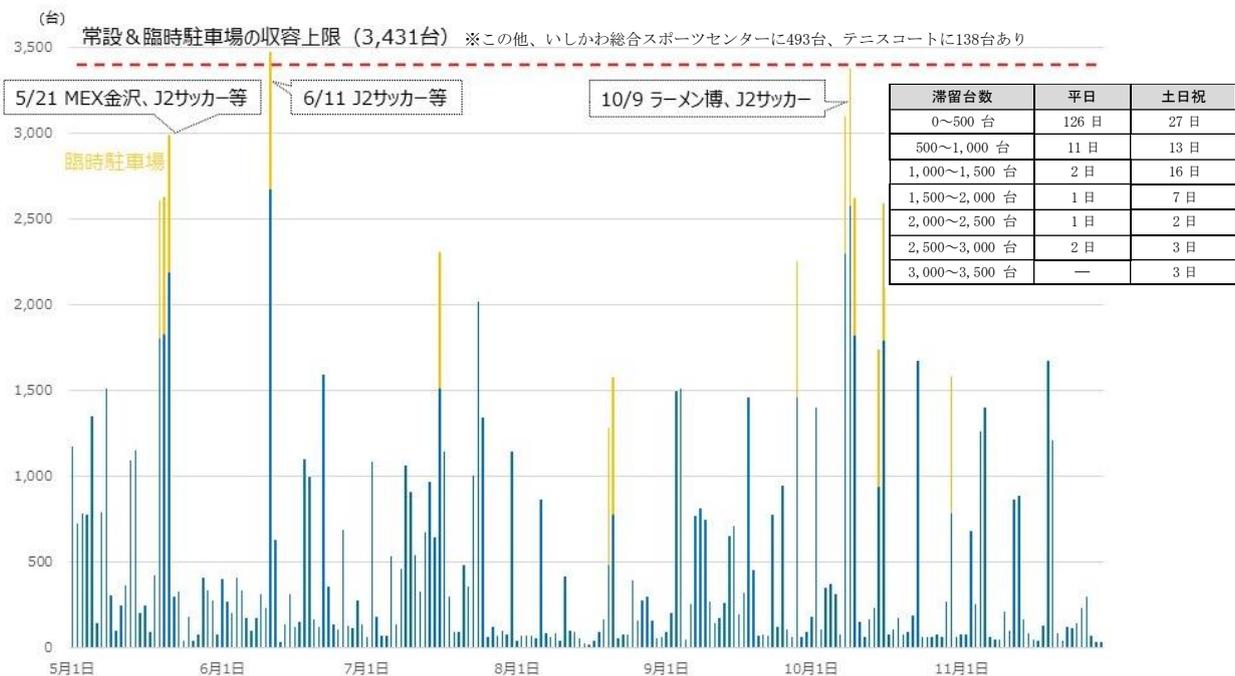
■ 調査概要

調査期間	令和4年5月～11月 ※出入口にカメラを設置してAI解析
計測日数	214日間（平日143日、土日祝71日）

大きな混雑が発生した日は、大規模イベントとJ2サッカーの試合の開催が重なった年間10日程度であり、それ以外の日に目立った混雑はありませんでした。

最も混雑した日（滞留台数が多かった日）は、J2サッカーの試合の開催があった6月11日で、1時間あたり3,473台の滞留台数が確認され、試合終了後「西部緑地公園前」出入口付近に退園車両が集中して大きな混雑が発生したものの、約50分間でその混雑は解消されました。

■ 駐車場の滞留台数



■ 「西部緑地公園前」 出入口付近のロータリーの混雑状況

(令和4年6月11日 (土) 20時頃のカメラ画像)



混雑開始 (20時6分)



混雑解消 (20時55分)

1.5 大規模イベント開催時の混雑状況

1.5.1 周辺道路

大規模イベント開催時の周辺道路の混雑状況を把握するため、園周辺交差点における渋滞の状況を調査しました。

■調査概要

調査日	令和4年5月21日（土）
調査時間	8時～18時（10時間）
調査場所	園周辺の交差点7箇所
開催イベント	<p><産業展示館2号館>ビジネス創造フェアいしかわ2022（10時～17時）</p> <p><産業展示館3、4号館>MEX金沢2022 機械工業見本市金沢（10時～17時）</p> <p><陸上競技場>J2リーグ戦2022年第17節 ツエーゲン金沢vsモンテディオ山形（14時～）</p> <p><県立野球場>北陸大学野球連盟 春季リーグ戦【I部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1試合：福井工業大学vs金沢星稜大学（10時～） ・第2試合：金沢学院大学vs富山国際大学（13時～）

イベント開始時（9時～10時）には、国道8号「松島北（福井方面側）」交差点に約430m（通過時間約3分）の渋滞が一時的に発生し、イベント終了時（16時～17時）には、国道8号「古府」交差点を先頭に、「西部緑地公園前」方面にかけて約800m（通過時間約10分）の渋滞が発生しました。

なお、その他の大規模イベント開催日でも、イベント終了時は同様の箇所で混雑していることが分かっています。

■園周辺交差点における渋滞長



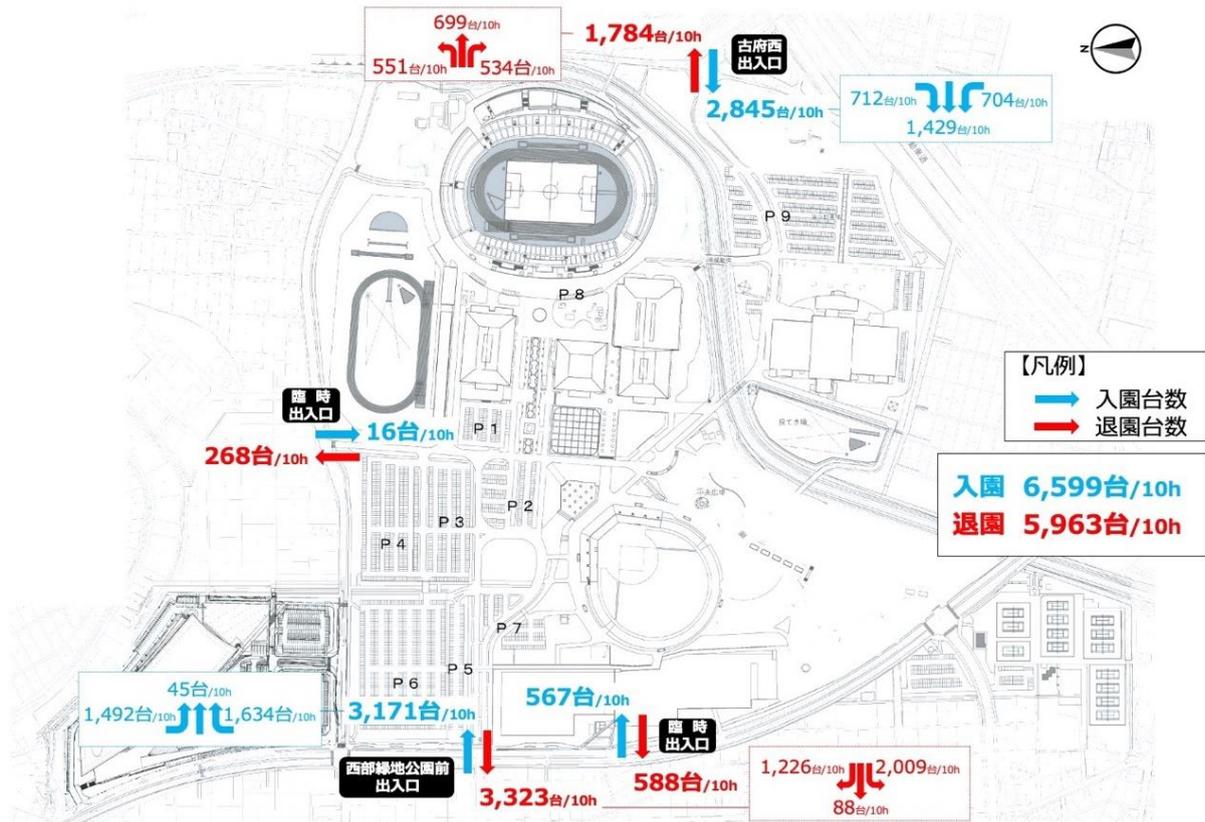
1.5.2 公園出入口

公園出入口の混雑状況を把握するため、上記1.5.1の調査日に入退園台数を調査したところ、総入園台数が6,599台/10h、総退園台数が5,963台/10hでした。

出入口別では、入園台数は「西部緑地公園前」出入口（3,171台/10h）及び「古府西」出入口（2,845台/10h）で大きな差はないものの、退園台数は「西部緑地公園前」出入口（3,323台/10h）が「古府西」出入口（1,748台/10h）より多くなっていました。

また、同日限りで開放した臨時出入口は、入園、退園ともあまり利用されていませんでした。

■ 出入口別の入退園台数



1.6 課題

	課 題
公 園	<p>■魅力が乏しい公園機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段階的な拡張整備の結果、緑地が園の端に分散し、遊具も少なく、県民の憩いの場、子どもの遊び場としては課題がある。野外イベント開催には手狭で使いづらい。 ・公園として一体的な賑わい創出が図れていない。 ・植栽の75%以上が、樹高20m程度のクロマツやケヤキのため、園内は鬱蒼とし見通しが悪い。 ・トイレやベンチなど屋外施設の老朽化や夜間照明の不足により、利便性が低下している。 <p>■複雑化している園内動線等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段階的な拡張整備の結果、園内道路が園地を分断・複雑化している。 ・車両動線と歩行者動線が複数箇所で交差しており、円滑な通行の妨げになっている。 ・園路や駐車場に案内標識や路面標示等が少なく、利便性が低い。 ・約3,500台の駐車場に対して、公園の出入口が不足している。イベント集中開催時には、臨時出入口を開放しているが、退園ピーク時には園内を中心に著しい混雑が発生することもある。駐車場で大きな混雑が発生した日は、年間10日程度と繁閑差が激しい。 ・公共交通機関として路線バスが運行されているが、便数が少ないため利用者が少ない。 <p>■天候の特徴、繁閑差のある利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園がある金沢市の天気は、1年の約半分が雨天である。 ・天候が悪い冬期や猛暑の時期は、利用者が極めて少ない。 (12月から3月までの冬期の利用者数は、年間利用者数の10%弱)
県立 野 球 場	<p>■施設の老朽化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能維持のために必要な改修や修繕を行ってきたものの、築後45年以上が経過し、老朽化が進行しているため、本県高校野球の聖地としての魅力を維持することが難しくなってきている。 <p>■プロ野球の開催が減少傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民のプロ野球観戦に対する期待が大きい中、多い時だと年間6回開催されていたNPBの公式戦が、直近10年では6試合（1試合は雨天中止）と減少傾向にある。 <p>■グラウンドサイズ、観客収容人数の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両翼91.5m・中堅122m、観客収容人数17,126人となっており、グラウンドサイズ、観客席数とも、他県の代表的な野球場と比べ、狭小となっている。 ・ホームベース後方のフェールグラウンドが広く、選手にとっては守りやすい反面、観客にとっては臨場感を感じにくい面がある。 <p>■室内練習場・諸室の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、3塁側にそれぞれ2レーンの屋内ブルペンを備えているものの、野手がノックや素振りなどの練習ができるスペースがない。 ・女子用トイレが少なく、女子選手の利用を想定した整備がなされていない。 ・ロッカールームがダッグアウト（1塁側、3塁側）に1箇所ずつしかないため、試合毎の入替に時間を要する。

課 題	
県立 野球場	<p>■観戦環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観客席に障がい者用の観覧スペースがなく、バックネット裏の諸室で対応している。 ・ 近年の猛暑を踏まえ、観客が安全に観戦できる対策（熱中症対策）が必要である。
産 業 展 示 館	<p>■施設の老朽化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機能維持のために必要な改修や修繕を行ってきたものの、築後45年以上が経過し、老朽化が進行しているため、利用者に質の高いサービスを提供することが難しくなっている。 <p>■施設の狭隘化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模な展示会では、スペースが足りず、出展を断るケースが出てきており、催事が集中する週末には、利用を断らざるを得ないケースも発生している。 （繁忙期には、月5件程度の利用を断っている状況） <p>■来館者等の滞留空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来館者等の滞留空間、休憩・くつろぎスペースが大幅に不足している。 ・ 大規模イベント開催時には、入場待ちの参加者は館入口前の屋外で待機せざるを得ず、特に雨天時の対策が困難な状況となっている。 <p>■会議室、商談室等の諸室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸室の部屋数・大きさともに十分ではないため、展示会に併せたセミナーや商談が会場内に仮設スペースを設けて行われているケースがある。 ・ 分科会用に多くの会議室が必要となる大規模な学会・大会等のコンベンションも僅かな開催実績（平成30年から令和4年までの5年間で1件のみ）となっている。

第2章 県民等アンケート調査

2.1 県民向け

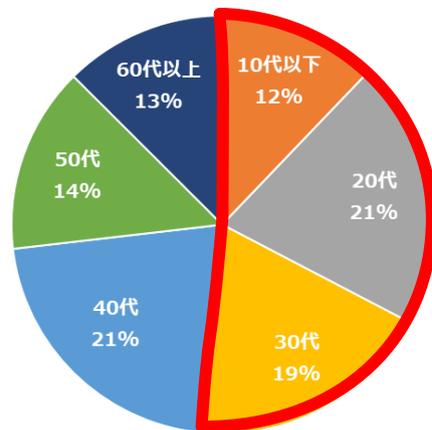
西部緑地公園の再整備に期待する事項を把握するため、県民を対象としたアンケート調査を実施しました。

■ 調査概要

対象者	石川県在住者
回答数	2,391件（うち無回答 43件）
調査方法	WEB及び現地アンケート
調査期間	令和4年10～11月

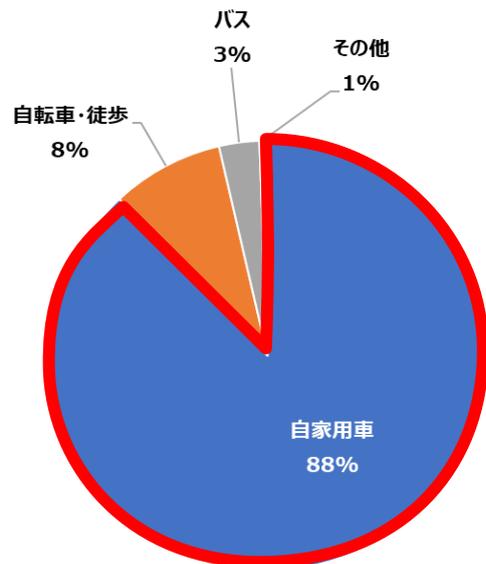
■ 年齢別

「10代以下」から「30代」の方が半数以上となっており、若い方から多くの回答がありました。



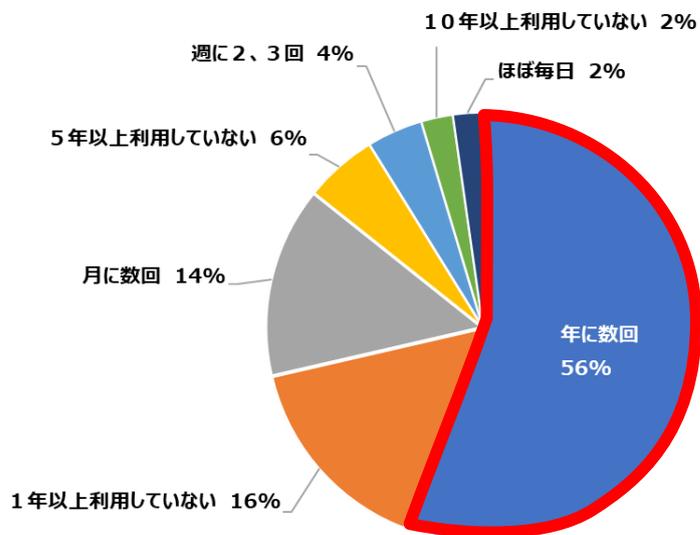
■ 来園手段

約9割の方が「自家用車」で来園しており、「バス」で来園している方は3%とかなり少なくなっています。



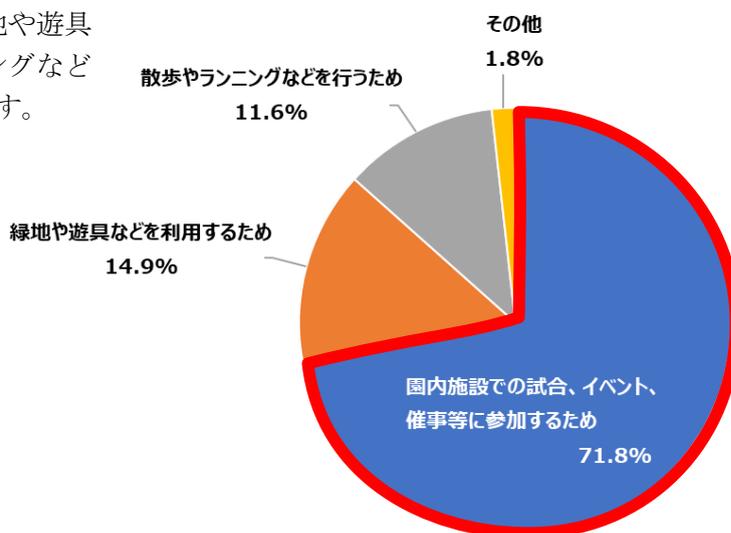
■来園頻度

「年に数回」の方が半数以上となっており、日常的に公園を利用する方（「週に2、3回」、「ほぼ毎日」）は1割以下と少なくなっています。



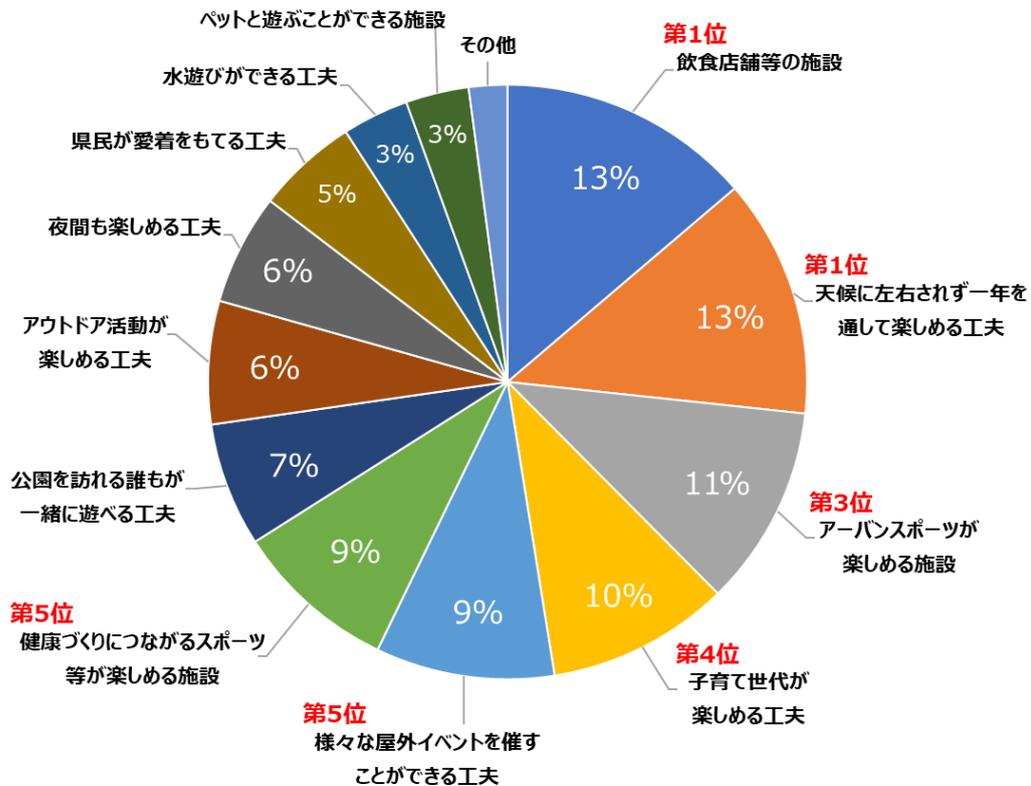
■来園目的

約7割の方が「園内施設での試合、イベント、催事等に参加するため」に来園している一方、公園を楽しむために来園する方（「緑地や遊具などを利用するため」「散歩やランニングなどを行うため」）は3割以下となっています。



■再整備に期待すること

※回答者は、最大5項目まで選択可



■飲食店舗等の施設について

- ・周辺に飲食店舗がほとんどないので、園内にカフェやレストランが欲しい
- ・コンビニ等の食品販売店舗を導入して欲しい など

■天候に左右されず一年を通して楽しめる工夫について

- ・子どもも大人も、雨、雪、暑い、寒い日でも安心して楽しめる施設が欲しい
- ・天候に左右されない屋内スポーツ施設や屋根のある観客席が欲しい など

■アーバンスポーツが楽しめる施設について

- ・子どもがスケートボードをしているので、県内で、安全に練習できる環境を整えてあげて欲しい
- ・パークがあれば、公道等でスケートボードをする危険な行為が減ると思う など

■子育て世代が楽しめる工夫について

- ・様々な年代が楽しめるインクルーシブ遊具や大型・特徴的な遊具を導入して欲しい（既存遊具では3歳以下の幼児は遊べない）
- ・雨天時、子どもを遊ばせる場所が県内に少ないので、全天候型広場を導入して欲しい など

■様々な屋外イベントを催すことができる工夫について

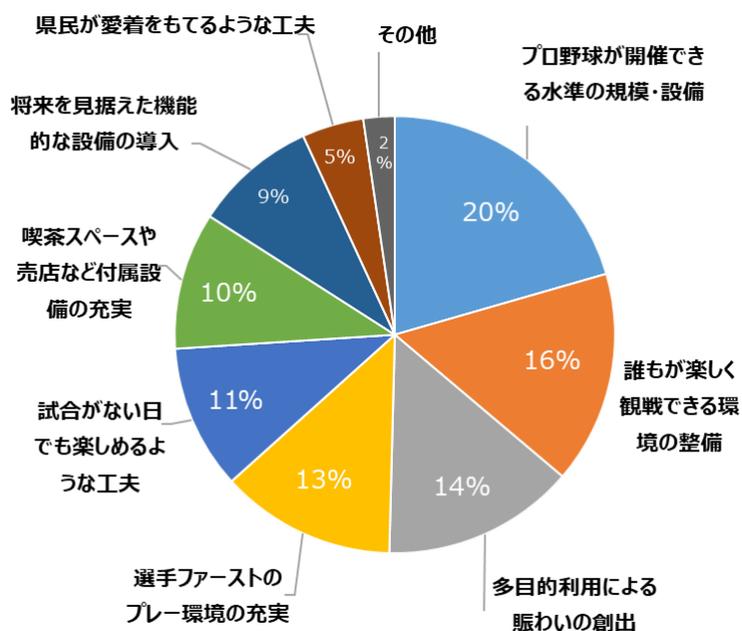
- ・キッチンカーなどが集まれる場所があると良い
- ・マルシェなどが開催できるような場所が欲しい など

■健康づくりにつながるスポーツ等が楽しめる施設

- ・ランニング初心者でも、安全に走れるコースが欲しい など

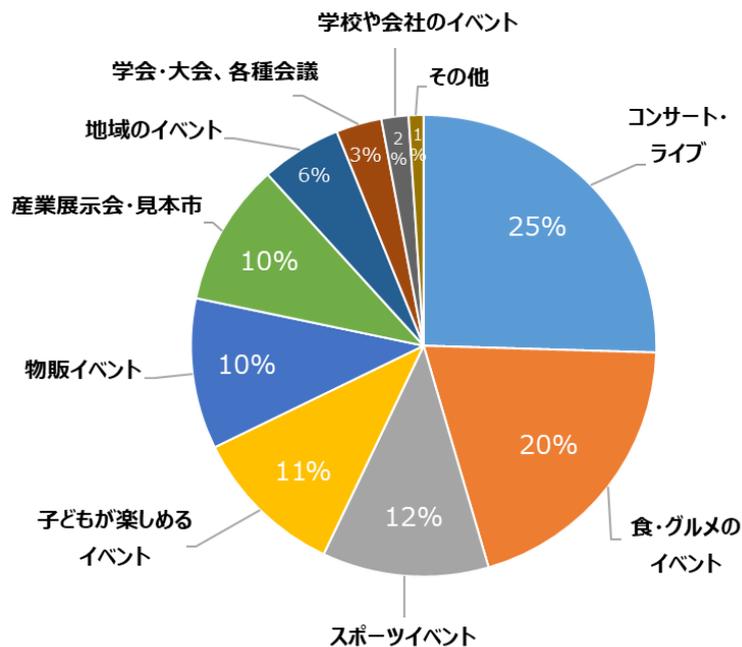
■新県立野球場に期待すること

「プロ野球が開催できる水準の規模・設備」「誰もが楽しく観戦できる環境の整備」に対する整備ニーズが大きくなっています。



■新産業展示館に期待すること

「コンサート・ライブ」「食・グルメのイベント」に対する整備ニーズが大きくなっています。



2.2 公園利用者向け

現公園の改善点を把握するため、来園中の利用者を対象としたアンケート調査を実施しました。

■調査概要

対象者	来園中の利用者
回答数	1,039件
調査方法	現地アンケート
調査期間	令和4年10月 平日・土日祝日の6日間

改善点で最も多かったのは「駐車場が遠い」でした。次いで「飲食施設がない」、「歩行者・車両の動線が交差」、「園内道路が分かりにくい・渋滞している」という結果になりました。

順位	回答	回答数	割合
1	駐車場が遠い	339	32.6%
2	飲食施設がない	190	18.2%
3	歩行者・車両の動線が交差	158	15.2%
4	園内道路が分かりにくい・渋滞している	157	15.1%
5	トイレが汚い	133	12.8%
6	公共交通の利便性が悪い（バス等）	122	11.7%
7	施設が破損・老朽化	120	11.5%
8	遊び場・遊具が少ない	113	10.8%
9	休憩箇所が少ない	109	10.4%
10	園内の出入口が少ない	105	10.1%
	回答者数	1,039	

※上位10項目（複数回答可）

■利用頻度別

「ほぼ毎日」公園を利用する方は、「歩行者と車両の動線が交差」や「施設が破損・老朽化」、「トイレが汚い」を改善点にあげている一方、年に数回程度しか利用しない方（イベント参加のために来園する方等）は、「駐車場が遠い」や「飲食施設がない」を改善点にあげています。

順位	回答	ほぼ毎日	週に2・3回	月に数回	年に数回	1年以上 利用していない	5年以上 利用していない	10年以上 利用していない	不明
1	駐車場が遠い	7.0%	7.1%	9.4%	15.2%	17.7%	15.6%	14.3%	14.9%
2	飲食施設がない	1.8%	5.1%	7.5%	8.9%	7.8%	9.1%	9.5%	5.8%
3	歩行者と車両の動線が交差	8.8%	6.1%	9.4%	6.9%	4.5%	7.8%	7.1%	2.5%
4	園内道路が分かりにくい・渋滞している	0%	4.1%	6.4%	7.4%	8.7%	3.9%	7.1%	2.5%
5	トイレが汚い	8.8%	7.1%	9.1%	5.0%	3.6%	9.1%	4.8%	2.9%
6	公共交通の利便性が悪い（バス等）	1.8%	3.1%	5.9%	5.1%	4.8%	3.9%	7.1%	5.4%
7	施設が破損・老朽化	8.8%	7.1%	7.8%	5.2%	3.6%	2.6%	2.4%	0.8%
8	遊び場・遊具が少ない	1.8%	2.0%	4.3%	5.2%	5.7%	7.8%	2.4%	2.5%
9	休憩箇所が少ない	5.3%	5.1%	5.1%	5.0%	2.7%	2.6%	2.4%	4.6%
10	園内の出入口が少ない	3.5%	5.1%	6.7%	4.4%	3.6%	2.6%	7.1%	1.7%

第3章 民間活力の導入（マーケットサウンディング調査）

構想の骨子案に対する意見・要望を聴取するため、本事業への参画を検討する民間事業者への調査を実施しました。

■ 調査概要

調査時期	令和5年8～9月
回答者数	本事業への参画を検討する民間事業者 37社 業種：ゼネコン、設計会社、管理運営会社、飲食・物販事業者、遊具メーカーなど

■ 民間事業者からの主な意見

項目	主な意見
園内道路 ・ 駐車場	<p><園内道路></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周回道路は公園外周に整備し、歩行者と車両の交差を極力少なくした方が良い。 ・ 進入道路が短いため、渋滞が圏外まで伸びる可能性がある。園外道路の右折レーンや進入道路を長くする等の工夫が必要。 <p><駐車場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立体駐車場より平面駐車場の方が、新産業展示館との距離が近くなり良い。 ・ ゲリラ豪雨等も踏まえ、立体駐車場はあった方が良いが、他施設の整備後に需要を見て整備することも考えられる。 ・ 駐車場から雨に濡れない園内動線があると良い。
公園施設	<p><緑地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨雪が多いことや、近年の猛暑等も踏まえ、屋根付広場等を設置した方が良い。 ・ 子どもの見守りが難しくなるため、遊具は分散配置しない方が良い。子どもが飽きずに遊ぶためには多様な機能を揃えた方が良い。 <p><アーバンスポーツエリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一体的なスポーツゾーン形成や管理運営上の観点から、アーバンスポーツエリア等も周回道路の内側が理想。 ・ 来園した子どもたちの目に触れることで、競技振興にも繋がるため、緑地空間付近に配置する方が良い。 ・ 雨雪や猛暑による利用者減の防止のため、屋根は必要。 <p><屋内こども遊戯施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨天、猛暑日も遊べる屋内こども遊戯施設は必要。 ・ 野外と一体的に活用できる方が多様な提案をしやすい。利用者満足度が高い施設となる。 <p><民間提案エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車が園外道路から直接進入できれば、民間企業は提案しやすいため、ロードサイド店としての色を強くした方が良い。 ・ カフェ等は周囲の景観との調和が重要なため、緑地空間内でのエリア設定も検討すべき。

項目	主な意見
産業展示館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示面積を4号館と合わせて2万㎡確保することで、開催できるイベント（特にコンベンション分野）の幅が広がる。 ・ 複数催事の同時開催を想定し、各来場者のスムーズな動線を確保できるよう、十分な共用スペースが必要。 ・ 大屋根付の半屋外オープンスペースがあると、屋外イベントでの利用や隣接する公園と一体的な利活用が可能。 ・ カフェ、飲食店は民間提案エリアでの出店があるならば不要。
県立野球場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席数を増やすことは維持管理費の増大に繋がる。2万人規模の野球場でもプロ野球誘致の実績はある。人口減少社会においては、座席数は抑制的である方が良い。 ・ 球場に機能を付加しても徴収できる料金が増えるわけではないため、諸室は大会開催に必要最小程度にした方が良い。 ・ 緑地との一体感創出には、サンディエゴのペトコ・パークが参考になる。外野席が少し丘になっており、球場外の緑地からも観戦でき、有料試合の開催時はフェンスを立て、無料観戦を防ぐチケットラインを設定している。

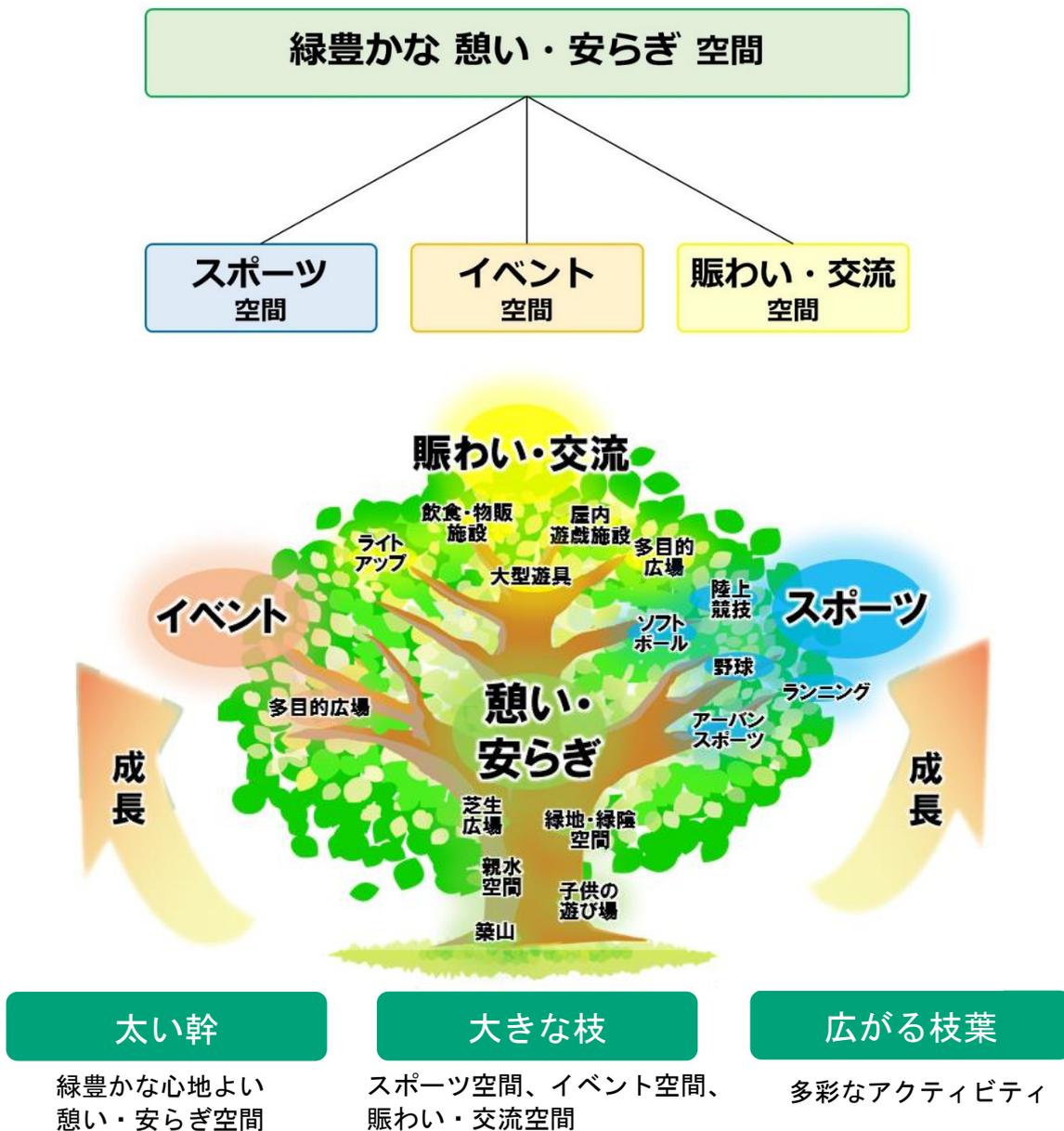
第4章 西部緑地公園再整備の視点・コンセプト

西部緑地公園の現状・課題、西部緑地公園再整備構想検討委員会及び県民等アンケート調査、マーケットサウンディング調査での主なご意見を踏まえ、再整備の視点とコンセプトを以下の通り設定します。

4.1 視点

新たな西部緑地公園は、人々の憩いの場という公園の原点に立ち返り「緑豊かな憩い・安らぎ空間」を中心に据えた上で、そこに「スポーツ空間」「イベント空間」「賑わい・交流空間」といった3つの機能を融合させ、これらが一体となり、県民ニーズに応え、楽しみを生む空間にします。

■再整備の視点イメージ



4.2 コンセプト

コンセプト

心地よい緑と夢の空間

心地よい緑の中、多彩なスポーツ、イベントが楽しめ、一人ひとりが幸せを実感できる新しい公園に生まれ変わります。

ポイント1

いつも訪れたくなる緑豊かな心地よい空間

ポイント2

優れたプレー環境を備えるスポーツ空間

ポイント3

多彩な催しで未来を創造するイベント空間

ポイント4

いつも人が集う楽しく便利な賑わい・交流空間

交通円滑化

- ・周回道路の整備
- ・出入口の増設
- ・案内サインの充実
など

時代の要請

- ・デジタル化
- ・カーボンニュートラル
- ・インクルーシブ
- ・民間との協創 など

石川県らしさ

- ・県産材の活用
- ・雨や雪に濡れない工夫
- ・県民が愛着を持てる仕掛け
など

■検討委員会、県民等アンケート、マーケットサウンディング調査での主な意見

◎公園のあり方

- (検討委員) ・住民が日常的に訪れる公園とすべき。
- (検討委員) ・公園とは豊かな自然環境の中で誰もが憩い集える空間であるべき。
- (検討委員) ・良い景色、心地よい緑地空間といった公園本来の機能を整えた上で、展示施設やスポーツ施設等を取り入れるべき。
- (検討委員) ・真ん中に芝生広場があり、緑豊かな空間を中心に野球場や産業展示館等がつながると良い。
- (検討委員) ・緑地と産業展示館及び野球場との一体性・調和をより高めると公園全体がさらに良くなる。
- (検討委員) ・スポーツやイベント時だけでなく、「日常も楽しめる」こともコンセプトに入れるべき。
- (検討委員) ・イベント終了後に、来園者を一斉に帰らせないよう公園の中で楽しめる工夫が必要。

◎県立野球場、産業展示館

- (検討委員) ・野球場のサイズ及び観客収容人数は、プロ野球の公式戦が誘致できるようにすべき。
- (検討委員) ・次の試合のアップや指導員講習会等で使用できるよう、十分な広さの室内練習場や会議室を設けて欲しい。
- (検討委員) ・障害者や高齢者に配慮した野球場とすべき。
- (民間事業者) ・座席数を増やすことは維持管理費の増大につながる。2万人規模の野球場でもプロ野球誘致の実績はある。人口減少社会においては、座席数は抑制的であるべき。
- (県 民) ・再整備に期待することは「様々な屋外イベントを催すことができる工夫（第5位）」。
- (検討委員) ・新産業展示館は、大規模な展示空間を整備するとともに、イベントの規模に応じて分割利用できると良い。
- (民間事業者) ・展示面積を4号館と合わせて2万㎡確保することで開催できるイベントの幅が広がる。
- (民間事業者) ・複数催事の同時開催時も、各来場者のスムーズな動線を確保できる十分な広さのホワイエが必要。
- (民間事業者) ・公園との一体感が必要。例えば、屋根付き半屋外スペースがあると、屋外イベントでの利用や隣接する公園との一体利用が可能となる。

◎必要な機能・施設

- (県 民) ・再整備に期待することは「アーバンスポーツが楽しめる施設（第3位）」。
- (検討委員) ・スケートボードなどアーバンスポーツへの対応が必要。
- (民間事業者) ・アーバンスポーツエリアは、来園した子ども達の目に触れることで競技振興にも繋がるため、緑地空間付近に配置した方が良い。
- (民間事業者) ・雨雪や猛暑による利用者減の防止のため、屋根は必要。
- (県 民) ・再整備に期待することは「健康づくりにつながるスポーツ等が楽しめる施設（第5位）」。
- (検討委員) ・広大な敷地を活かしてランニングロード等を整備すると良い。
- (民間事業者) ・熱中症防止のため、日陰や庇等がある場所を走れるようにすべき。
- (検討委員) ・多目的広場を臨時駐車場として利用するなど、園内をフレキシブルに利用する工夫も大事。
- (民間事業者) ・多目的広場にもカフェ等があった方が良い。
- (県 民) ・再整備に期待することは「天候に左右させず一年を通して楽しめる工夫（第1位）」。
- (検討委員) ・子育て世代から天気が悪いと遊びに行く場所がないとよく聞く。天候に左右されず一年を通して楽しめる工夫が必要。
- (民間事業者) ・雨雪が多く、近年の猛暑等も踏まえ、屋根付広場等を設置した方が良い。
- (民間事業者) ・雨天、猛暑日も遊べる屋内遊戯施設は必要。野外と一体的に活用できると利用者満足度が高い施設となる。
- (民間事業者) ・子どもが飽きずに遊ぶためには多様な機能を揃えた遊具を設置すると良い。
- (県 民) ・再整備に期待することは「子育て世代が楽しめる工夫（第4位）」。
- (検討委員) ・遊具自体も、例えばダイバーシティ、インクルーシブといった社会課題解決の観点を入れることが必要。

◎民間活力の導入

- (県 民) ・再整備に期待することは「飲食店舗等の施設（第1位）」。
- (検討委員) ・明治時代に兼六園が公園となった際、園内の茶店が徽軫灯籠をシンボルにしてプロモーションしたように、民間の力を活用することも大切。
- (検討委員) ・派手なことが出来そうにない公園であっても、Park-PFIで民間の賑わい施設を導入している。
- (検討委員) ・民間活力を導入するにしても、全てを委ねるのではなく、県がこういう公園にしたいという計画を作るべき。
- (民間事業者) ・便益施設（飲食店舗等）は、車が園外道路から直接進入できる位置が良い。ロードサイドであれば、建設費・管理運営費を含めて独立採算の可能性はある。
- (民間事業者) ・カフェ等は周囲の景観との調和が重要なため、緑地空間に点在させた位置の設定も検討すべき。

◎園内動線・駐車場

- (検討委員) ・歩行者と車が出会わないことが公園の魅力であることから園内動線を工夫すること。
- (民間事業者) ・周回道路を公園外周に整備し、歩行者と車両の交差を極力少なくした方が良い。
- (検討委員) ・混雑緩和策として、周回道路の整備や出入口の増設などを検討した方が良い。
- (検討委員) ・駐車場は現有台数（約3,500台）程度は必要。
- (民間事業者) ・立体駐車場は再整備後に需要を見てから整備することもできる。
- (検討委員) ・駐車場から各施設への歩行者の動線について、なるべく車と交差しない工夫を検討して欲しい。
- (検討委員) ・金沢駅から離れており、自家用車以外での公園へのアクセスが課題。

◎時代の要請への対応

- (検討委員) ・これからの時代の公園としては、デジタル面での機能強化というコンセプトも必要。
- (検討委員) ・計画の段階から、ダイバーシティの視点で障害がある方、子育て中の方、高齢者の方など様々な方々の意見を聞いておくことが大切。

◎石川県らしさ

- (検討委員) ・「石川県」らしさを出せると良い。寄付など県民が参加できる仕組みがあれば面白い。
- (民間事業者) ・建築物への県産材の活用や石川県らしいデザインの導入等を検討してはどうか。

再整備のコンセプトとポイント

コンセプト

心地よい緑と夢の空間

心地よい緑の中、多彩なスポーツ、イベントが楽しめ、一人ひとりが幸せを実感できる新しい公園に生まれ変わります。

ポイント1

いつも訪れたいくなる緑豊かな心地よい空間

自然や四季を感じる緑地・緑陰空間、開放的な芝生広場、入って遊べる親水空間、変化に富み、ダイナミックな遊びができる築山など

ポイント2

優れたプレー環境を備えるスポーツ空間

新しい県立野球場、アーバンスポーツエリア、ランニングロードなど

ポイント3

多彩な催しで未来を創造するイベント空間

新しい産業展示館、多様なイベントが開催できる多目的広場など

ポイント4

いつも人が集う楽しく便利な賑わい・交流空間

誰もが楽しめる遊具、迫力のある大型遊具、雨や雪の日でも遊べる屋内子ども遊戯施設、飲食・物販などの便益施設（民間との協創）など

交通円滑化

周回道路の整備、出入口の増設、案内サインの充実等

時代の要請

デジタル化、インクルーシブ、カーボンニュートラル、民間との協創

ビクトグラムの活用やエレベーターの設置など施設全体のユニバーサル化など

石川県らしさ

県産材の活用、雨や雪に濡れない工夫、県民が愛着を持てる仕掛け等

建築物への県産材の活用や石川県らしいデザインの導入、雨や雪に濡れないよう通路屋根や庇の設置、県民が愛着を持てるよう県民参加型の仕組み

4.3 導入機能

コンセプトに基づき導入する機能は、以下のとおりです。

ポイント1 いつも訪れたくなる緑豊かな心地よい空間

- ・ 自然や四季を感じる緑地・緑陰空間
- ・ 開放的な芝生広場
- ・ 入って遊べる親水空間
- ・ 変化に富み、ダイナミックな遊びができる築山



都立砧公園 緑地・緑陰空間
(東京都世田谷区)



万博記念公園 芝生広場
(大阪府吹田市)



大和町広場 親水空間
(金沢市)

ポイント2 優れたプレー環境を備えるスポーツ空間

- ・ 新しい県立野球場
- ・ アーバンスポーツエリア
- ・ ランニングロード、ランニングステーション



原池公園スケートボードパーク
(大阪府堺市)



葛飾区クライミングセンター
ボルダリング施設
(東京都葛飾区)



駒沢オリンピック公園
ランニングロード
(東京都世田谷区)

ポイント3 多彩な催しで未来を創造するイベント空間

- ・ 新しい産業展示館
- ・ 多様なイベントが開催できる多目的広場（臨時駐車場兼用）



大師公園 イベント
(神奈川県川崎市)



泉南りんくう公園 マルシェ
(大阪府泉南市)



丹波自然運動公園 キッチンカー
(京都府船井郡京丹波町)

ポイント4 いつも人が集う楽しく便利な賑わい・交流空間

- ・誰もが楽しめる遊具、迫力ある大型遊具
- ・雨や雪の日でも遊べる屋内こども遊戯施設 ※野球場外野スタンド下での整備を検討
- ・飲食・物販など便益施設（民間との協創）



ひまわりの丘公園
大型のオリジナル遊具
(兵庫県小野市)



斬新で本格的な遊具



富岩運河環水公園 飲食施設
(富山県富山市)

交通円滑化 周回道路の整備、出入口の増設、案内サインの充実等

- ・公園外縁部に周回道路を整備
- ・出入口の増設
- ・駐車場は現有台数（約3,500台）程度を確保、ゆとりある駐車場、駐車場の満空表示
- ・方面別案内サインの充実
- ・シャトルバス専用レーン、シェアサイクルステーションの設置



ゆとりある駐車場



駐車場の満空表示



シェアサイクルステーション

時代の要請 デジタル化、インクルーシブ、カーボンニュートラル、民間との協創等

- ・ピクトグラムを活用やエレベーターの設置など、施設全体のユニバーサルデザイン化
- ・太陽光発電、雨水利用、LED照明などによる環境負荷の軽減
- ・Wi-Fiをはじめとするデジタル化、キャッシュレス決済の導入

石川県らしさ 県産材の活用、雨や雪に濡れない工夫、県民が愛着を持てる仕掛け等

- ・建築物への県産材（能登ヒバ、輪島塗、金箔等）の活用や石川県らしいデザインの採用
- ・雨や雪に濡れないよう通路屋根や庇の設置
- ・県民が公園に愛着を持てるよう県民参加型の仕組みを検討（ベンチの寄付等）

4.4 ゾーニング計画

- ・県立野球場と産業展示館は既存施設を利用しつつ、新施設を整備
- ・新産業展示館は現産業展示館4号館に近接
- ・緑地は各ゾーンにアクセスしやすい公園中央部に配置
- ・周回道路は公園外周に配置し、車道を渡らず、各施設を周遊でき、公園の一体感を醸成
- ・アーバンスポーツエリアは多くの人が見られるよう緑地に隣接
- ・屋内こども遊戯施設、親水空間、屋外遊具を近接させ、一体的な遊びの空間を創出
- ・便益施設は、幹線道路及び緑地空間の双方から利用しやすい位置に配置



憩い・安らぎゾーン

いつも訪れたくなる緑豊かな心地よい空間

【施設】

緑地・緑陰空間、芝生広場、親水空間、築山

スポーツゾーン

優れたプレー環境を備えるスポーツ空間

【施設】

新潟立野球場、アーバンスポーツエリア、ランニングロード、陸上競技場、補助競技場、投てき場、ソフトボール場

イベントゾーン

多彩な催しで未来を創造するイベント空間

【施設】

新産業展示館、産業展示館4号館、屋外展示場
多目的広場

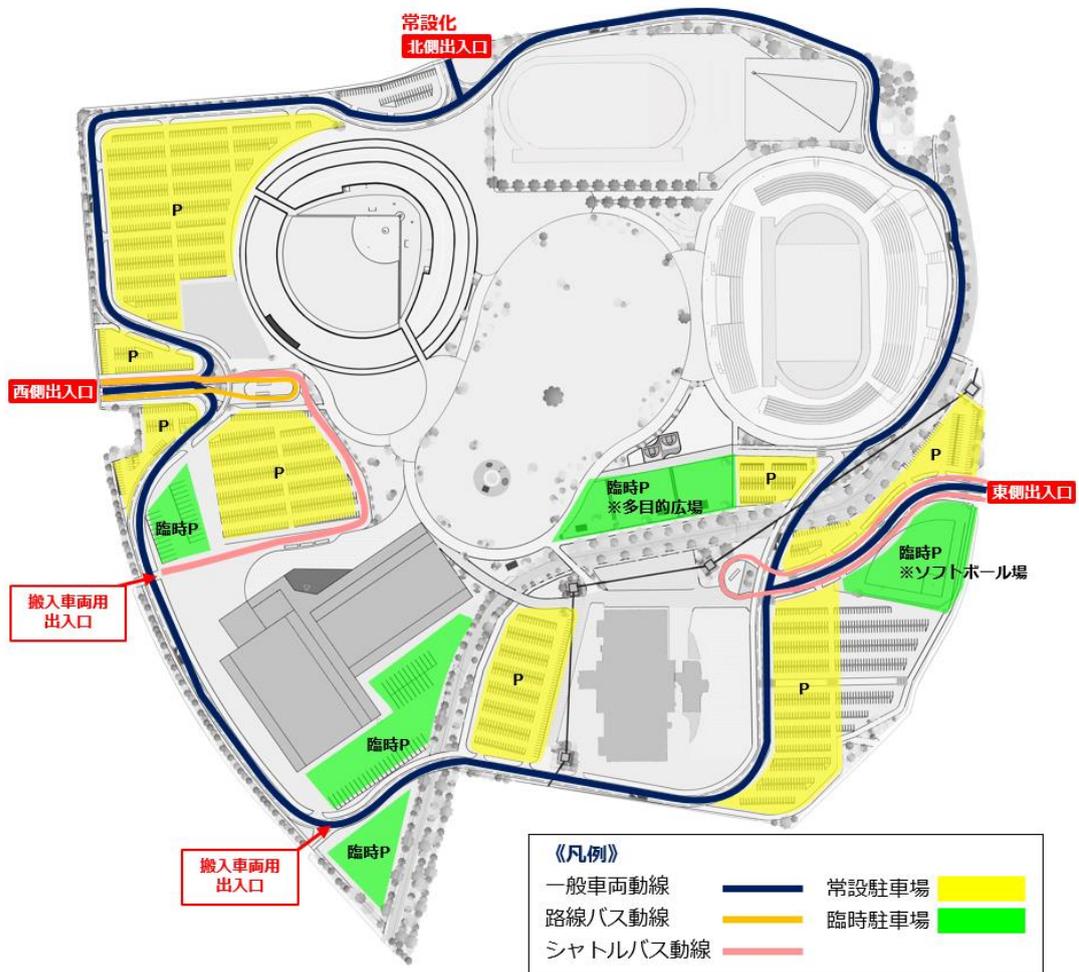
賑わい・交流ゾーン

いつも人が集う楽しく便利な賑わい・交流空間

【施設】

屋内こども遊戯施設、屋外遊具、便益施設

4.5 動線計画



- ・園内交通の円滑化と歩車分離の観点から、周回道路を外周に沿った形で整備
 - ・路線バスは、西側出入口を使用し、築山前のバスロータリーで乗降
 - ・シャトルバスは、東側出入口を使用し、専用レーンを通行して産業展示館4号館付近で乗降
 - ・搬入車両が、一般車両と交差しないよう新産業展示館裏に専用出入口を整備
 - ・入退園車両を分散させるため、北側出入口を常設化
 - ・退園時の方面別案内、駐車場の満空表示など、交通案内を充実・強化
- ※必要に応じて西側出入口を使用することも可能

第5章 整備の方向性（公園施設）

5.1 緑地・緑陰空間、芝生広場、親水空間、築山

(1) 整備方針

- ・利用者の憩い・安らぎの場として、分散した緑地を集約・大型化することで、日常的に訪れたいくなる緑豊かな心地よい空間を創出します。
- ・利用者のレクリエーション活動のほか、イベント・催事など多様なニーズに対応できる賑わい交流空間を創出します。
- ・緑地を中心に、新たな県立野球場や産業展示館等の園内施設との配置やデザインの調和を図ります。

(2) 想定位置・規模

① 緑地・緑陰空間、芝生広場

位置	公園中央に配置
規模	約 50,000 m ²

② 親水空間

位置	芝生広場の一面に配置
規模	約 900 m ² (芝生広場の内数)

③ 築山

位置	新県立野球場・芝生外野席につながるよう配置
規模	約 4,000 m ²

(3) 整備内容

① 緑地・緑陰空間、芝生広場

- ・利用者が憩い・安らげる木立による緑陰空間や緑豊かな高木・低木、広々とした芝生広場等を整備します。
- ・園路沿いには、自然や四季を感じ、風情が楽しめる彩り豊かな樹木を配植します。
- ・芝生広場等は、イベントや催事などの様々な用途にも柔軟に対応できるよう、大小様々な空間構成やアメニティ機能（修景施設、休養施設、管理施設など）を備えた、使い勝手の良い環境を整備します。
- ・緑地公園としての雰囲気や趣を創出するため、新たに建築する県立野球場や産業展示館等の配置計画や外観デザインは、公園と調和したものとします。
- ・利用形態や空間構成に鑑み、様々なシーンを演出するための景観づくりや、維持管理し易い意匠（形状、素材の仕様等）を取り入れます。

② 親水空間

- ・水深が浅く、利用者が安全で安心して水と戯れられる空間を整備します。

都立砧公園
緑地・緑陰空間
(東京都世田谷区)



③ 築山

- ・変化に富みダイナミックな遊びができる空間を創出します。
- ・公園のシンボル（ランドマーク）となるようデザイン性の高いものとし、芝生広場や屋内こども遊戯施設と一体的に活用することで回遊性の高い遊びの空間を創出します。

大和町広場
親水空間
(金沢市)



5.2 アーバンスポーツエリア

(1) 整備方針

- ・若者を中心に人気が高まっているアーバンスポーツについて、県民ニーズが高いことを踏まえ、スケートボードパーク及びスポーツクライミング施設を整備します。
- ・スポーツクライミングについては、県内に公式大会を開催できる施設がないため、公式大会が開催可能な仕様とします。

(2) 想定位置・規模

位置	芝生広場に近接した位置に配置
規模	約 3,000 m ² (競技種目：スケートボード、BMX、スポーツクライミング)

(3) 整備内容

① スケートボードパーク

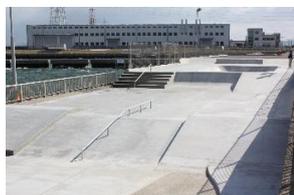
- ・スケートボードとBMXの共用施設とした上で、初・中級者向けの体験・練習用パークとして整備します。
- ・猛暑期、降雨・降雪期でも施設を利用できるよう、パーク内に屋根を設置します。

② スポーツクライミング施設

- ・初心者から競技者まで利用でき、公式大会も開催できる水準のボルダリングとリードのウォールを整備します。
- ・ボルダリング施設は屋内施設とし、施設内に管理事務室や更衣室、シャワー室等を整備します。



原池公園スケートボードパーク
(大阪府堺市)



碧南スケートボードパーク
(愛知県碧南市)



岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場
(岩手県盛岡市)

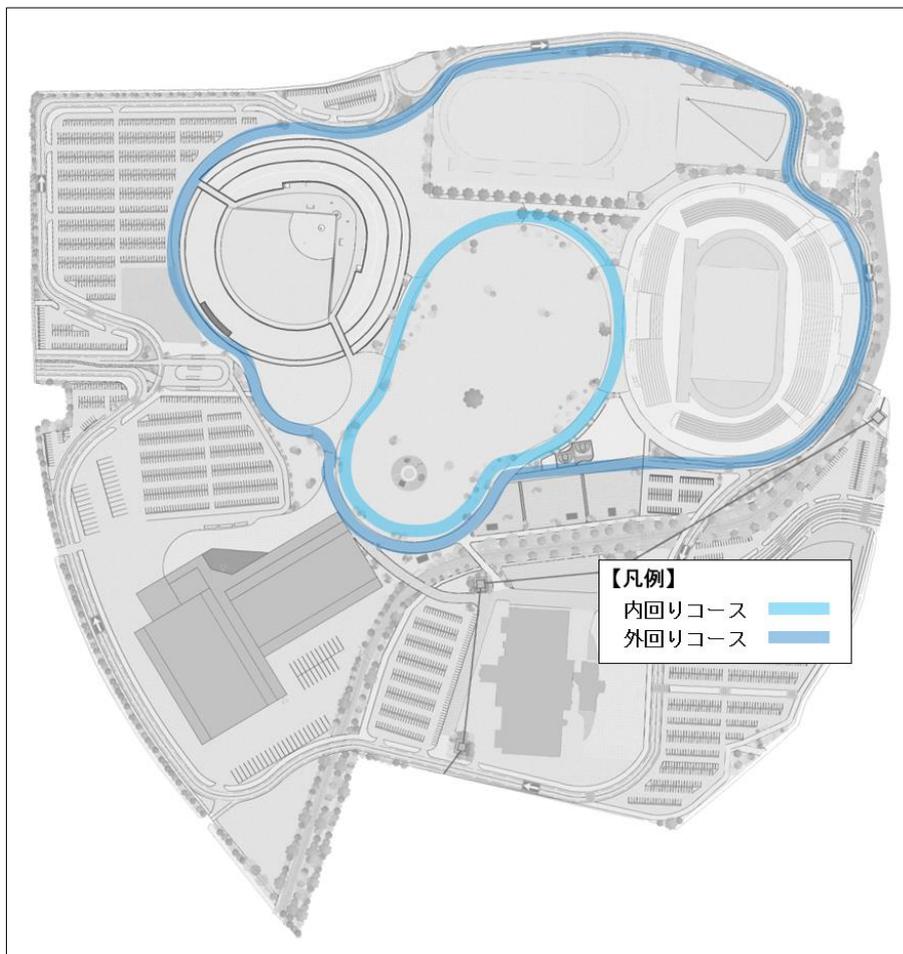
5.3 ランニングロード

(1) 整備方針

マラソンランナーが、安全で安心して快適にランニングできる環境を整えます。

(2) 想定位置・規模

位置	【内回りコース】 緑地空間を囲むように配置 【外回りコース】 芝生広場、野球場、陸上競技施設を囲むように配置
規模	【内回りコース】 約 1.0 km 【外回りコース】 約 2.0 km ※コースの距離は、分かり易い数値 (100m単位等) で設定します。 幅員 約 2.0 m



ランニングロードの計画図

(3) 整備内容

- 幅員については、足の早いランナーがストレスなく追い抜けるよう、大人2人が並走可能な2.0m以上とします。
<参考：都市公園技術標準解説書(令和元年度) 3.7 ジョギングコースの計画・設計>
- 園内を走行する車両と極力交差しないルートを設定し、ランナーが立ち止まることなく、安全に走り続けることが出来るようにします。
- 路面には走行距離を表示するとともに、ランナーの体への負荷を低減させ、快適にランニングできる適度な弾力と防滑性、透水性を有する舗装とします。
- ランニング中に、様々な景観が楽しめるよう緑陰空間や芝生広場沿いを通り、野球場やアーバンスポーツエリアなどが見えるようなコースを設定します。
- ランナーの利便性を向上させるため、コース沿いにランナーが利用できる更衣室やシャワー室等を設置します。



駒沢オリンピック公園
ランニングロード
(東京都世田谷区)



大濠公園
ランニングロード距離表示
(福岡県福岡市)



名城公園
ランナー用シャワー室
(愛知県名古屋)

5.4 多目的広場、ソフトボール場

(1) 整備方針

- ・多様なイベントやスポーツなどに対応した賑わい空間を創出します。
- ・県民ニーズや繁閑差のある利用状況のほか、平時から大規模イベント開催時まで変動する公園の利用形態に柔軟かつ効率的に対応できる空間としても活用します。

(2) 想定位置・規模

① 多目的広場

位置	公園中央の南側に配置（十人川付近）
規模	約 8,000 m ²

② ソフトボール場

位置	公園東側に配置
規模	約 4,500 m ²

(3) 整備内容

① 多目的広場

- ・緑を身近に感じつつ、多様なイベントの開催や子どものボール遊びまで様々なニーズに柔軟に対応できる空間とします。
- ・キッチンカー、コンテナ型の店舗設置等に対応した設備（電気・給排水）を設けます。
- ・大規模イベント開催時には、臨時駐車場としても活用できるよう植栽・構造物等の配置、車両の荷重、降雨時の水捌けなどにも配慮します。
- ・イベント開催時のシャトルバスの乗降場としても活用します。



大師公園 イベント
(神奈川県川崎市)



泉南りんくう公園 マルシェ
(大阪府泉南市)



丹波自然運動公園 キッチンカー
(京都府京丹波町)

② ソフトボール場

- ・ソフトボール愛好家がプレーできる環境を整備します。

5.5 屋外遊具、屋内こども遊戯施設

(1) 整備方針

- ・年齢や障害の有無に関わらず、沢山の子どもが集い、交流する中で様々な遊び方を考え出し、遊びの輪を広げる空間を創出します。
- ・屋外遊具や屋内こども遊戯施設、築山で一体的な遊びの空間を作り、子どもたちが回遊しながら、飽きることなく遊び続け、「また来たい」と思える多様な機能を整備します。
- ・子どもを見守る大人が快適に過ごせる居場所を整備します。

(2) 想定位置・規模

① 屋外遊具

位置	屋内こども遊戯施設に近接した芝生広場の一面に配置
----	--------------------------

② 屋内こども遊戯施設

位置	新県立野球場・外野芝生席下の空間に配置
規模	約 2,000 m ²

(3) 整備内容

① 屋外遊具

テーマ	整備内容
<ul style="list-style-type: none"> ・思いきり体を動かして遊ぶ ・立体的に遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが体を思いきり動かし、非認知能力の習得や運動機能の向上に資する大型遊具を整備します。 ・他の公園にはない斬新なデザインで子どもたちの好奇心を刺激し、子どもたち自身で遊び方を考えるなど創造力を育む遊具を設置します。 ・遊具等については、段差や配色に配慮するなどユニバーサルデザインを前提とします。
<ul style="list-style-type: none"> ・起伏で遊ぶ ・自然と一体となって遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・起伏を活用したすべり台やトンネル、ウッドデッキ、ネットなど自然と融合した遊具を設置します。 ・エリアのテーマにあった自然色の色彩を採用します。 ・遊具等については、段差や配色等に配慮するなどユニバーサルデザインを前提とします。
<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して楽しく遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体能力を伸ばす、創造力・感性を養う、思考力を高めるなど多様な遊びができる遊具を設置します。 ・乳幼児が楽しめるカラフルな色彩、緩衝力の高い舗装の採用やエリア外への飛び出し防止など安全性にも十分配慮します。



ひまわりの丘公園
大型のオリジナル遊具
(兵庫県小野市)



都立明治公園
斬新なデザインの遊具
(東京都新宿区)



紀の川市民公園
自然と融合した遊び場
(和歌山県紀の川市)



小松運動公園
乳幼児専用エリア
(小松市)

② 屋内こども遊戯施設

- ・年齢別（児童、幼児、乳幼児等）にエリアを分け、乳幼児から小学生までの幅広い年代の子どもたちが、体を思いきり動かして楽しむことができる遊びの空間を整備します。
- ・子どもの好奇心をくすぐる遊具や体を使ってダイナミックに遊べ、身体能力を引き出す遊具を設置します。
- ・年齢別の遊びの空間のほか、ワークショップ等が開催できる創作・学びの空間や多目的に利用できるオープンスペースも整備します。
- ・飲食スペースや授乳室の設置など、保護者が快適に子どもたちを見守ることができる環境を整備します。



キッズピアあしかが
(栃木県足利市)



あぐりドーム
(長崎県長崎市)



サイクルスポーツセンター
(宮城県名取市)



ギヴスグッド動物園
(デンマーク)

5.6 便益施設（飲食店舗等）

(1) 整備方針

公園利用者の利便性向上や公園の魅力向上、交流拠点機能など、西部緑地公園の機能増進に資する賑わい・交流空間を創出します。

(2) 想定位置・規模

位置	幹線道路と緑地空間の双方からアクセスし易い位置に配置
規模	約 3,500 m ²

(3) 整備内容

- ・ 県民ニーズが大きかった「飲食、物販店舗」などが設置される「民間提案エリア」を幹線道路と緑地空間の双方からアクセスし易い位置に配置します。
- ・ 公園と調和した外観デザインや壁面・屋上緑花などを積極的に取り入れるような工夫を施します。
- ・ 他の園内施設の利用を促進するため、便益施設から他の園内施設への動線を利便性の高いものとなるよう計画します。
- ・ 利用者ニーズや時代の変化に対応するため、民間との対話や情報交換を継続的に行い、良好なビジネス環境の維持に努めます。
- ・ 便益施設は、当該エリアのほか、緑地空間や多目的広場でも設置可能とします。



富岩運河環水公園 カフェ
(富山県富山市)



中央公園 レストラン
(広島県福山市)

5.7 園内動線

(1) 整備方針

- ・ 歩行者と車両が交差しないよう歩車分離を徹底し、歩行者の安全確保に努めます。
- ・ 複雑化した車路・園路の整理や案内標識等の設置を行い、園内交通の円滑化を図ります。

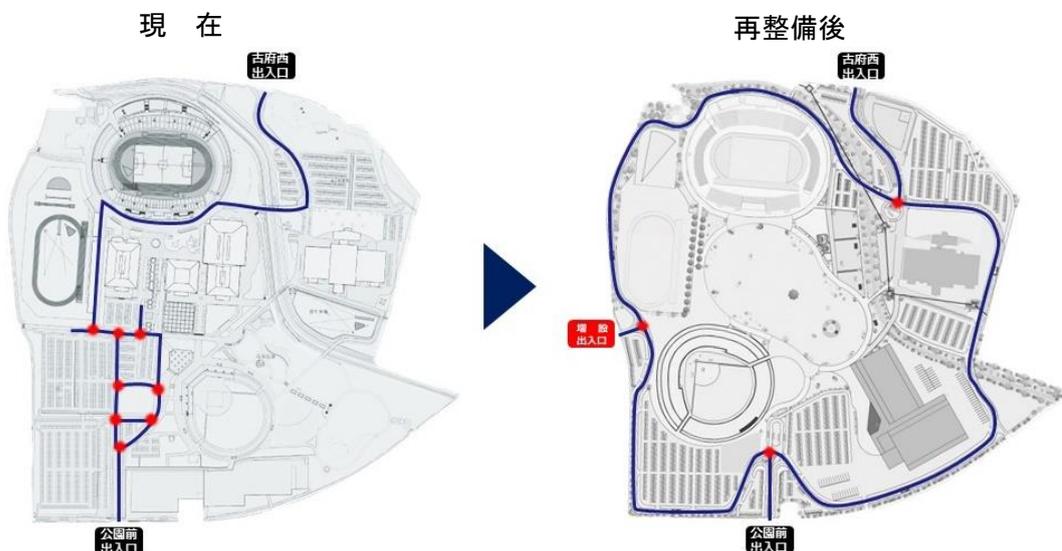
(2) 想定位置・規模

位置	【車路】 公園周縁部に周回道路（リングロード）を配置 【園路】 出入口や各施設を結ぶ重要な「主園路（移動等円滑化園路）」、主園路間を結ぶほか、園内管理のための「副園路」、賑わいを創出するための「景観路」を配置
規模	【車路幅員】 1車線：3.0m以上、2車線：5.5m以上 【園路幅員】 主園路：5.0m以上、副園路：3.0m以上、景観路：10.0m以上

(3) 整備内容

- ・ 交差箇所が少なく、園外に出ることなく園内を周回できる道路（周回道路）を整備します。
 - ・ 臨時出入口として使用している北側出入口を常設化し、入退園車両の分散化を図ります。
 - ・ シャトルバス専用の出入口とレーンを整備し、シャトルバスの利便性を向上させます。
 - ・ 利用者が安全に園内を走行・歩行できるよう案内標識、照明灯、防護柵などの施設を整備します。
 - ・ 横断側溝等の蓋は、車椅子やベビーカーなどの車輪、杖や靴の踵などが挟まらない構造で、滑りにくい表面とするなど、細部にまで配慮します。
 - ・ 目的や園路の序列に応じて舗装材を選定し、車路は、維持管理が容易で、水はね防止や雨水流出抑制などに優れたアスファルト舗装とします。
 - ・ 車路の屈曲部の曲線半径は30m以上（設計速度30km/h）とし、縦断勾配は11%以下、横断勾配は1.5～2.0%（AS、CON舗装）、3.0～5.0%（その他舗装）とします。
 - ・ 園路の縦断勾配は原則4%以下とし、やむを得ない場合でも8%以下とします。
- <参考：都市公園技術標準解説書(令和元年度)、ユニバーサルデザインによるみんなのための公園づくり【改訂版】>

■ 動線比較



5.8 駐車場

(1) 整備方針

- ・ 駐車台数は、現有台数（約3,500台）程度を維持します。
- ・ 輻輳箇所がなく、各施設にアクセスし易い場所に駐車場を分散配置します。
- ・ 大きな混雑が発生する日は年間10日程度（「1.4.6 駐車場」）であり、利用のピークに合わせた駐車場整備は非効率であることから、駐車台数は現有台数程度とします。
- ・ 大規模イベント開催時など混雑が予想される際は、多目的広場等を臨時駐車場として活用します。
- ・ 混雑緩和対策として、退園時の方面別案内や駐車場の満空表示など交通案内を充実強化します。

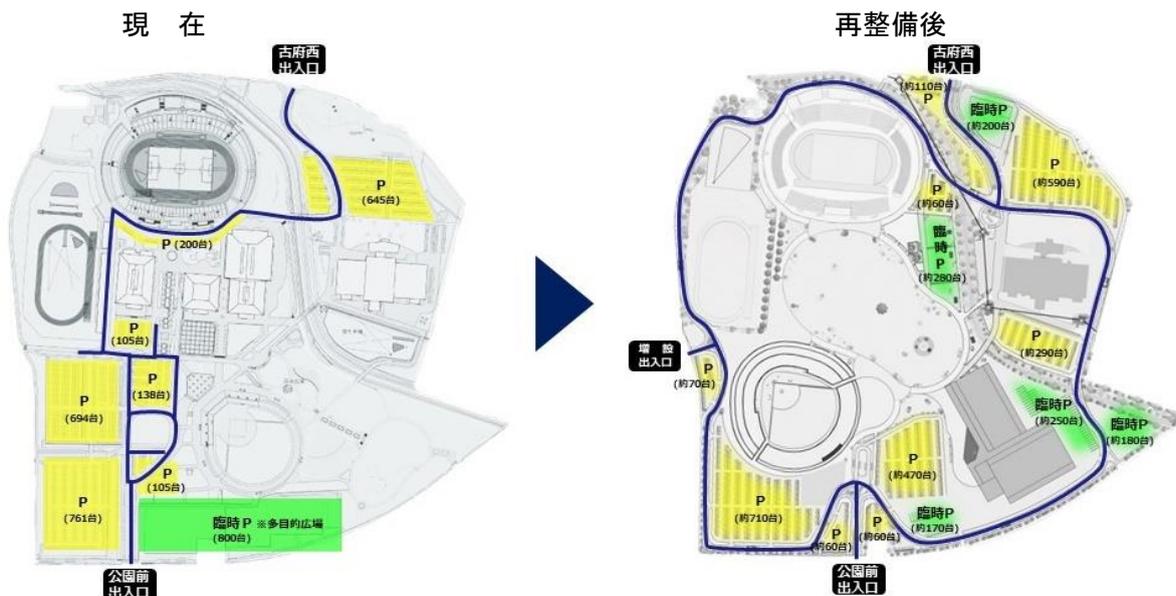
(2) 想定位置・規模

位 置	【第1駐車場】 新県立野球場と民間提案エリア周辺に配置 【第2駐車場】 北側出入口、補助競技場周辺に配置 【第3、4駐車場】 公園前出入口周辺に配置 【第5駐車場】 新産業展示館周辺に配置 【第6駐車場】 新産業展示館と産業展示館4号館の間に配置 【第7駐車場】 産業展示館4号館周辺、多目的広場に配置 【第8駐車場】 陸上競技場、アーバンスポーツエリア周辺に配置 【臨時駐車場】 多目的広場、新産業展示館トラックヤード等
規 模	駐車台数は、現有台数（3,500台）を維持 【常設駐車場】 2,420台 確保（現在 2,648台） 【臨時駐車場】 1,080台 確保（現在 800台）

(3) 整備内容

- ・ 駐車場の満空状況をデジタルサイネージ等の表示により、リアルタイムで利用者に提供し、空き駐車場へと誘導することで、車が輻輳しない工夫を施します。
- ・ 第1駐車場は、防災対応着陸場の指定が可能な大きさの駐車場とします。
- ・ 常設駐車場は、維持管理が容易で水はね防止や雨水流出抑制などに優れたアスファルト舗装とします。
- ・ 各駐車場において、当該駐車場の全駐車台数が200以下の場合には全駐車台数×1/50以上、200を超える場合は全駐車台数×1/100+2以上の「車いす使用者用駐車施設」を確保します。また、複数の車いす使用者用駐車施設を設ける場合には、1箇所以上を「福祉車両用駐車スペース（幅2,700mm×長さ8,000mm以上の福祉車両、大型車両等の利用に対応した駐車スペース）」とします。
- ・ 車いす使用者以外の障がい者や高齢者、妊産婦、幼児連れの人など、誰でも安全且つ円滑に駐車及び乗降できる「ゆったり駐車スペース（幅2,700mm以上×長さ5,400mm以上、隣接境界表示は間隔800mm程度の二重線）」をできるだけ確保します。
- ・ 車いす使用者用駐車施設の幅は3,500mm以上とし、後部には車いす使用者と横向きの人がすれ違えるよう有効幅1,200mm以上の通路を設け、移動等円滑化園路と接続させるように努めます。
<参考：ユニバーサルデザインによるみんなのための公園づくり【改訂版】（平成29年3月）>

■ 駐車場比較



5.9 混雑緩和対策

混雑緩和対策として、以下の対策を講じます。

<p>動 線</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内交通の円滑化と歩車分離の観点から、周回道路を外周に沿った形で整備 ・路線バスは公園前出入口を使用し、築山前のバスロータリーで乗降 ・シャトルバスは、古府西出入口を使用し、専用レーンを通行して産業展示館4号館付近の多目的広場で乗降 ※必要に応じて公園前出入口を使用し、バスロータリーで乗降 ・搬入出車両が一般車両と交差しないよう新産業展示館裏に専用出入口を整備 ・入退園車両を分散させるため、北側出入口を常設化 ・退園時の方面別案内、駐車場の満空表示など、交通案内を充実・強化
<p>駐車場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場は周回道路に沿って配置し、多目的広場やソフトボール場を臨時駐車場としても使用 ・駐車台数は現有台数程度を維持
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアサイクルステーションを設置

第6章 整備の方向性（新県立野球場）

6.1 野球競技を取り巻く環境

(1) 高校野球

石川県高等学校野球連盟には県内50校が加盟しており、同連盟が主催する春季、夏季、秋季の県大会や一年生大会において、石川県内の野球場のうち、県立野球場が最も多く利用されています。また、甲子園大会やこれにつながる北信越大会の石川県代表を決める重要な試合などが行われていることから、県立野球場は「石川県の高校野球の聖地」と位置付けられています。

■高校野球の各大会における球場別試合数（令和4年度実績）

大会種別	県立野球場	金沢市民	小松末広	計
春季大会	20	17	6	43
夏季大会	27	12	4	43
秋季大会	26	5	11	42
一年生大会	6	11	0	17
計	79	45	21	145

※金沢市民は金沢市民野球場、小松末広は小松運動公園末広野球場を表す。

(2) 大学野球

北陸大学野球連盟には石川県、富山県、福井県内の大学等が、1部・2部で計12校が加盟しており、春季・秋季のリーグ戦や交流戦、新人戦などが開催されています。

加盟12校の内訳は、石川県7校、富山県3校、福井県2校と石川県が多く、また、石川県が3県の中間に位置することもあり、石川県内の野球場で約8割の試合が行われています。

なお、令和4年度では、県立野球場の38試合が最も多く、以下、小松運動公園末広野球場の19試合、金沢市民野球場の12試合の順となっています。

■北陸大学野球加盟12校

金沢学院大学、福井工業大学、金沢星稜大学、北陸大学、富山国際大学、金沢大学
金沢工業大学、高岡法科大学、富山大学、福井大学、石川工業高等専門学校、金城大学

■大学野球の各大会における使用野球場（令和4年度実績）

大会種別	県立野球場	金沢市民	小松末広	その他			計
				石川	富山	福井	
春季リーグ戦	7	0	14	19	8	5	53
秋季リーグ戦	17	8	5	8	9	4	51
その他	14	4	0	5	0	0	23
計	38	12	19	32	17	9	127

※金沢市民は金沢市民野球場、小松末広は小松運動公園末広野球場を表す。

(3) 社会人野球

石川県野球協会、石川県野球連盟などが組織されており、県立野球場では、全日本軟式野球選手権大会の県大会や北信越国民体育大会、北陸アマチュア野球オールスター戦などが開催されています。

(4) プロ野球

昭和47年の供用開始以降、NPB公式戦は110試合以上が開催されています。開催の多い順では、中日ドラゴンズの52試合が最も多く、以下、ロッテオリオンズ（現千葉ロッテマリーンズ）の35試合、読売ジャイアンツの14試合の順となっています。

直近10年では、中日主催の3試合、読売主催の2試合の計5試合が開催されています。

また、プロ野球独立リーグ・日本海リーグに所属する石川ミリオンスタースは、金沢市民野球場などをホームスタジアムとしているものの、年間数試合程度、県立野球場でホームゲームを開催しています。

■これまでの石川県立野球場でのNPB公式戦の主催チーム別開催実績

チーム名	中日	ロッテ	巨人	広島	大洋	オリックス	計
主催試合数	53	35	14	7	5	1	115

※チーム名は、主催当時のチーム名としている。

■石川県立野球場における直近10年のNPB公式戦開催実績

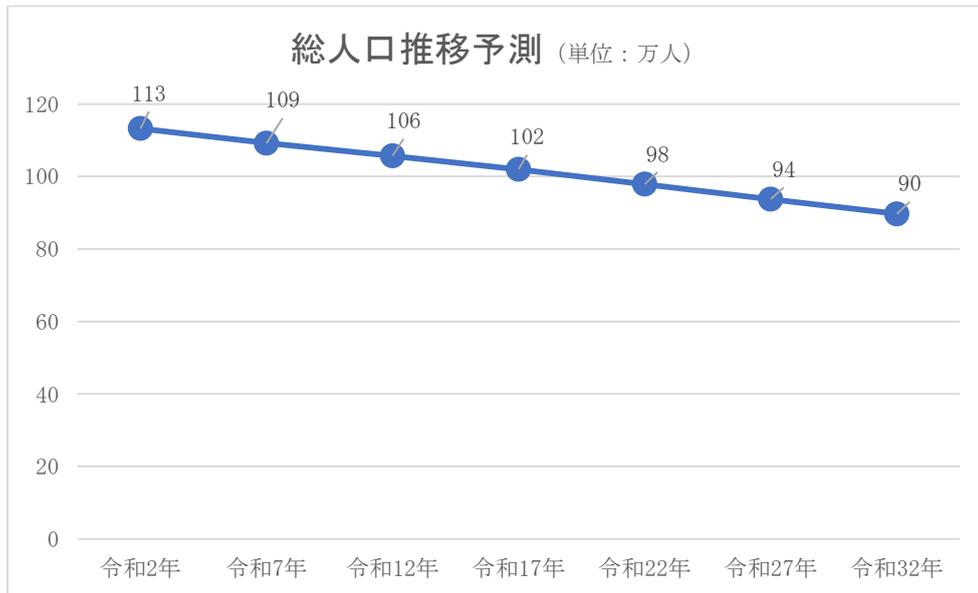
年	試合数	内 容
2022 (R4)	0	
2021 (R3)	1	6/24 巨人－DeNA (5,340人)
2020 (R2)	0	
2019 (R1)	0	
2018 (H30)	1	5/ 9 中日－ヤクルト (8,765人)
2017 (H29)	0	
2016 (H28)	1	7/ 6 中日－広島 (11,721人)
2015 (H27)	1	9/ 2 巨人－ヤクルト (10,401人)
2014 (H26)	1	7/ 1 中日－DeNA (10,182人)
2013 (H25)	0	雨天中止

■石川ミリオンスタースの県内野球場の利用実績（令和5年）

球 場 名	ホームスタジアム登録	利用回数
石川県立野球場	なし	2
金沢市民野球場	あり	30
小松運動公園末広野球場	あり	2
寺井野球場	あり	1
珠洲市営野球場	あり	1

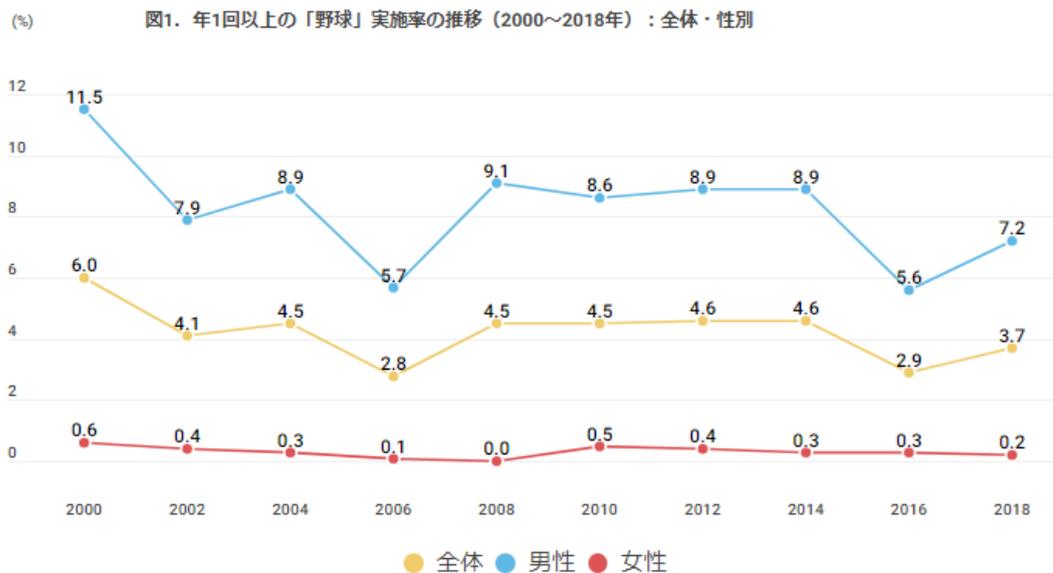
(5) 野球人口の減少

本県の人口は、長期に渡って減少が続き、令和22年（2040年）には978,926人（1,114,791人（令和5年2月）と100万人を割り込むことが見込まれています（出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」）。また、民間の調査によると、年に1回以上野球を行う人の割合は、男性が約7%（2018年）と18年前に比べ、約4割減少していることから、将来、利用者数の減が見込まれるため、施設整備計画の検討にあたり、利用料の減収も考慮する必要があります。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

1. 年1回以上の「野球」実施率の推移（2000～2018年）：全体・性別（20歳以上）



出典：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査2018」

(6) 社会的ニーズへの対応

① 女子選手の利用への対応が不十分

男性がプレーすることを前提に選手用のロッカールームやトイレなどが整備されているため、近年の女子選手の増加に伴い、女子選手も快適に利用できる環境を整備することが求められています。

② 障がい者への対応

車イスの利用者に1階バックネット裏の諸室を観覧スペースとして提供していますが、車イスの利用者から「大勢の観客と同じように内野席等から観戦して、一体感を味わいたい。」との声を伺っています。

③ 熱中症対策

近年の温暖化に伴い、特に夏の高校野球石川大会が行われる7月では平均気温が、県立野球場が整備された1974（昭和49）年と比べると、3～4℃上昇しており、観客席に屋根を設置するなど、熱中症対策を講じる必要性が高まっています。

■金沢市における7月の平均気温の比較（気象庁HPより）

年 月	日平均気温	日最高平均気温	日最低平均気温
1974年7月	23.9℃	28.2℃	20.8℃
2022年7月	27.3℃	31.6℃	24.3℃
比 較	+3.4℃	+3.4℃	+3.5℃

6.2 コンセプト

課題や県民ニーズに対応し、充実した機能や設備を盛り込んだ野球場とするため、以下の方向性を踏まえ、「子どもたちが夢と希望を抱く野球場」をコンセプトとします。

I 未来を担う子どもたちが夢と希望を抱く野球場

県民の観戦ニーズが高く、子どもたちの憧れであるプロ野球（公式戦）の継続的な誘致を可能とし、また、「本県高校野球の聖地」に相応しい魅力的な野球場となるよう、選手ファーストの視点で充実したプレー環境を有する野球場を目指します。

II 誰もが楽しめ、賑わいを生み出す野球場

子どもたちをはじめ県民の誰もが楽しく快適に観戦できるよう、ユニバーサルデザインによる施設整備を行い、人口減少社会にあっても持続可能かつ、賑わいを創出していける野球場を目指します。

【コンセプト】

子どもたちが夢と希望を抱く野球場

【5つのビジョン】

このコンセプトを具現化するため、次の5つのビジョンを掲げます。

① 球児の憧れである「阪神甲子園球場」と同等のプレー環境の創出

② 選手ファーストでの施設整備

③ 誰もが楽しく観戦できる環境整備

④ 環境負荷軽減・ユニバーサルデザインによる施設設備

⑤ 賑わいの創出

6.3 整備の方向性

(1) 球児の憧れである「阪神甲子園球場」と同等のプレー環境の創出

現在の県立野球場は、高校野球での利用が最も多く、決勝戦をはじめ県代表校を決める重要な試合が行われているほか、阪神甲子園球場（以下「甲子園球場」という。）と同様、内野が黒土・外野が天然芝であることから、「本県高校野球の聖地」と位置付けられています。

言うまでもなく、甲子園球場は「高校野球の聖地」であり、甲子園球場でプレーすることは、全国の球児の夢であり、目標となっています。

新たな県立野球場では、グラウンドサイズや形状、フェンスの高さ、内野の黒土、外野の天然芝など甲子園球場に準拠した野球場とし、県内の強豪校はもとより、球児をはじめとする野球選手たちに、高いモチベーションで野球に取り組んでもらうため、「甲子園球場と同等のグラウンド環境」を提供します。

① フィールドエリア

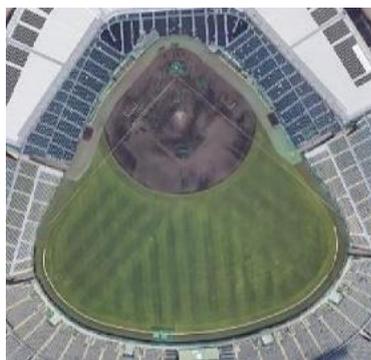
新たな県立野球場では、両翼や中堅までの距離はもとより、フェールグラウンドを含めたグラウンドの形状をできるだけ甲子園球場に準拠するなど、甲子園球場に最も近い野球場を目指します。

通常、多くの野球場では、外野は円の弧を描くような形状となっていますが、甲子園球場では、中堅から左翼・右翼にかけての部分が特に深くなっており、両翼のポール際で急に浅くなる、独特の形状となっています。

左中間・右中間が深いため、外野手の守備力やランナーの判断力の重要性がこれまで以上に高まることとなり、本県の野球レベルの向上が期待されます。

なお、甲子園球場に準拠した形状で整備した野球場では、尾道市の「ぶんちゃんしまなみ球場」の事例があります。

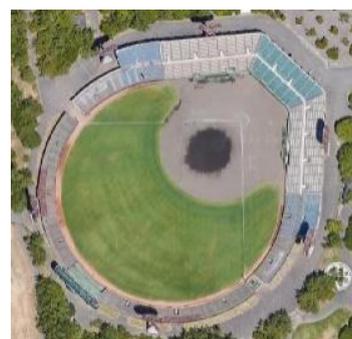
■野球場の形状（甲子園球場、ぶんちゃんしまなみ球場、県立野球場）



阪神甲子園球場
(兵庫県西宮市)



ぶんちゃんしまなみ球場
(広島県尾道市)



県立野球場
(金沢市)

② グラウンドの仕様

グラウンドは、主に天然芝（内野は土）と人工芝の2種類が考えられます。

天然芝は、クッション性に優れ、選手の身体への負担が少なく、夏場では温湿度抑制効果があり、日光の照り返しが少ないといった特徴があります。一方、人工芝は、使用後の芝養生が不要であるため、多目的利用に適しているほか、透水性に優れているので、雨天後もゲームを再開しやすいことが特徴として挙げられます。

なお、NPB12球団の本拠地の球場では、6つのドーム球場を除く、6球場では、天然芝、人工芝がともに3球場となっており、MLB30球団では、ドーム球場を除くと概ね天然芝が採用されています。

このように、それぞれ長所がありますが、選手ファーストの視点で、プレー環境を整えることを最優先に、県立野球場で最も利用が多く、成長発達段階にある高校生をはじめ、利用する選手の身体の負担を考慮するとともに、「利用後には、感謝の気持ちをもってグラウンドを整備すること」が教育的な観点から非常に重要であるとの専門家のご意見も踏まえ、甲子園球場と同様に、天然芝（内野は土）で整備することとします。

使用する土の原産地や、芝の品種についても甲子園球場に合わせ、内野は鹿児島産の黒土、外野は生育の早いティフトン芝（現野球場では高麗芝）とし、常に良好なプレー環境を提供することを目指します。

■天然芝・人工芝の特徴について

種 別	特 徴	概算経費（単位：百万円）※		
		導入経費	維持管理	合 計
天然芝	<ul style="list-style-type: none"> ・クッション性に優れており、選手の身体への負担が少ない。 ・夏場の温湿度抑制効果があり、日光の照り返しが少ない。 	安い 約250	高い 約1,300	やや高い 約1,550
人工芝	<ul style="list-style-type: none"> ・使用後の芝養生が不要であり多目的利用に適している。 ・透水性に優れ、雨天後、再開しやすい。 	高い 約350	安い 約1,050	やや安い 約1,400

※概算経費は、直接経費（諸経費は含まない）であり、維持管理は30年で算定

③ フェンスの高さ

現在の県立野球場のフェンスの高さ（防球ネットを除くラバーフェンス部分のみ）は、内野が約2m、外野が約1.5mとなっています。これは、他県の野球場と比べ、それほど高いわけではありませんが、近年整備された盛岡市の「きたぎんボールパーク」では、1、3塁側のファールグラウンドに、グラウンド側にせり出したフィールドシートを設置するなど、選手との一体感や臨場感を味わえるような工夫が見られます。

また、甲子園球場では、内野フェンスが外野より低くなっており、最前列の観客は、選手と同じ目線で観戦することができる観客席となっています。

新たな県立野球場では、フェンスの高さについても、甲子園球場に準拠することとし、選手にとっても、観客にとっても、甲子園球場と同様な環境で、臨場感をもって、野球の試合を楽しんでいただくことを目指します。

また、ラバーフェンスの上部にしっかりと防球ネットを整備し、観客の安全に十分に配慮します。

■ 甲子園球場及び県立野球場のラバーフェンス



阪神甲子園球場（外野）
（兵庫県西宮市）



阪神甲子園球場（内野）
（兵庫県西宮市）



県立野球場（内野・外野）
（金沢市）

④ 観客席数

NPB公式戦の開催を見据えると、金沢市の人口規模で現野球場の1万7千席は、他県野球場と比べても不足しており、観客席を増席する必要があると考えられます。

一方で、コロナ禍前の3ヵ年（2017～2019）でNPB公式戦が開催された地方球場における入場者数は、2万5千人を超えたのは6試合、2万2千人を超えたのは8試合で、9割以上の公式戦では2万2千人未満となっています。

なお、入場者数が2万2千人を超えた試合の大半は、「倉敷スポーツ公園野球場（マスカットスタジアム）」、「ハードオフエコスタジアム新潟」で開催された試合ですが、倉敷市は近隣に岡山市（約70万人）があり、新潟市は約77万人と人口規模が大きなことが要因として考えられます。

また、隣県での直近10年のNPB公式戦の入場者数では、「富山市民球場アルペンスタジアム（アルペンスタジアム）」（3万人収容）では、13試合のうち最大が2万1,641人、「福井県営球場」（2.2万人収容）では、5試合のうち最大が1万8,864人となっており、いずれも2万2千人を下回っています。

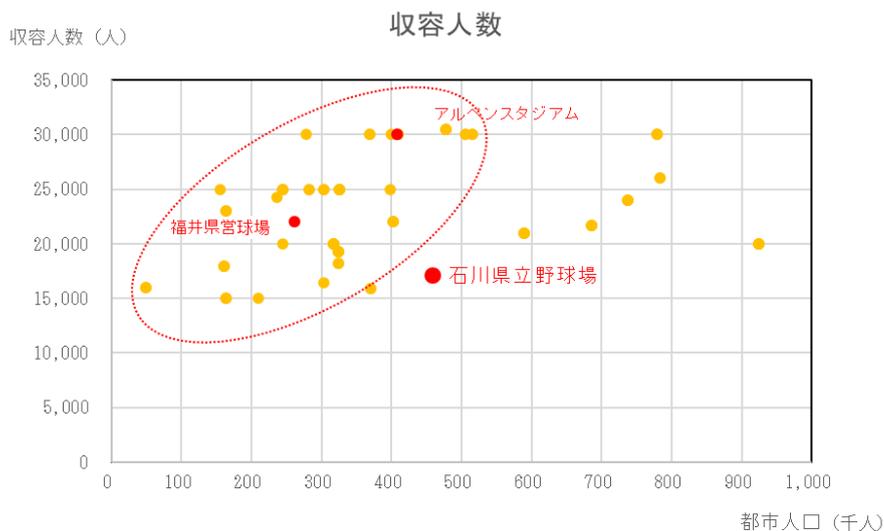
こうしたことに加え、人口減少・野球人口の減少傾向や県の財政事情も考慮し、観客席数は、現在の1万7千席から5千席増となる2万2千席規模で検討を進めることとします。

収容人数の拡大により、現状よりも広がる観客席の下部スペースを有効活用し、施設規模を抑えながらも必要な設備を備えた魅力的な野球場となるよう、併せて検討します。

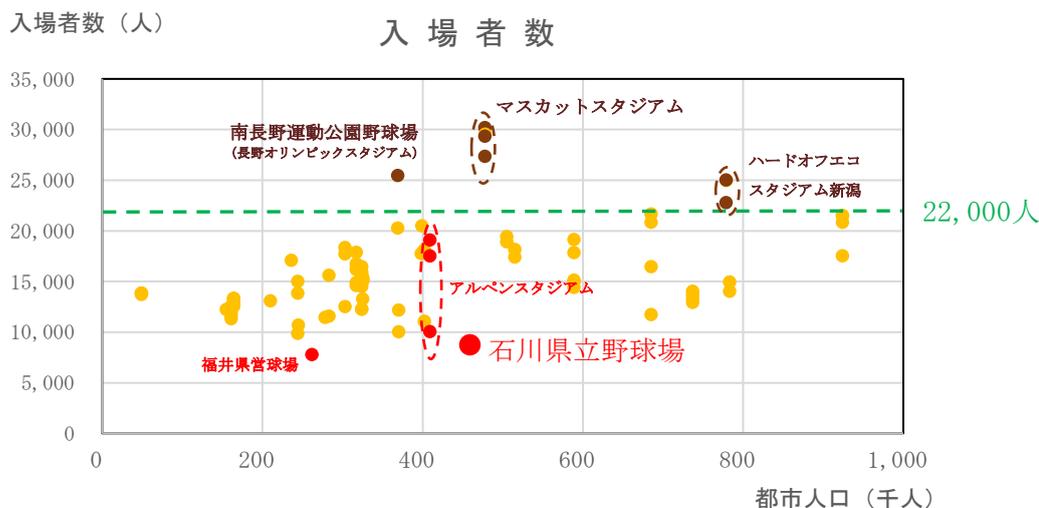
■金沢市と人口規模に近い都市の野球場の収容人数

宇都宮市（515千人）	宇都宮清原球場	（3万席）
松山市（505千人）	松山中央公園野球場	（3万席）
倉敷市（478千人）	マスカットスタジアム	（3万席）
金沢市（459千人）	石川県立野球場	（1.7万席）
富山市（409千人）	アルペンスタジアム	（3万席）

■プロ野球が開催された地方球場における収容人数の分布図（2017～2019実績）



■地方球場でのプロ野球の入場者数の分布図（2017～2019実績）



(2) 選手ファーストでの施設整備

県立野球場は、県内で唯一、NPB公式戦が開催されているなど、本県を代表する野球場であり、このグラウンドでプレーすることは、県内の野球選手にとって特別なものであるとの声があります。その一方で、近年では子どもの野球離れが進んでいます。プレイヤーがベストパフォーマンスを発揮できるよう、選手ファーストの視点でプレー環境の充実を図ることにより、子どもたちの野球に対する憧れが高まり、野球の裾野の回復・拡大につながることを期待されます。

① 整備の水準

県民アンケートの結果、プロ野球の開催を望む声が最も多く、多くの県民が県立野球場での、国内最高峰の競技レベルであるプロ野球（公式戦）観戦を楽しみにしていることが窺えます。

こうした県民の期待を踏まえ、プロ野球（公式戦）が開催できる水準の施設設備を目指します。

（県民アンケート結果（R4.10.20～11.19））【再掲】

第1位：プロ野球が開催できる水準の規模・設備	20.8%
第2位：誰もが楽しく観戦できる環境の整備	15.9%
第3位：多目的利用による賑わいの創出	14.3%

② 球場の方位

野球場の方位は、選手ファーストと観客ファーストの2つの考え方があります。

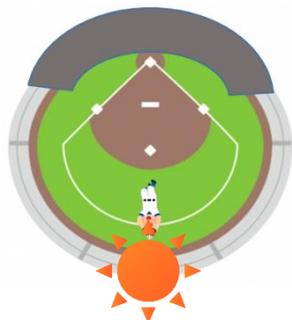
選手ファーストの場合は、野手が太陽を背にしてプレーできるように投手から本塁への向きを北東方向に配置します。野手は、フライ捕球の際、太陽が目に入ることがなく、ボールが見やすく、捕球しやすいと言われており、現在の県立野球場をはじめ、多くの地方球場で採用されています。

一方、観客ファーストの場合は、多くの観客が太陽を背にするように、本塁を南西方向に配置します。観客にとっては、打球が太陽と重なることなく、見やすくなり、アメリカの多くの球場で採用されています。また、観客席に屋根を設置する場合、日陰部分が大きくなります。

現野球場は、北東向きとなっており、新野球場でも選手ファーストの観点から、現在と同様、北東向きとなるよう配置します。

■野球場の方位

北東向き（選手ファースト）



南西向き（観客ファースト）



【北東～北向き】 甲子園球場、楽天モバイルパーク宮城、ZOZOマリンスタジアム
 ハードオフエコスタジアム新潟、マスカットスタジアム、秋田県立野球場
 長野オリンピックスタジアム、松山中央公園野球場

石川県立野球場、金沢市民野球場、小松運動公園末広野球場 など

【南～西向き】 横浜スタジアム、明治神宮球場、MAZDA zoom-zoomスタジアム広島

③ スコアボード

プロ野球（公式戦）が開催される球場は、大型映像とスコア等がLEDで一体表示されるもの（一体型）が多く、地方球場では分離型が主流となっています。

現野球場は分離型ですが、建て替えを機に、プロ野球球団の本拠地球場でも採用されている、一体型のスコアボードの導入を検討します。

（一体型のスコアボードイメージ）



（分離型のスコアボードイメージ）

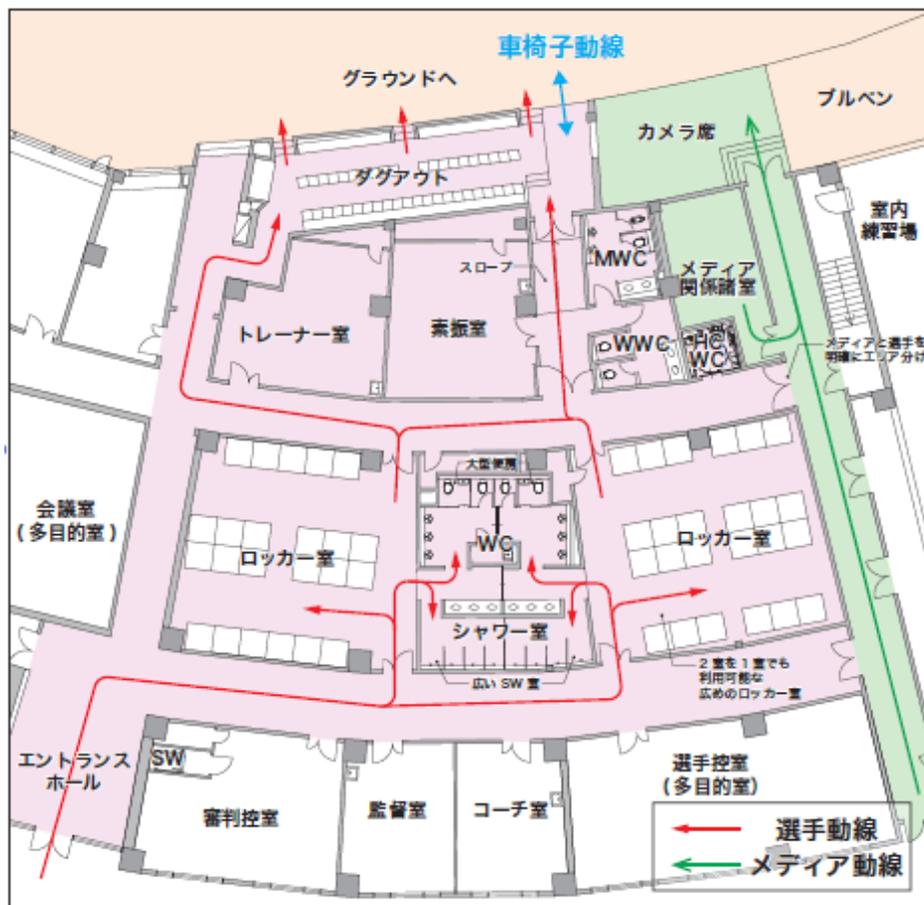


④ ロッカールーム等

野球の大会は1日に数試合が行われることが一般的です。このため、試合毎の選手の入替がスムーズになるよう、ダグアウト（1塁側・3塁側）への出入口やロッカールームを複数設置します。

また、女子選手が増加していることを踏まえ、女子選手が利用しやすくなるよう、ロッカールーム毎にトイレを設置するほか、次の試合のための選手の待機場所を設けるとともに、空調設備も完備します。

■ロッカールームイメージ図



⑤ 室内練習場

現野球場では、球場内に室内練習場がないため、試合前のウォーミングアップは、西部緑地公園の多目的広場やソフトボール場で行われています。近隣の高校などでは、高校のグラウンドでウォーミングアップを行ってから、県立野球場へ向かうチームもあります。

このため、新野球場では室内練習場を1塁側、3塁側のそれぞれに設けることとし、試合前のウォーミングアップでも利用できるような十分な広さを確保するとともに、冬季利用、フットサルなど多目的な利用ニーズにも対応するほか、野球関係者の講習会などでも利用できるような会議室など諸室の充実にも努めます。

(3) 誰もが楽しく観戦できる環境整備

石川県では、国のスポーツ基本計画を踏まえ、スポーツを「する」人に加え、「みる」「ささえる」人を含めた「スポーツ参画人口」の拡大を推進しています。

県立野球場が、年齢や性別、障害の有無を問わず、県民の各層から親しまれる施設となるよう、誰もが楽しく快適に観戦できる環境を整えます。多くの県民が県立野球場に足を運ぶことは、野球に対する関心、愛着が高まるほか、公園全体の賑いや活気を生み出すことにつながります。

① 熱中症対策

甲子園に向けた夏の高校野球石川大会が開催される7月は、現野球場整備当時と比べ、平均気温が3～4℃上昇しており、熱中症リスクが高まっています。

こうした熱中症のほか、雨天時に対応するため、観客席の屋根の設置について検討します。

また、他県の野球場では、球場内のコンコースやダグアウトにミストシャワーを設置している例も見られます。噴霧された水分が蒸発して気体になる際に、大気中から熱量を吸収し、気温が高く、湿度が低いほど、気化が促進され、冷却効果が高まると言われています。新野球場では、こうした熱中症対策についても検討します。

■ 観客席の屋根のイメージ



阪神甲子園球場
(兵庫県西宮市)



秋田県立野球場 (こまちスタジアム)
(秋田県秋田市)

■ ミストシャワーのイメージ



MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島 (マツダスタジアム)
(広島県広島市)



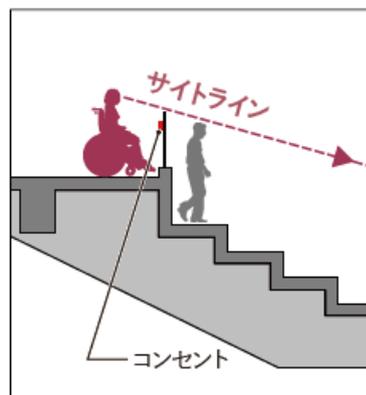
オロナミンC球場
(徳島県鳴門市)

② 車イス用観覧スペースの設置

現野球場では、1階バックネット裏の諸室を観覧スペースとするなど、車イス利用者の観戦に配慮してありますが、車イス利用者が観客席で一体感をもって観戦できるよう、車イス利用者用の観覧スペースを設けます。

その際には、前列の観客が立ち上がっても、車イス利用者の観戦に支障を来すことのないよう、サイトラインを確保するほか、エレベーターの設置、ピクトグラムを活用など、観覧スペースへのアクセスについても十分に配慮します。

■車イス用観覧スペースとサイトラインのイメージ



③ ICTの活用

ICT分野は技術進歩が著しく、スポーツ分野においては、選手・チームの競技パフォーマンス向上の支援や競技観戦者がより楽しめるよう、エンターテインメント性の向上に活用されています。

新野球場では、こうした技術進歩に対応していくため、大人数が同時に利用しても通信できる高密度Wi-Fiの導入などICTの活用について検討します。

④ フェンスの高さ（再掲）

新野球場では、フェンスの高さについても、甲子園球場に準拠することとし、選手にとっても、観客にとっても、甲子園球場と同様な環境で、臨場感をもって、野球の試合を楽しんでいただくことを目指します。

また、ラバーフェンスの上部にしっかりと防球ネットを整備し、観客の安全に十分に配慮します。

⑤ スコアボード（再掲）

プロ野球（公式戦）が開催される球場は、大型映像とスコア等がLEDで一体表示されるもの（一体型）が多く、地方球場では分離型が主流となっています。

現野球場は分離型ですが、建て替えを機に、プロ野球球団の本拠地球場でも採用されている、一体型のスコアボードの導入について検討します。

(4) 環境負荷軽減・ユニバーサルデザインによる施設整備

西部緑地公園は、災害が発生した場合の指定避難場所に指定されていることから、新野球場では、太陽光発電や発電機の活用による非常用電源の確保や貯留雨水の生活用水利用など、避難場所としての機能の充実に努めます。

① 環境負荷の軽減

太陽光発電設備の導入により、再生可能エネルギーの活用に努めます。さらには、施設全体でのLED照明の採用や高効率照明・高効率空調によるエネルギーの効率的な利用、高性能外皮断熱・日射遮蔽などによる建物内の環境維持に必要なエネルギーの削減などにより、ZEB Ready※ 相当を目指します。

※ZEB Ready（ゼブ・レディ）とは、Net Zero Energy Building Readyの略称。

再生可能エネルギーを除き、省エネ技術で基準一次エネルギー消費量（断熱使用、設備毎等により定められる標準的な1次エネルギー消費量で、省エネルギー基準は2016年）を50%以上の削減を実現している建築物。

■太陽光発電イメージ

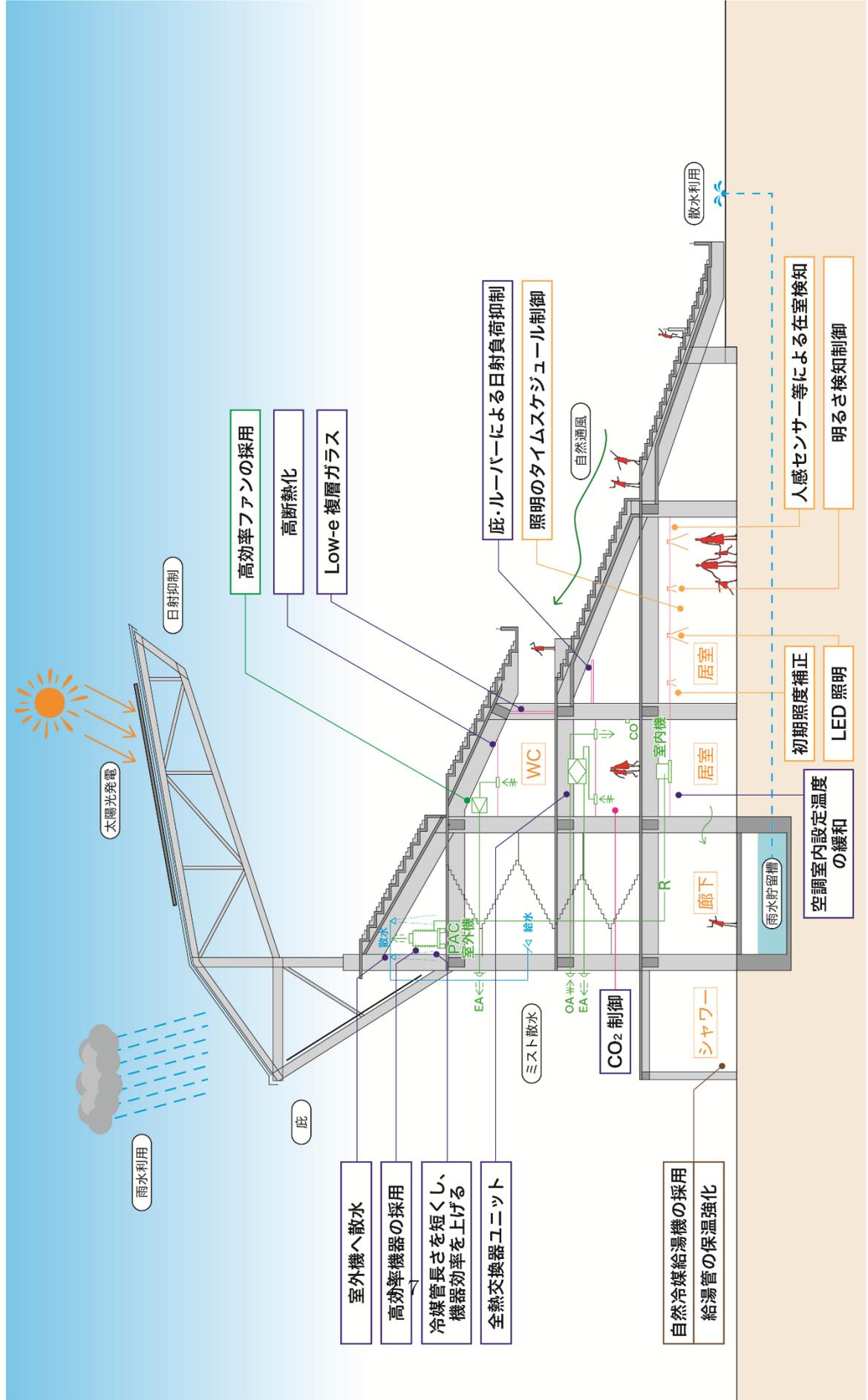


MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島（マツダスタジアム）
（広島県広島市）

（参考）他球場での太陽光発電量（年間）

・甲子園球場	193,000kwh
・MAZDA zoom-zoomスタジアム広島	104,800kwh
・バンテリンドームナゴヤ	62,000kwh

■新県立野球場における環境負荷軽減手法のイメージ



② ユニバーサルデザイン化

※ユニバーサルデザイン

年齢や性別、身体的能力などの違いに関わらず、初めから出来る限り全ての人が使いやすいようにデザインする考え方

a. ピクトグラム

ピクトグラム（絵文字）は、言語を使わなくとも情報を視覚的にわかりやすく伝え、理解してもらえるといた特徴があります。選手・観客とも利用しやすくなるよう、ピクトグラムの活用に努めます。

■ピクトグラムイメージ



b. エレベーターの設置

車イス観戦者はもとより、今後、増加が見込まれる高齢者も観客席までスムーズに行けるようエレベーターを設置します。

加えて、ダグアウト等に車イスの方でもスムーズに出入りできるようにフラット化するなど、施設全体のユニバーサルデザイン化を目指します。

■エレベーター設置イメージ



c. 多様なトイレの設置

多目的トイレは便利な反面、設置数が少なく、行列ができてしまい、利用するまでの待ち時間が長くなってしまいう傾向が見られます。これを踏まえ、トイレの機能分散の観点から、身体障がい者も利用しやすい大きめのトイレの設置数を増やすなど、多様なトイレを設置します。

d. 動線のシンプル化

現野球場は、駐車場が分散しており、必ずしも駐車場から野球場へのアクセスが分かりやすいとは言えない面があります。公園全体の再整備と合わせて、駐車場からのアクセスを含む野球場全体の動線のシンプル化(ユニバーサルデザイン化含む)に努めます。

(5) 賑わいの創出

西部緑地公園内には、産業展示館や陸上競技場などの施設が集積しており、野球場整備の検討にあつては、公園全体や、これらの施設との関係性、役割・機能の分担について考慮する必要があります。

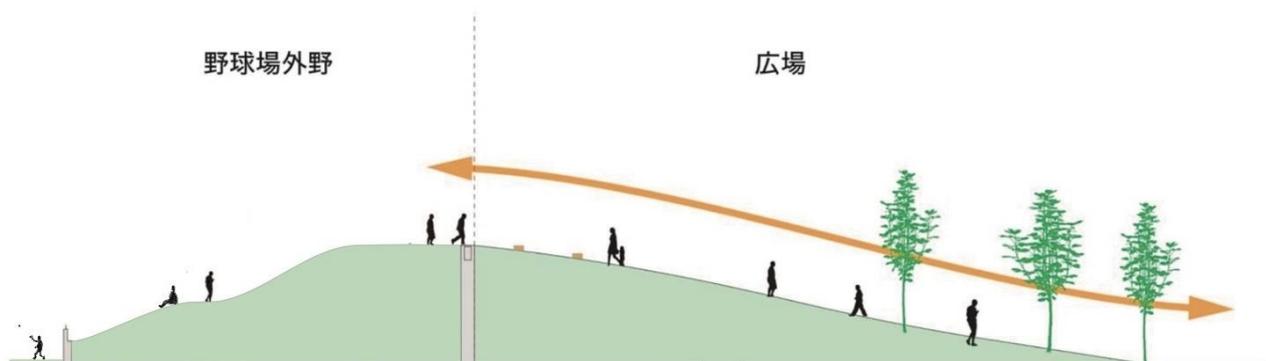
その上で、野球場においては、野球の試合がない日や、野球にあまり興味がない方でも楽しめるような方策など、賑わいの創出に向けた野球場の役割や必要な機能について検討します。その際には、雨天時や冬季の利用方策について考慮します。

① 公園とのつながり

公園内に設置される球場であるため、その立地を活かし、公園とのつながりが感じられるよう、外野席を芝生席とした上で、公園緑地に起伏を設け、外野席の最後部と高さを揃え、つなげます。

これにより、緑地空間がより一層、広く感じられ、これまでは、関係者以外あまり目にすることがなかった野球場内が開放的になり、公園来場者にとって、これまで以上に野球場が身近に感じられるようになります。

■公園とのつながりのイメージ



② 室内練習場（再掲）

新野球場では、十分な広さの室内練習場を1塁側、3塁側のそれぞれに整備することとしています。

他県の例でも、室内練習場は通年で利用されており、特に、野球場のグラウンド利用が難しい12月～3月の冬季については、野球の練習場所として、多く利用されています。また、サッカー、フットサル、ソフトボールなど野球以外の競技で利用されることもあります。

県内の野球やサッカーなどの屋外競技の関係者からは、雨天時や冬季でも利用できる練習場を求める声があることから、室内練習場の整備は、こうしたニーズにも対応するものであり、多くの方の県立野球場の利用につながると考えられます。

③ 外野席下のスペースの活用

緑地の再配置や遊具の設置など公園全体を再整備することにより、子育て世代の親子など、より多くの方の来園が期待されます。

また、野球人口が減少傾向にある中、子どもたちが野球場を身近に感じ、野球に対する興味・関心を高めていくための取り組みが、今後、益々重要になっています。

このため、外野席下のスペースを活用した屋内こども遊戯施設の整備について検討します。

降雨・降雪が多い北陸特有の気候を考慮すると、屋内遊戯施設の設置は、利用者の利便性、ひいては公園全体の魅力の向上につながります。

■外野席下のスペースの利用例



松山中央公園野球場 スポーツフロア
(愛媛県松山市)



倉敷マスカットスタジアム 武道場
(岡山県倉敷市)



等々力球場 老人いこいの家
(神奈川県川崎市)

④ パブリックビューイング・全国大会等の誘致

近年では、世界大会を中心に注目度の高い大会・公式戦において、大勢の方が集まり、一体感を持って応援する、パブリックビューイングの開催が増えています。県立野球場の建替えに伴い導入する大型スコアボードを活用したパブリックビューイングの実施を検討するほか、県野球協会などの関係団体と連携のうえ、アマチュア野球の全国大会、大学野球のキャンプ・リーグ戦などの誘致を検討します。

■パブリックビューイング、全国大会イメージ



パブリックビューイングのイメージ



全国大会のイメージ

⑤ キッチンカー等の活用

地方球場では、野球場内の売店は、一定の集客が見込まれる大きな大会の開催期間中に限定して営業されており、プロ野球の開催時などは、野球場周辺でキッチンカー等の臨時店舗が開設されることが一般的となっています。

このため、県立野球場においても、野球場内ではニーズに見合った売店スペースとするほか、野球場周辺に、キッチンカーやプロ野球開催時のグッズ売り場としても使用できるよう、ゆとりのあるスペースの確保により、イベントの集客力・来場者ニーズに応じたサービスが提供できる環境を整備します。

■キッチンカーイメージ



球場周辺のキッチンカーのイメージ①



球場周辺のキッチンカーのイメージ②

第7章 整備の方向性（新産業展示館）

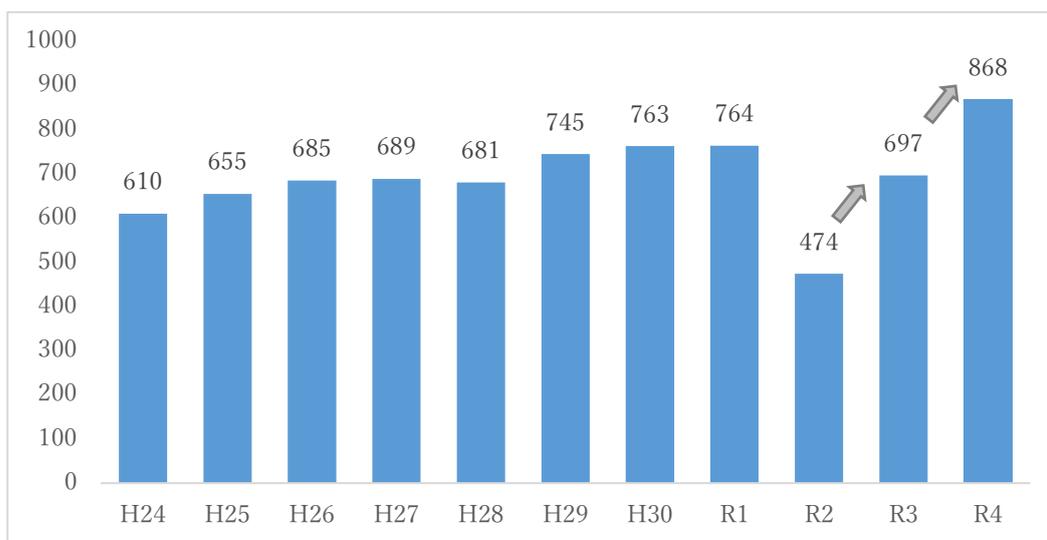
7.1 展示産業を取り巻く環境

(1) 全国の展示会の開催件数・規模

■開催件数の推移

国内の展示会（個別企業の展示会や即売会を除く）は、令和元年まで緩やかな増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、令和2年に大きく落ち込みました。その後、令和3年は感染拡大前の令和元年の9割程度まで回復、令和4年は令和元年を上回りました。

国内の展示会開催件数の推移

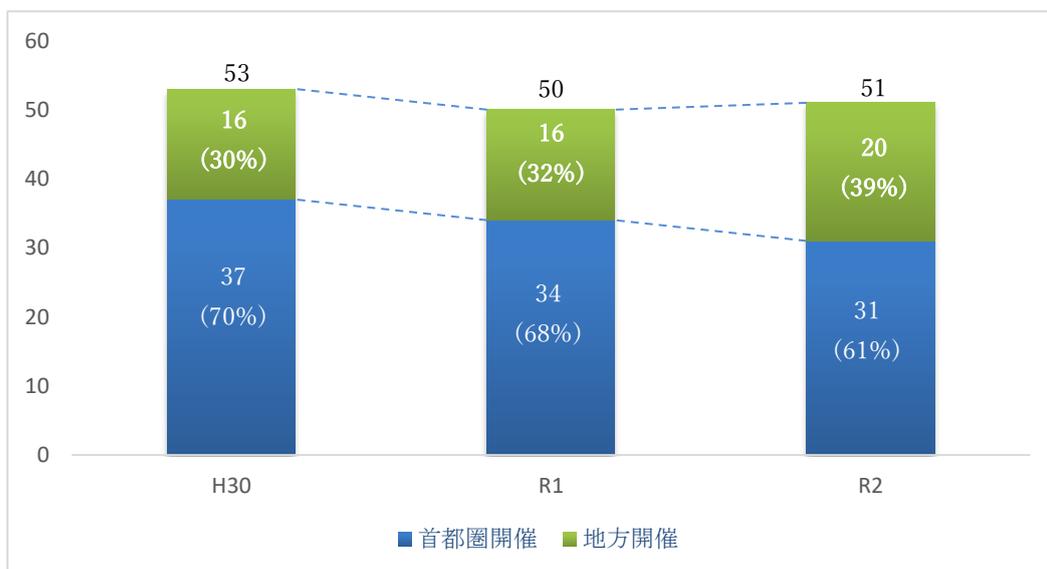


出典：(株)ピーオーピー「見本市展示会通信」

■新規展示会の開催件数の推移

新規展示会は、平成30年が53件、令和元年が50件、令和2年が51件となっています。地方都市での開催は、平成30年が30%、令和元年が32%、令和2年が39%と、新規展示会に占める地方都市の割合は増加傾向にあります。

新規展示会の開催件数

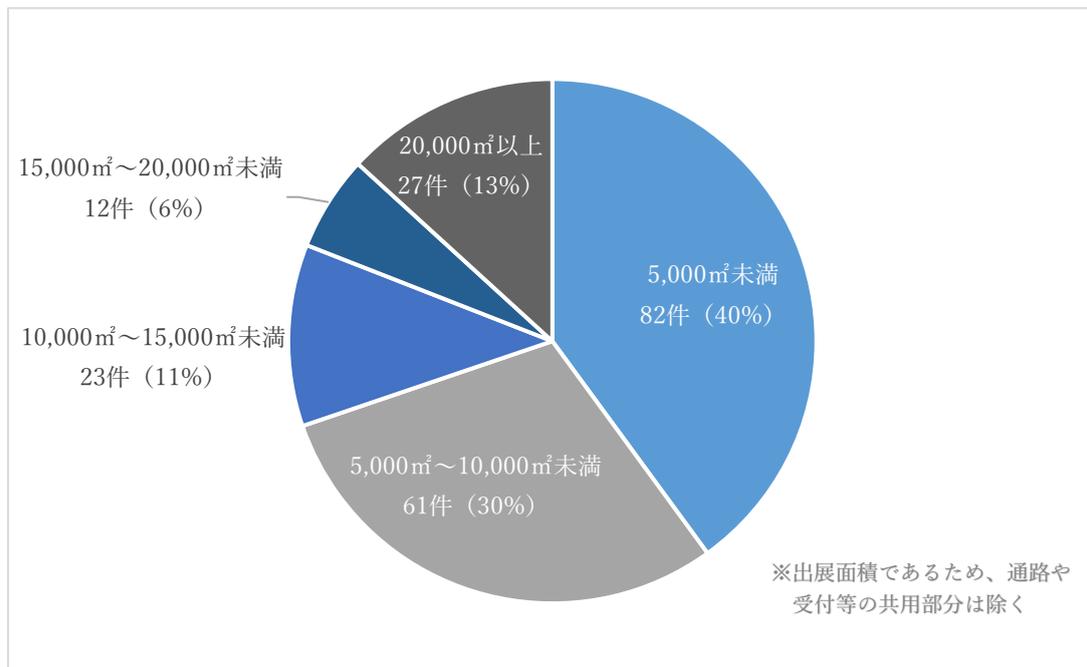


出典：(株)ピーオーピー「見本市展示会通信」

■開催規模

(一社) 日本展示会協会によると、令和元年の展示会の出展面積（開催規模）は、5,000 m²以上の大規模なものが全体の半数以上を占めています。また、展示会全体の9割程度が20,000m²未満の規模となっています。

出展面積別 展示会開催件数 (R1年)



出典:(一社)日本展示会協会「2019年展示会実績調査」

(2) 展示場の整備状況

近年、全国の特に主要都市において、展示場の整備が進んでいます。直近では、令和4年10月に、「ポートメッセなごや新第1展示館」が開業したほか、札幌市では、新展示場の建設計画が進められています。

近年整備されている展示ホールのスペックとしては、ほぼ全ての施設で展示空間が無柱であり、展示ホールを分割できる仕様になっています。天井高については15～20mが多い傾向にあります。

また、大規模な展示ホールに加えて、複数の会議室も整備され、コンベンション利用も可能な施設が多くなっています。

北陸エリアの主要な展示場としては、「朱鷺メッセ」や「富山テクノホール」、「サンドーム福井」があり、「富山テクノホール」は平成29年に増築されています。

■ 近年整備された（又は整備予定の）展示場

施設名 【整備主体/所在地】		開業	展示面積	展示空間	分割数	天井高	会議室
札幌市新展示場（仮称） 【札幌市/同左】		R9 予定	15,000㎡	無柱	可 (7分割)	10m	25室 (50～500㎡)
ポートメッセなごや 新第1展示館 【名古屋市/同左】		R4.10	20,160㎡	無柱	可 (4分割)	20m	6室 (352㎡)
マリンメッセ福岡 B館 【福岡市/同左】		R3.4	5,000㎡	無柱	不可	15m	2室 (354、373㎡)
Gメッセ群馬 【群馬県/高崎市】		R2.6	10,000㎡	無柱	可 (3分割)	21m	37室 (8～650㎡)
愛知県国際 展示場 【愛知県/常滑市】	ホール A	R1.8	10,000㎡	無柱	不可	20m	18室 (30～300㎡)
	ホール B～F		50,000㎡	柱あり	可 (5分割)	14m	

※札幌市新展示場（仮称）は計画段階であり、今後変更の可能性がある。

■ 北陸エリアの主要な展示場

施設名 【整備主体/所在地】		開業	展示面積	展示空間	分割数	天井高	会議室
朱鷺メッセ 【新潟県/新潟市】		H15.5	7,800㎡	無柱	可 (2分割)	22～25m	12室 (60～649㎡)
富山テクノ ホール 【三セク(富山県・ 富山市)/富山市】	東館	S58.9	3,363㎡	無柱	不可	12m	2室 (108、300㎡)
	西館	H29.10	3,634㎡		可 (4分割)	9m	
サンドーム福井 【福井県/越前市】		H7.7	8,000㎡	無柱	不可	28～40m	なし

(3) 現在の産業展示館（1～3号館）の課題

① 施設の老朽化

現在の1～3号館は、築45年以上が経過し、老朽化が進行しています。毎年、施設の改修や修繕など機能維持のための必要な対応は実施していますが、利用者に質の高いサービスを提供することが難しくなっています。

② 展示ホールの狭隘化

大規模な展示会では、スペースが足りず、出展を断るケースもあります。また、催事が集中する週末には、利用を断らざるを得ないケースも発生しています。

③ 来場者等の滞留空間の不足

現在は、玄関入ってすぐ展示場の間取りのため、来場者等の休憩・くつろぎスペースが大幅に不足しています。大規模なイベント時には、入場待ちの参加者は館入口前の屋外で待機せざるを得ず、特に雨天時の対策が困難な状況となっています。

④ 会議室、商談室等の諸室の不足

現在の産業展示館にも、会議室や商談室等の必要な諸室を備えていますが、その部屋数・大きさともに十分ではなく、展示会に併せたセミナーや商談が展示場内に仮設のスペースを設けて行われているケースが見受けられます。また、分科会用に多くの会議室が必要となる大規模な学会・大会等のコンベンションも僅かな開催実績となっています。

⑤ 公園内の施設としての特色を活かしきれていない

県民の皆様からは、「産展（さんてん）」の名称で親しまれている一方で、イベント・催事目的の来場者が大半で、公園利用者等が気軽に立ち寄れる場所・空間にはなっていません。

⑥ 時代にそぐわない設備

施設内の照明・音響・空調などの設備は時代にそぐわなくなっており、昨今の利用者ニーズに十分応えることは難しくなっています。また、Wi-Fiをはじめとするデジタル化や、太陽光パネルなど環境に配慮した設備の導入など、時代の要請への対応が必要となっています。

7.2 コンセプト

課題や県民ニーズに対応し、施設の利便性や機能を一層高めるとともに、緑地空間をはじめ公園との一体的な利活用も可能にすることで、多彩な催しが開催され、賑わい・交流の創出される展示場とします。

<コンセプト>

多彩な催しで賑わい・交流の生まれる展示場

多彩な催しを通じて、県内外の多様な「ヒト」、最新の「モノ」や「情報」が集まり、そこから新たな賑わい・交流の生まれる拠点を目指します。

<コンセプトを実現する3つの空間>

① 展示機能等を強化した使い勝手の良い空間

→ 様々な規模や用途の展示会、大規模なコンベンション、各種イベントに対応
(現4号館との一体的な利用も想定)

② 公園内の施設としての特色を活かして賑わい・交流を創出する空間

→ 緑地空間とアクセスしやすい動線、公園利用者が気軽に立ち寄れる機能

③ 時代の要請に対応した利便性の高い空間

→ デジタル化、環境配慮、ユニバーサルデザイン、バリアフリー、防災拠点機能

※ 県内において、民間企業によるアリーナ機能を備えた施設の建設が計画されていることを踏まえ、新産業展示館では、同様の機能を整備しないこととします。

7.3 整備の方向性

(1) 主な機能

① 展示機能等を強化した使い勝手の良い空間

- ✓ 現在の1～3号館の展示面積（計11,043㎡）より拡大し、**新産業展示館単独で13,500㎡**、**現4号館と合わせて約20,000㎡**を確保します。これにより、これまで開催が難しかった大規模な展示会やコンベンションの開催が可能になります。
- ✓ **展示ホールを2つ設置し、間仕切で分割可能な仕様**とすることにより、様々な規模や用途の催事に対応します。また、多様な催事の複数同時開催も可能にします。



大型で分割可能な展示ホール
(Gメッセ群馬)



間仕切で分割可能な仕様
(東京ビッグサイト)

- ✓ **使い勝手や機能性を重視した空間**とします。
 - 商談室・控室の充実
 - 十分な天井高・床耐荷重、利便性の高い床下ピット（電源・通信等）
 - 最新の照明・音響・空調・給排水設備
 - 気軽に利用できるワークスペースの整備 など



商談室
(幕張メッセ)



大型展示物にも対応できる天井高
(幕張メッセ)

✓ 円滑な搬入動線を確保します。

- 大型の搬入口（大型車両が直接乗入可能）の整備
- 円滑な搬入車両路、十分な駐車・待機スペースの確保 など



大型の搬入口
(愛知県国際展示場)



大型車両が直接乗入して会場設営
(インテックス大阪)

✓ 間仕切で分割可能な大会議室のほか、中小会議室を多数整備します。これにより、展示会に併せたセミナー・商談、大規模なコンベンションにも対応できるようになります。また、小規模な展示会（絵画や骨董等を想定）の利用も可能にします。



大会議室
(愛知県国際展示場)



会議室を利用した小規模な展示会
(愛知県国際展示場)

② 公園内の施設としての特色を活かして賑わい・交流を創出する空間

- ✓ ゆとりあるホワイエ空間を整備し、来場者・公園利用者等の休憩・くつろぎスペースのほか、イベント時の滞留空間を確保します。



ホワイエ空間
(ポートメッセなごや)



休憩・くつろぎスペース
(Gメッセ群馬)

- ✓ イベント・催事目的の来場者だけではなく、公園利用者等が気軽に立ち寄れる仕掛けとして、**新産業展示館と緑地空間をつなぐ、大屋根スペース**を整備します。これにより、緑地空間との一体的な利活用が可能となり、賑わいの創出にも繋がります。



大屋根スペース
(東京たま未来メッセ)

<主な利用想定>

- ◇ 休憩・くつろぎスペース
- ◇ イベントスペース
- ◇ キッチンカーの出店スペース



③ 時代の要請に対応した利便性の高い空間

- ✓ Wi-Fiをはじめとするデジタル機器、太陽光パネルなど環境に配慮した設備、全ての人にとって利用しやすいユニバーサルデザイン、バリアフリーを導入します。



太陽光パネル
(Gメッセ群馬)



雨水の利活用
(パシフィコ横浜)

- ✓ 新産業展示館と近接する形で駐車場を確保するとともに、現4号館との間の動線を整備し、一体的な利用も可能とします。また、来場者が雨や雪に濡れないような対策も検討します。



公園内の施設を結ぶ歩行者デッキ
(大阪城公園)



正面ゲートに向かう雨に濡れない通路
(インテックス大阪)

- ✓ 現産業展示館は、石川県災害時受援計画において「広域物資輸送拠点候補地」及び「地域内輸送拠点候補地」に位置づけられており、令和6年能登半島地震の際には、支援物資の輸送拠点や被災者の1.5次避難所として活用され、防災拠点としての機能を発揮しました。こうした経験を踏まえ、防災拠点として必要な機能や相応しい安全性を確保します。



支援物資の輸送拠点 (現4号館)



被災者の1.5次避難所 (現2号館)

(2) 施設規模

新産業展示館は、展示面積**13,500㎡程度**（現4号館と合わせて**約20,000㎡程度**）を想定しています。また、館内には、ホワイエ、会議室、商談室など、十分な広さの共用・交流スペースを設けます。

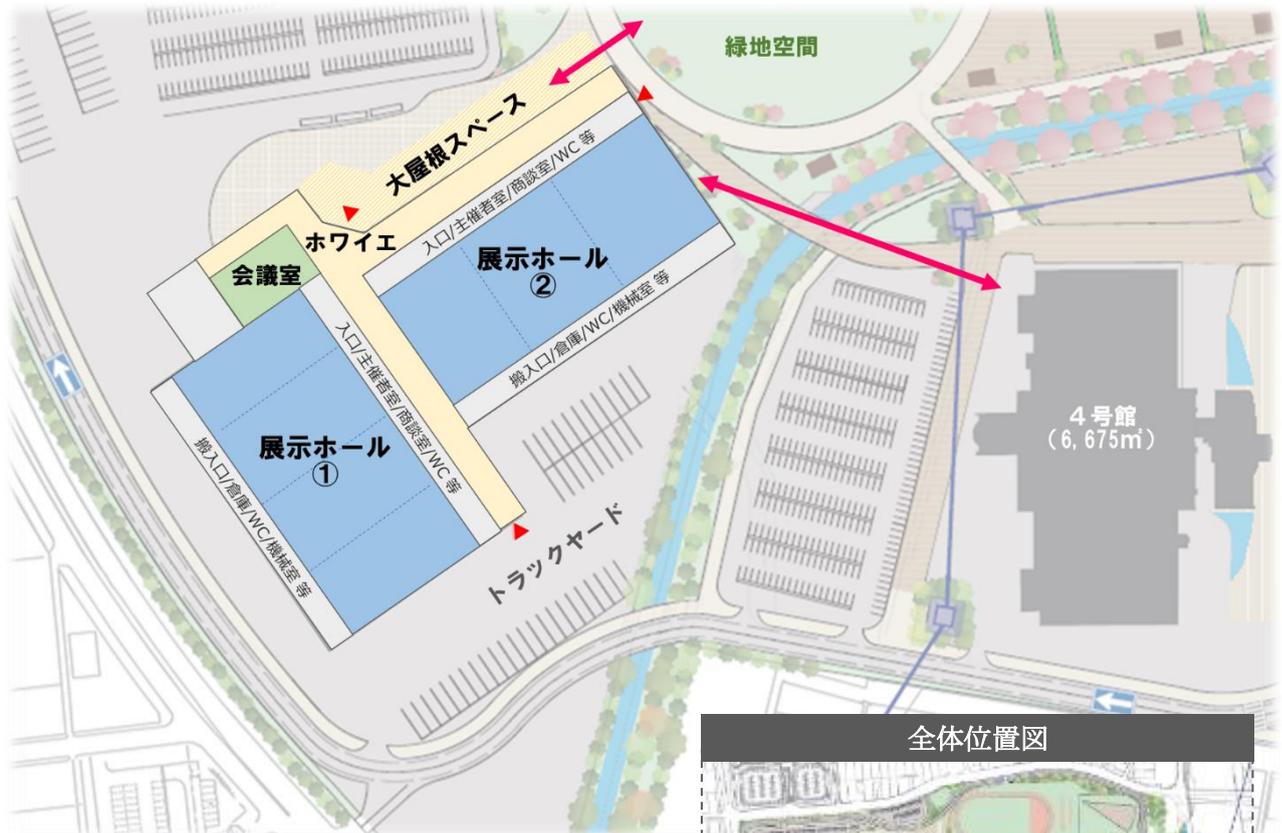
<現1～3号館と新産業展示館の面積比較>

	現1～3号館	新産業展示館	面積拡大の根拠・考え方等
展示ホール	11,043㎡	13,500㎡程度	<ul style="list-style-type: none">・現4号館と合わせて20,000㎡確保することで、開催できるイベントの幅が拡大・大規模イベント時や繁忙期の週末のスペース不足に対応
共用・交流スペース	7,223㎡	十分な広さを確保	<ul style="list-style-type: none">・ホワイエの新設・会議室、商談室など必要な諸室、来場者用トイレの充実 等

※今後、変更の可能性がある。

(3) 配置イメージ

- ◇ 現4号館や緑地空間との一体的な利活用を想定した配置とします。
- ◇ 2つの展示ホールを設け、ホワイエでつなぐとともに、主催者室や商談室は、展示ホールに近接する形で配置します。



※今後、変更の可能性がある。



(4) 諸室構成・仕様等

新産業展示館のエリアごとに必要な諸室・設備等の構成及びその仕様等は、以下を想定しています。

■諸室構成・仕様等①

エリア	事項	整備の方向性
展示ホール	ホール構成	・多様な催事の複数同時開催を可能とするため、2ホール（同規模程度）に分割して整備
	間仕切	・小規模な利用ニーズに対応できるように、間仕切を設置
	空調（冷暖房）	・規模に応じた効率的な空調（冷暖房）設備を導入
	床仕様	・コンクリート仕上げとし、十分な耐荷重を確保 ・電源や通信等への接続が可能な十分な容量の床下ピット、給排水設備を整備
	天井高	・大型の展示物にも対応できる十分な天井高を確保
	吊り機構、照明	・ホール内各所に重量のある吊り物を設置可能、必要十分な光量の照明を設置
	控室	・展示ホールに近接する形で、主催者用、出展者用、商談用等を適宜設置
	備品倉庫	・展示ホールに近接する形で設置し、使いやすさに配慮
	バックヤード	・車両の円滑な乗り入れが可能なバックヤードを整備

※今後、変更の可能性がある。

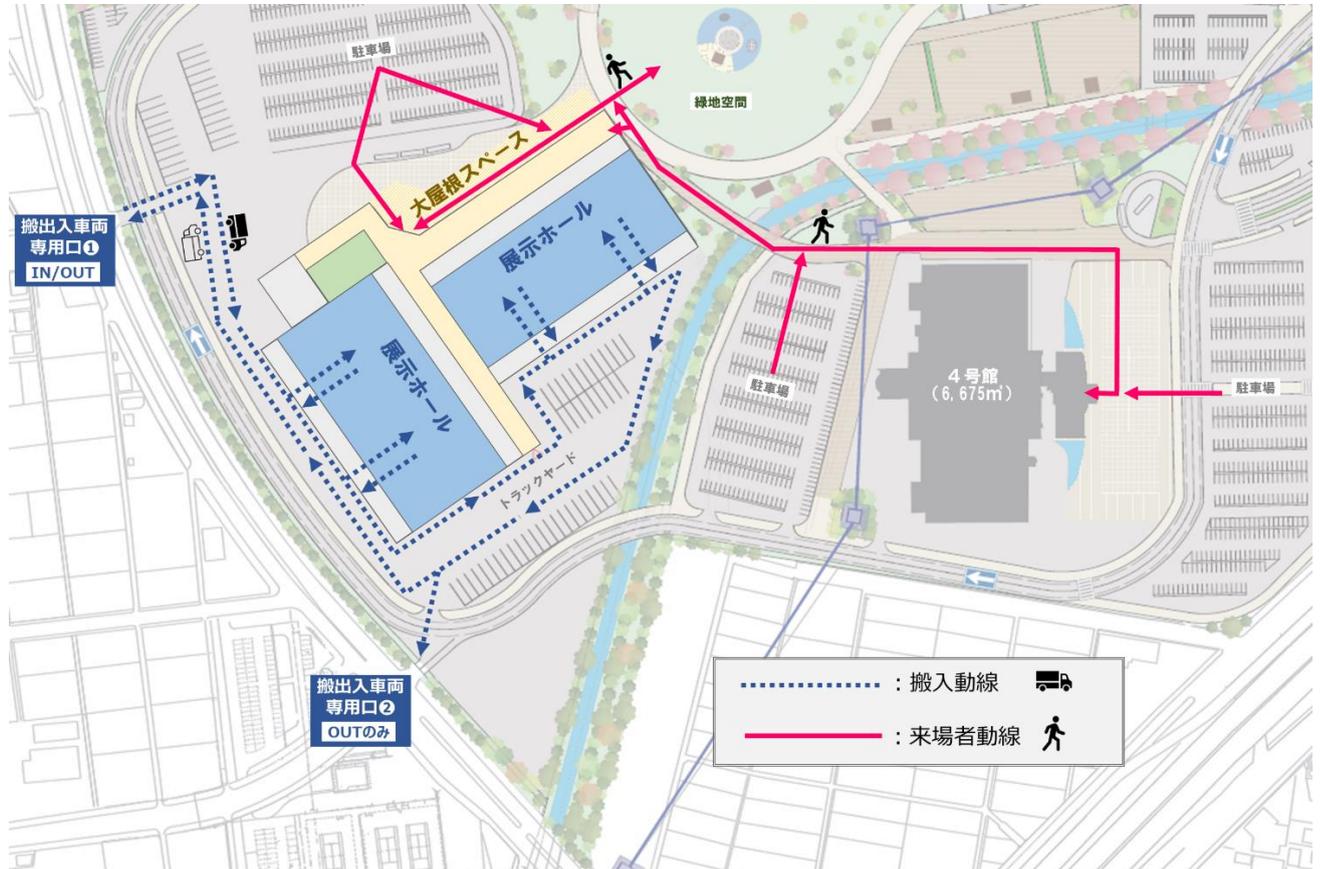
■諸室構成・仕様等②

エリア	事項	整備の方向性
共用・交流 スペース	ホワイエ	・必要十分な広さ・高さを確保したホワイエ空間を整備 (自動販売機やコインロッカー等のサービススペース含む)
	会議室	・展示会に併せたセミナーや商談のほか、全国大会等のコンベンションや小規模な展示会等の利用も可能な大・中・小の会議室を整備
	ワークスペース	・来場者や公園利用者等が気軽に利用できるワークスペースを整備 (ホワイエの一角に整備することを想定)
	トイレ	・施設内に分散配置し、必要数を確保
	その他	・パントリー (会議室に併設)、機械室等を整備
屋外スペース		・新産業展示館と緑地空間をつなぐ、大屋根スペースを整備
全館		<ul style="list-style-type: none"> ・全ての人にとって利用しやすいユニバーサルデザイン、バリアフリーを導入 ・最新のデジタル技術 (5G、Wi-Fi環境等) を導入 ・ZEB Ready (省エネ設備等の導入により建築物の年間のエネルギー消費を50%以上削減) 等の導入を検討 ・防災拠点として必要な機能や相応しい安全性を確保

※今後、変更の可能性はある。

(5) 搬入・来場者動線イメージ

- ◇ 搬入動線：円滑な搬入動線、十分な待機・転回スペースを確保します。
- ◇ 来場者動線：駐車場や現4号館、緑地空間とのアクセスを確保します。



※今後、変更の可能性がある。

8.2 イメージパース



東側からの全体鳥瞰パース



西側からの全体鳥瞰パース

8.3 今後の対応

今後、令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向けて多大な財政需要が見込まれる中、本プロジェクトについても大きな財政負担が見込まれることから、将来の県財政への影響を十分に見極めた上で対応を検討する。

参考資料

1. 西部緑地公園再整備構想検討委員会

(1) 検討委員（五十音順、敬称略）◎委員長

- 青木 隆 金沢工業大学基礎教育部 教授
伊藤 数子 NPO法人STAND 代表
浦橋 信一郎 (株)電通ライブ シニア・クリエイティブ・ディレクター
桂田 隆行 (株)日本政策投資銀行地域調査部 審議役
高山 純一 公立小松大学サステイナブルシステム科学研究科 教授
◎鏑 隆弘 金沢美術工芸大学刺繍デザイン専攻 教授
西村 幸夫 國學院大學観光まちづくり学部 学部長
長谷川由香 子育て向上委員会 代表
町田 誠 一般財団法人公園財団 常務理事

(2) アドバイザー

- 本田 圭佑 プロサッカー選手

(3) オブザーバー

- 津田 宏 金沢市都市政策局 担当次長兼企画調整課長

(4) 開催経緯

- ・第1回検討委員会（令和4年 8月25日開催、議題： 現状・課題 ）
- ・第2回検討委員会（令和4年12月27日開催、議題： 再整備の方向性）
- ・第3回検討委員会（令和5年 4月25日開催、議題： 骨子案 ）
- ・第4回検討委員会（令和6年 2～3月書面開催、議題： 構想とりまとめ）

2. 新県立野球場整備検討部会

(1) 検討委員（五十音順、敬称略）◎委員長

- ◎青木 隆 金沢工業大学基礎教育部 教授
池田 光一 石川県野球協会 副理事長
居村 吉記 石川県高等学校野球連盟 会長
小菅 司 公益財団法人日本スポーツ施設協会 専務理事
田中 弘幸 石川県障害者スポーツ協会 副会長
松本 彩乃 女子軟式野球チーム「ダラーズ」選手

(2) アドバイザー

- 山下 智茂 県立門前高校野球指導アドバイザー

(3) 開催経緯

- ・第1回検討委員会（令和4年 9月 1日開催、議題： 現状・課題 ）
- ・第2回検討委員会（令和4年12月22日開催、議題： 整備の方向性 ）
- ・第3回検討委員会（令和5年 4月21日開催、議題： 骨子案 ）
- ・第4回検討委員会（令和6年 2月書面開催、議題： 構想とりまとめ）

3. 西部緑地公園再整備「新産業展示館」整備検討部会

(1) 検討委員（五十音順、敬称略）◎委員長

尾崎 良一 石川県商工会連合会 専務理事
佐々木 和哉 一般社団法人日本展示会協会 事務局長
長井 延裕 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事
中村 健一 一般社団法人石川県鉄工機電協会 会長
成田 由里 株式会社ウーマンスタイル 代表取締役
◎西村 幸夫 國學院大學観光まちづくり学部 学部長
普赤 清幸 石川県商工会議所連合会 専務理事
藤 泰隆 一般社団法人日本コンベンション協会 代表理事 指名補佐
水野 一郎 金沢工業大学教育支援機構 教授
安江 雪菜 株式会社計画情報研究所 代表取締役社長

(2) 開催経緯

- ・第1回検討委員会（令和4年 8月25日開催、議題： 現状・課題 ）
- ・第2回検討委員会（令和4年12月27日開催、議題： 整備の方向性 ）
- ・第3回検討委員会（令和5年 4月21日開催、議題： 骨子案 ）
- ・第4回検討委員会（令和6年 2～3月書面開催、議題： 構想とりまとめ）